

2011中野区区民意識・実態調査 《報告書》

2012年（平成24年）2月

中 野 区

はじめに

昨年3月11日の東日本大震災、そして、大地震により引き起こされた原子力発電所事故では、甚大な被害が発生し、今なお多くの人々が復興に向け厳しい日々をおくられています。マグニチュード9.0、震度7という今回の大地震は、区の防災計画の想定を大きく上回っており、災害に対する区の実態・意識について、改めて見直すことを迫るものでした。

また、区では震災前から、支えあいネットワークの構築を区政の重要な取組みの一つとして推進してきておりますが、この震災の経験から人と人の絆、人とまちとのつながりを深め、広げていくことが、いざというときの安全・安心のためにも欠かせないと実感しています。

中野区では、区民の生活に関する実態や意識を様々な観点から調査することにより、多様化する区民ニーズの把握・分析を行い、区の施策をすすめていくための基礎資料とすることを目的として、「中野区区民意識・実態調査」を実施しています。

今回は、「定住意向」「生活環境の満足度」「施策への要望」などの経年の調査項目のほか、「生活の安全（防災）」では、東日本大震災当日の帰宅状況や地震に対する備え、また「生活の安全（見守り・支えあい）」では、ご近所同士の支えあいや見守りの必要性や活動への参加意向などをお聞きしました。

今回の調査結果は、区政運営の様々な場面で資料として活用してまいります。多くの皆さまにも参考としていただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民並びに関係者の皆さまに、心からお礼を申し上げます。

2012年（平成24年）2月

中野区長 田 中 大 輔

～ 目 次 ～

I	調査の概要	3
II	回答者の属性	9
III	質問と回答	13
IV	結果と分析	29
1	定住意向	29
	(1) 居住年数.....	29
	(2) 定住意向.....	32
	(2-1) 転出理由.....	37
	(3) 居住形態.....	40
	(4) 床面積.....	42
2	生活環境の満足度	45
	(1) 生活環境の満足度.....	45
	(2) 近所づきあいの程度.....	50
3	生活の安全（防災）	54
	(1) 「東日本大震災」発生直後の有用な情報源.....	54
	(2) 「東日本大震災」後の防災対策の変化.....	56
	(3) 地震に対する備え.....	58
	(4) 「東日本大震災」当日の帰宅状況.....	62
	(4-1) 「東日本大震災」当日の過ごし方.....	64
	(5) 「避難所」や「広域避難場所」の認識状況.....	65
	(6) 震災発生時の家族との集合場所.....	67
	(7) 震災時に必要な情報提供内容.....	69
	(8) 「東日本大震災」の復興支援活動意向.....	71
	(8-1) 復興支援内容.....	73
	(8-2) 今後の復興支援活動意向.....	74
	(9) 都市型水害の危険性.....	75
	(10) 都市型水害への対策.....	77
	(11) 都市型水害時に区に期待する情報提供内容.....	78

4	生活の安全（見守り・支えあい）	79
(1)	日常生活での不安	79
(1-1)	日常生活で不安を感じる理由	81
(2)	見守りサービスの必要性	83
(2-1)	必要だと思う見守りサービスの内容	85
(3)	ご近所同士の支えあいや見守りの必要性	86
(4)	近隣での支えあいや見守り活動への参加意向	88
(4-1)	参加したい活動内容	91
(5)	困った際の地域での相談先	92
(6)	近隣住民による見守り活動	94
(6-1)	見守りを受けたと思わない理由	98
5	施策への要望	99
(1)	区の施策への評価	99
(2)	区の施策への要望	102
V	集計表	115

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

広く区民を対象として、定住意向といった経年調査事項のほか、テーマ別調査を継続的に行うことにより、その時点での区民の行動や意識から区民のニーズを把握するとともに、その変遷をとらえ、施策立案のための統計的・基礎資料とする。

2 調査の内容

- (1) 定住意向
- (2) 生活環境の満足度
- (3) 生活の安全（防災）
- (4) 生活の安全（見守り・支えあい）
- (5) 施策への要望
- (6) フェイスシート

3 調査の設計

- (1) 対象地域 中野区全域
- (2) 調査対象 中野区民で20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布・訪問回収
- (6) 調査期間 平成23年7月19日（火）～平成23年8月8日（月）
- (7) 調査機関 株式会社タイム・エージェント

4 回収結果

- (1) 標本数 2,000
- (2) 回収数 1,395 (69.8%)
- (3) 有効回収数 1,395 (69.8%)
- (4) 回収不能数 605 (30.2%)

回収不能数 理由の内訳

	転居	不在	住所不明	調査拒否	入院・死亡	その他	合計
件数	42件	381件	18件	147件	5件	12件	605件
(%)	(6.9)	(63.0)	(3.0)	(24.3)	(0.8)	(2.0)	(100.0)

※（ ）内の百分比は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(5) 区民活動センター担当区域別調査区域図



地域	20歳以上の人口	標本数	有効回収数	有効回収率
南中野	24,467	199	152	76.4%
弥生・東部	41,039	335	222	66.3%
鍋横・桃園	29,964	241	154	63.9%
昭和・東中野	19,583	167	100	59.9%
上高田・新井	24,926	199	149	74.9%
江古田・沼袋	31,371	262	174	66.4%
野方・大和	33,565	273	209	76.6%
鷺宮・上鷺宮	39,585	324	235	72.5%
計	244,500	2,000	1,395	69.8%

※20歳以上の人口は平成23年7月1日現在

(6) 区民活動センター担当区域一覧

地域	担当町丁
南中野	南台1～5丁目、弥生町1～2丁目の一部、弥生町3～6丁目
弥生・東部	弥生町1～2丁目の一部、本町1～3丁目、本町4丁目の一部、中央1～2丁目 中央3丁目の一部、東中野1～2丁目、中野1丁目の一部
鍋横・桃園	本町4丁目の一部、本町5～6丁目、中央3丁目の一部、中央4～5丁目 中野1丁目の一部、中野2～3丁目、中野4～5丁目の一部
昭和・東中野	東中野3～5丁目、中野5丁目の一部、中野6丁目、上高田1～2丁目の一部 新井1丁目の一部
上高田・新井	上高田1～2丁目の一部、上高田3～5丁目、中野4～5丁目の一部 新井1～3丁目の一部、新井4～5丁目
江古田・沼袋	松が丘1～2丁目、江原町1～3丁目、江古田1～4丁目、沼袋1～4丁目
野方・大和	中野4丁目の一部、新井2～3丁目の一部、丸山1丁目、丸山2丁目の一部 野方1～4丁目、野方5～6丁目の一部、大和町1～3丁目、大和町4丁目の一部 若宮1～2丁目の一部
鷺宮・上鷺宮	丸山2丁目の一部、野方5～6丁目の一部、大和町4丁目の一部、若宮1～2丁目 の一部、若宮3丁目、白鷺1～3丁目、鷺宮1～6丁目、上鷺宮1～5丁目

5 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、百分比の合計が100%に満たない、または上回る場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべて比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 集計は、すべて単純集計、必要に応じて属性別クロス集計を行った。また、分析の必要に応じて設問間クロス集計を行った。
- (5) 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。また、設問間クロス集計についても、視点の明確化を図るため、必要選択肢にのみしぼって使用している場合があるため同様となっている。
- (6) グラフに表記されている「n=*」(*は数字)は、対象の母数を表している。
- (7) 上位5項目をあげる際、上位に「その他」が入った場合は、6項目目にあげている。
- (8) この調査の標本誤差は、おおよそ下表のとおりである。標本誤差は、次式によって得られ、①比率算出の基数(n)および②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \begin{array}{l} N = \text{母集団数} \\ n = \text{比率算出の基数 (回答者数)} \\ P = \text{回答の比率} \end{array}$$

(2段抽出)

回答の比率 (P) 基数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,395	±2.3%	±3.0%	±3.5%	±3.7%	±3.8%
1,200	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
800	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
600	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
400	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%

(注) 1 表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出した。

2 この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が1,395人であり、その設問中の選択肢の回答比率が70%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも3.5%である。」とみることができる。

II 回答者の属性

II 回答者の属性

図1 性・年代別

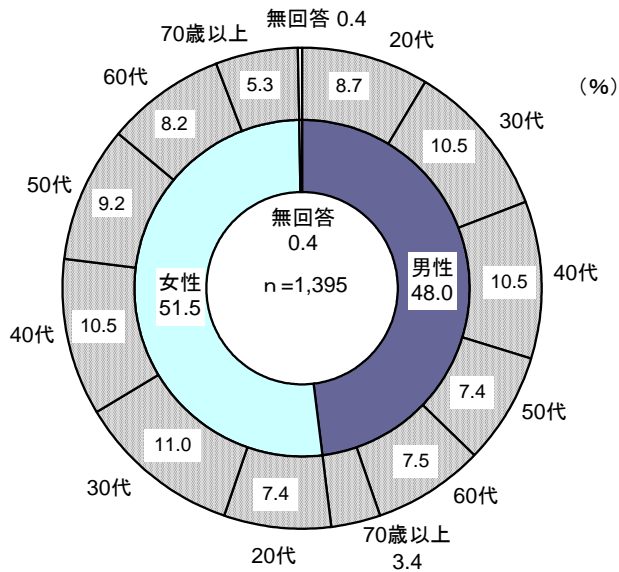


図2 年代別

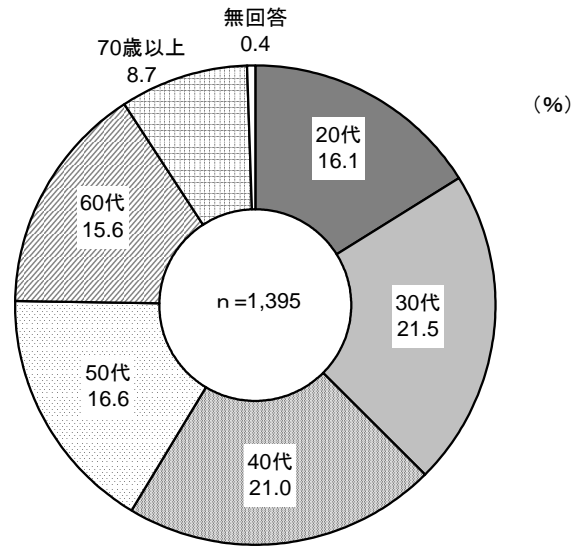


図3 母集団との比較 性・年代別

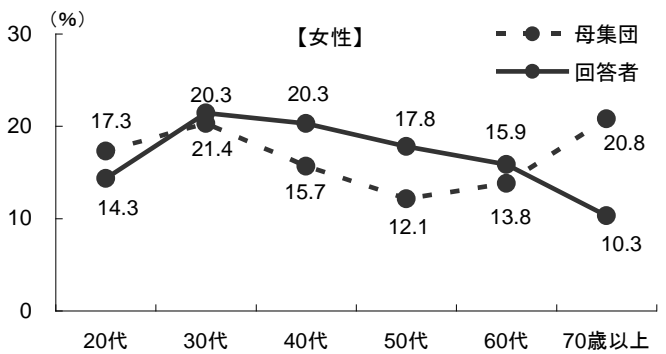
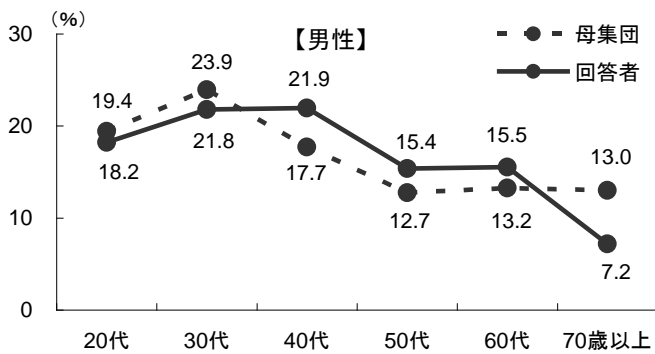


図4 職業

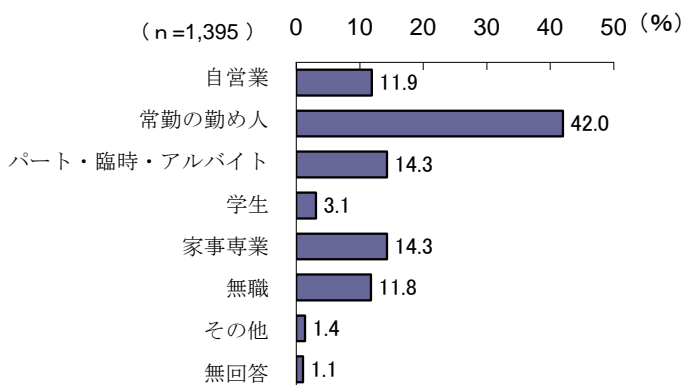


図5 通勤・通学先

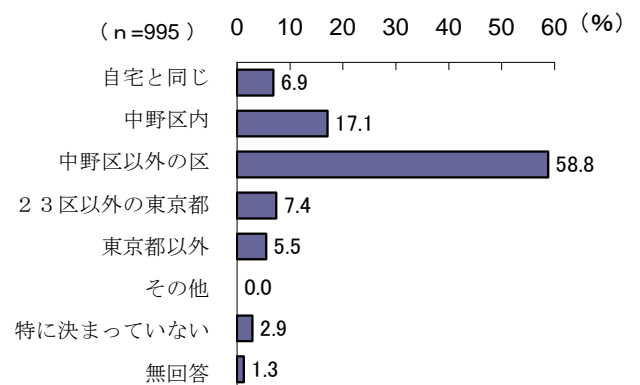


図6 世帯人員

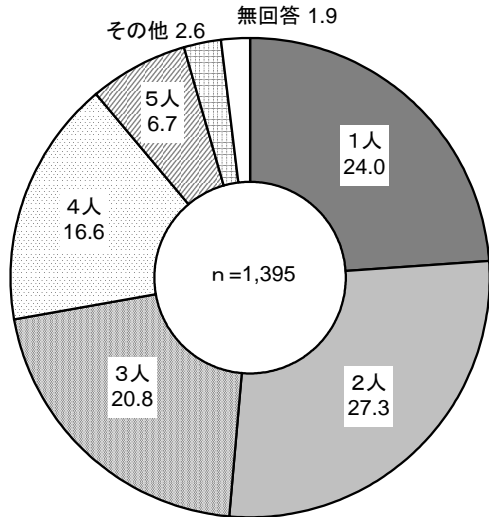


図7 家族形態

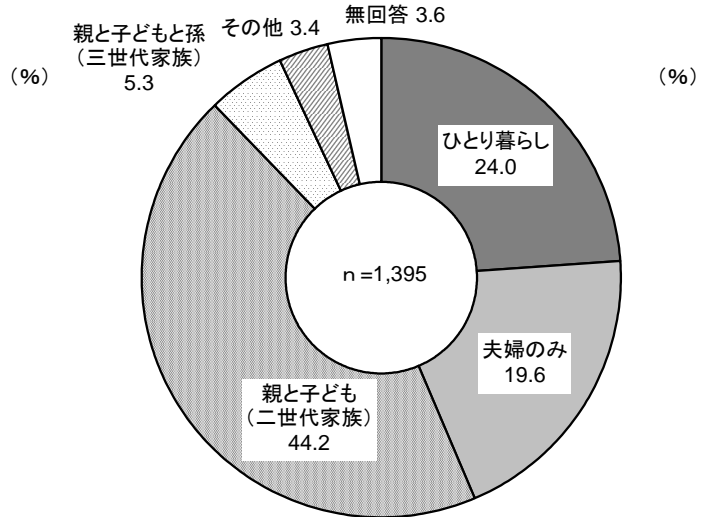


図8 ライフステージ

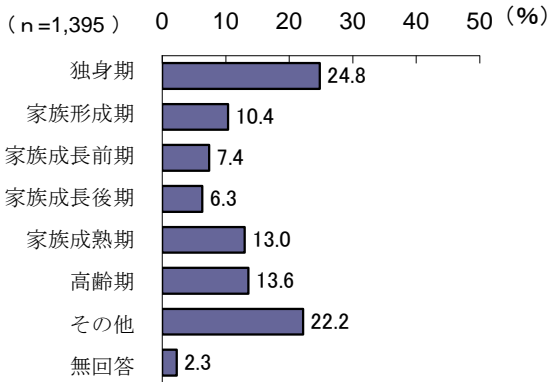
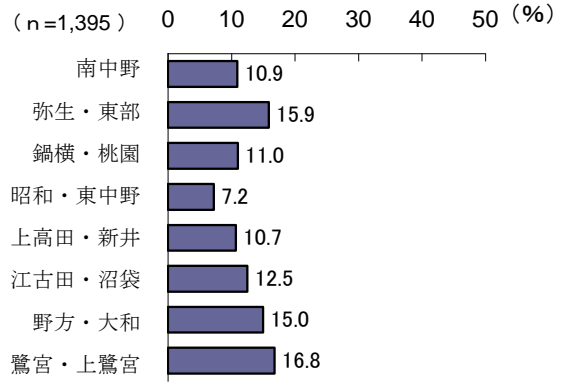


図9 地域別



独身期	→ 20・30代の独身
家族形成期	→ 20・30代で子どものいない夫婦、一番上の子どもが小学校入学前
家族成長前期	→ 一番上の子どもが小・中学生
家族成長後期	→ 一番上の子どもが高校・大学生
家族成熟期	→ 本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業
高齢期	→ 65歳以上
その他	→ 40～64歳で独身か夫婦のみ

図10 居住年数

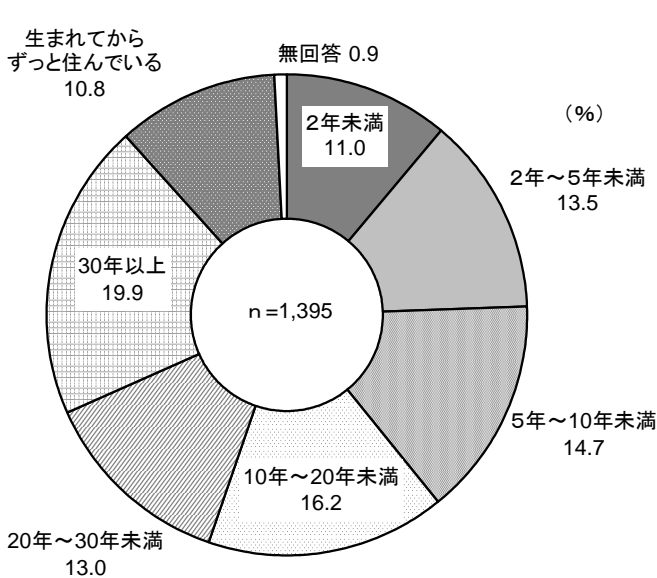
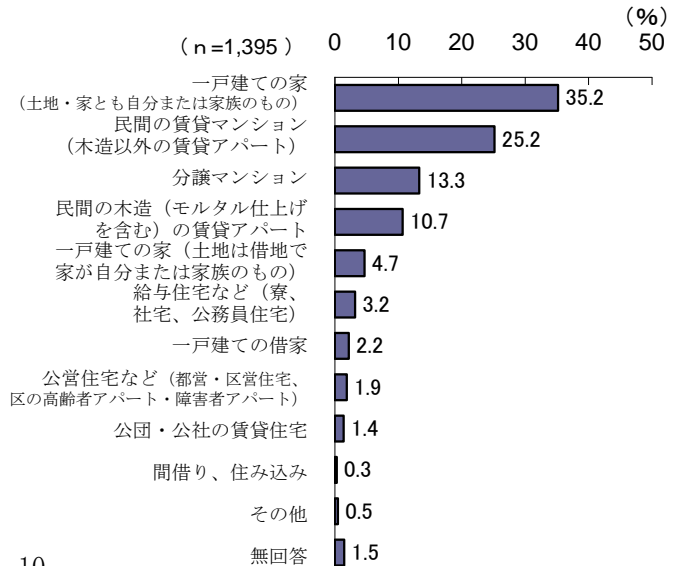


図11 居住形態



Ⅲ 質問と回答

Ⅲ 質問と回答

2011 中野区区民意識・実態調査

皆様におかれましては、日ごろから区政の運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび中野区では、区民の皆様の考えや、日常生活実態などをお伺いし、今後の区政推進の基礎資料とすることを目的に、「中野区区民意識・実態調査」を行うことといたしました。

今回の調査は、区内にお住まいの20歳以上の区民の皆様2,000人を対象に、「生活環境の満足度」「定住意向」「施策への要望」などについて実施します。

また、今回、あなた様にこの調査票をお送りしたのは、中野区民の中から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。調査は無記名でお願いし、お答えいただいた内容は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査の実施につきましては、世論調査の専門機関である「株式会社 タイム・エージェント」に委託しております。調査内容や回収方法について、ご不明の点などがありましたら、下記までお問い合わせください。

平成23年7月

中野区政策室企画分野政策情報担当

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票は、**あて名のご本人**がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごさいますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。

ご記入後、本調査票は、お手元で保管してください。

7月19日～8月8日までの間に、調査員が調査票をいただきにまいりますので、その際にお渡しくださいますようお願いいたします。なお、郵送による回答をご希望の方は、返信用封筒（中野区役所担当宛）をお届けしますので、株式会社 タイム・エージェント までご連絡ください。

<問い合わせ先>

調査内容については： 中野区政策室企画分野政策情報担当
〒164-8501 中野区中野四丁目8番1号
電話 03-3228-8892（直通）
（受付時間 土・日・祝日を除く 8:30 ～ 17:00）

回収については： 委託先：株式会社 タイム・エージェント
渋谷区円山町6番8号 松木家ビル3階
電話 03-3464-2770（担当：荒木）
（受付時間 土・日・祝日を除く 10:00 ～ 17:00）

※「地区番号」について

調査票右上の番号は、お住まいの地域に該当する01～15の番号です。統計的数値として処理し、個人を特定するものではありませんので、ご理解ください。

1 定住意向

問1 あなたは、中野区にお住まいになって何年になりますか。(一つに○) n=1,395

1	2年未満	11.0%	5	20年～30年未満	13.0
2	2年～5年未満	13.5	6	30年以上	19.9
3	5年～10年未満	14.7	7	生まれてからずっと住んでいる	10.8
4	10年～20年未満	16.2		無回答	0.9

問2 これからも引き続いて中野区にお住まいになりますか。(一つに○) n=1,395

問3へ	1	ずっと住み続けるつもり	29.7%	4	近いうち転出するつもり	1.9
	2	今のところは住み続けるつもり	48.7	5	わからない ---▶ 問3へ	7.0
	3	いずれ転出するつもり	10.1		無回答	2.7

【問2で「3 いずれ転出するつもり」「4 近いうち転出するつもり」と答えた方に伺います】

問2-1 中野区から転出する理由は何ですか。(いくつでも○) n=168

1	自分の結婚、学業、仕事などの都合のため	42.3%	7	現在の住宅の広さに不満があるため	18.5
2	家族の結婚、仕事などの都合のため	8.3	8	現在の住宅が古くなったから	5.4
3	子どもの誕生や成長、教育のため	8.9	9	持ち家を取得するため	6.5
4	親や子ども、友人などとの同居・別居のため	17.9	10	現在の住宅の家賃やローンが高いから	6.5
5	賃貸借契約などの期限切れ、家主からの立退き要求などのため	7.7	11	現在の住宅は通勤・通学に不便だから	5.4
6	現在の住宅の周りの環境に不満があるため	12.5	12	その他	9.5
				無回答	-

問3 現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。(一つに○) n=1,395

1	一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）	35.2%
2	一戸建ての家（土地は借地で家が自分または家族のもの）	4.7
3	一戸建ての借家	2.2
4	分譲マンション	13.3
5	民間の賃貸マンション（木造以外の賃貸アパート）	25.2
6	民間の木造（モルタル仕上げを含む）の賃貸アパート	10.7
7	公団・公社の賃貸住宅	1.4
8	公営住宅など（都営・区営住宅、区の高齢者アパート・障害者アパート）	1.9
9	給与住宅など（寮、社宅、公務員住宅）	3.2
10	間借り、住み込み	0.3
11	その他	0.5
	無回答	1.5

問4 現在お住まいの床面積の合計は、この中のどれにあたりますか。(床面積には、居室のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れなども含みます。)(一つに○) [参考 6畳=9.9㎡]

n=1,395

1	2.5㎡未満	14.0%	5	5.0～7.5㎡未満	19.8
2	2.5～3.0㎡未満	9.8	6	7.5～9.5㎡未満	12.1
3	3.0～4.0㎡未満	10.1	7	9.5㎡以上	17.9
4	4.0～5.0㎡未満	10.7		無回答	5.6

2 生活環境の満足度

問5 あなたは、自宅周辺の生活環境についてどのように感じていますか。項目ごとにお答えください。(それぞれ一つずつ○)

n=1,395

	良い	どちらかといえば良い	どちらかといえば悪い	悪い	無回答
(ア) 交通の便	61.2%	29.5	7.5	0.9	0.9
(イ) 買い物の便	46.9	37.3	11.8	2.7	1.4
(ウ) みどりの豊かさ	13.3	42.9	31.0	10.8	1.9
(エ) 公園や広場	13.5	41.4	31.8	11.5	1.7
(オ) 近所付き合い	11.2	45.2	27.5	13.9	2.3
(カ) 交通の安全性	18.9	49.2	24.5	4.9	2.5
(キ) 災害時の安全性	8.4	45.9	32.0	10.5	3.2
(ク) 風紀や治安	16.3	61.0	17.7	2.5	2.4
(ケ) 景観や街並み	11.2	53.6	28.0	4.9	2.3
(コ) 騒音や大気汚染	10.3	45.2	33.1	9.4	1.9
(サ) ごみ出しやリサイクル	20.3	61.6	13.3	2.9	1.9
(シ) 全体としての住みやすさ	24.4	64.7	8.2	0.7	2.0

問6 あなたは、隣近所の方々とどのようにお付き合いをされていますか。(一つに○)

n=1,395

1	家族ぐるみで親しくしているところがある	10.3%	4	会えばあいさつをする程度	43.0
2	困った時に協力しているところがある	11.3	5	ほとんど付き合いはない	17.4
3	ときどき世間話をする程度	16.6	6	その他	0.3
				無回答	1.0

3 生活の安全（防災）

問7 今年3月11日の「東日本大震災」発生直後、震災や被害状況などについて、あなたが有用な情報が得られたと思うものをあげてください。(いくつでも○) n=1,395

1	テレビ	83.9%	6	インターネット（twitter, mixiなどの※ ソーシャルネットワーク）	20.2
2	テレビの文字情報やデータ放送	13.0	7	インターネット（動画放送）	11.0
3	ラジオ	19.7	8	災害用伝言ダイヤル	2.7
4	新聞	32.8	9	その他	1.3
5	インターネットのホームページや掲示板	24.0	10	特にはなかった 無回答	1.9 0.7

※ソーシャルネットワーク：人と人のつながりをサポートする、コミュニティ型の登録制ウェブサイト

問8 「東日本大震災」の発生後、あなたは防災に対する備えを何か変えましたか。(一つに○)

n=1,395

1	大きく変えた	5.3%	4	変えていない	16.2
2	変えた	36.5	5	どちらともいえない	3.7
3	あまり変えていない	37.3		無回答	0.9

問9 地震に対して、あなたが現在おこなっている備えをあげてください。(いくつでも○)

n=1,395

1	消火器	20.8%	8	預金通帳などの貴重品の災害時に 備えた保管	23.2
2	懐中電灯・ローソク・マッチ	69.2	9	三角バケツや風呂水のため置き	13.5
3	携帯ラジオと乾電池	50.6	10	家具の固定	23.9
4	食料	34.1	11	家族で連絡方法などを話し合っている	
5	飲料水	55.1	12	その他	1.1
6	衣類	12.3	13	備えていない 無回答	13.0 0.9
7	救急医療品	18.9			

問10 「東日本大震災」の日に、あなたの帰宅の状況はいかがでしたか。(一つに○) n=1,395

1	帰宅できなかった	11.2%	3	特に困難は感じなかった	18.0
2	困難は感じたが帰宅はできた	35.3	4	外出していなかった	33.3
				無回答	2.2

【問10で「1 帰宅できなかった」「2 困難は感じたが帰宅はできた」と答えた方に伺います】

問10-1 当日は、どのように過ごしましたか。(一つに○) n=649

1	勤め先に泊った	13.4%	6	駅、ターミナルなどで交通機関が動くまで待った	11.2
2	民間の宿泊施設（ホテルなど）に泊った	1.5	7	交通機関が使えないため徒歩で帰宅した	39.9
3	知人・友人宅などに泊った	6.0	8	家族や知人・友人に迎えに来てもらった	3.9
4	自治体や民間施設が開放した避難施設で過ごした	1.5	9	バス・タクシーなどで帰宅した	7.2
5	24時間営業の飲食店などで過ごした	3.1	10	その他	7.4
				無回答	4.8

問11 ご自身が避難する「避難所」や「広域避難場所」の場所を知っていますか。(一つに○)

n=1,395

1	「避難所」は知っている	41.4%	3	両方とも知っている	17.2
2	「広域避難場所」は知っている	12.3	4	どちらも知らない	27.8
				無回答	1.3

※避難所：被災者の収容、負傷者の救護、安否確認などの情報収集・提供、被災者への物資の配布、給水、給食などを行う地域の救援・救護活動の拠点（区内50か所の小中学校など）。
 広域避難場所：火災の拡大などにより地域にいたることが危険となった時に、一時的に避難する場所（12か所）。

問12 震災発生時の家族との集合場所をあらかじめ決めてありますか。(一つに○)

(集合場所の例：○○小学校避難所の校庭鉄棒前など)

n=1,395

1	決めている	36.1%	2	決めていない	61.1
				無回答	2.9

問13 震災が起きた時に、あなたが必要だと思う情報提供の内容はどのようなものですか。

(三つまで○)

n=1,395

1	避難所の場所	31.0%	8	家族・知人の安否確認	66.2
2	災害の規模や状況	49.7	9	病院などの情報	9.5
3	公共交通機関の状況	25.7	10	物資などの配給情報	20.9
4	周辺道路の損壊および復旧状況	4.8	11	今後の見通し	13.0
5	電気・ガス・水道の損壊および復旧状況	32.7	12	その他	0.5
6	避難などの行動についての指示	17.8	13	特になし	1.5
7	現在の区の対応状況	7.2		無回答	1.4

問14 「東日本大震災」の復興支援活動について、あなたはどのように考えますか。(一つに○)

n=1,395

1	支援した、または支援している	56.6%	4	あまり支援したくない	1.2
2	ぜひ支援したい	4.8	5	支援したくない	0.6
3	機会があれば支援したい	25.9	6	どちらともいえない	6.6
				無回答	4.3

問14-2へ

問15へ

【問14で「1 支援した、または支援している」と答えた方に伺います】

問14-1 あなたが行った、または行っている内容は、どのようなものですか。(いくつでも○)

n=790

1	被災地でのボランティア活動	1.9%	5	売上の一部が被災地支援につながる商品の購入	38.0
2	募金または義援金	92.9	6	被災地への旅行	2.9
3	支援物資の提供	15.3	7	その他	2.4
4	被災地が産地または製造元の商品の購入	30.9		無回答	-

【問14で「2 ぜひ支援したい」「3 機会があれば支援したい」と答えた方に伺います】

問14-2 あなたが行いたい内容は、どのようなものですか。(いくつでも○)

n=428

1	被災地でのボランティア活動	17.3%	5	売上の一部が被災地支援につながる商品の購入	45.1
2	募金または義援金	55.4	6	被災地への旅行	16.6
3	支援物資の提供	27.3	7	その他	0.2
4	被災地が産地または製造元の商品の購入	37.1		無回答	4.4

問15 近年、都市部では台風などによる河川氾濫^{はんらん}のほか、下水の逆流などによる※内水氾濫などがあります（以下「都市型水害」という）。あなたはそれらの氾濫の危険を身近に感じるがありますか。（一つに○）

n=1,395

1	よく感じる	5.7%	4	全く感じない	18.3
2	ときどき感じる	28.2	5	どちらともいえない	6.0
3	ほとんど感じない	39.9		無回答	2.0

※内水氾濫（ないすいはんらん）：河川そのものの水があふれる河川氾濫ではなく、市街地に降った大雨により排水能力を超えた下水道から水があふれて、建物や道路が水につかってしまうこと。

問16 あなたは、都市型水害が起きた時に備え、普段から準備していることがありますか。

（いくつでも○）

n=1,395

1	非常持ち出し品の常備	22.3%	7	排水ポンプの準備	0.4
2	水、食料、医薬品などの常備	23.3	8	地下または1階にあまり物を置かない	
3	避難場所・避難経路を決めている				0.6
		8.3	9	区の洪水ハザードマップの確認	4.4
4	災害時の対応行動を決めている	4.7	10	防災情報メールマガジンへの登録	
5	浸水に備えた建築方法・設備の工夫				1.1
		1.0	11	その他	0.3
6	土のうの準備	1.6	12	特にはしていない	60.2
				無回答	2.2

問17 都市型水害があなたの身近に起きた際、あなたが区に期待する情報提供の内容はどのようなものですか。（いくつでも○）

n=1,395

1	大雨などによる被害の発生状況	58.4%	6	これからの気象予報	33.1
2	避難場所についての情報	48.2	7	避難時の行動指示	37.8
3	近くの河川の水位	35.3	8	水害などに対して危険な場所の位置	
4	道路の通行止めなどの情報	25.4			44.7
5	現在の区の対応状況	25.7	9	その他	0.2
			10	特にない	8.2
				無回答	1.3

4 生活の安全（見守り・支えあい）

問18 あなたは、ご自身の健康状態、社会とのつながり、経済状況などについて不安や心配を感じる
 ことがありますか。(一つに○) n=1,395

1 よく感じる	13.5%	4 感じない	11.8
2 ときどき感じる	34.8	5 わからない	5.2
3 ほとんど感じない	33.3	無回答	1.5

【問18で「1よく感じる」「2 ときどき感じる」と答えた方に伺います】

問18-1 その理由は何ですか。(いくつでも○) n=674

1 同居の家族がいない	17.7%	5 体調がよくない	16.3
2 収入や貯蓄が少ない	61.3	6 身近に頼れる人がいない	19.1
3 身体などに不自由がある	6.4	7 身近に頼れる施設や行政機関がない	
4 持病がある	16.2		14.5
		8 その他	8.0
		無回答	0.6

問19 民間、行政問わず、高齢の方や身体などに不自由がある方へのさまざまな見守りサービスがあり
 ますが、あなたご自身はこれらのサービスを必要だと思えますか。(一つに○) n=1,395

1 思う	53.3%	4 思わない	7.7
2 やや思う	18.2	5 どちらともいえない	7.5
3 あまり思わない	11.0	無回答	2.3

【問19で「1 思う」「2 やや思う」と答えた方に伺います】

問19-1 あなたが必要だと思うサービスの内容は何ですか。(いくつでも○) n=998

1 監視機器などを利用した安否確認	25.3%	6 訪問による生活相談・話し相手	53.5
2 呼び出しなどに応じた駆け付け	49.0	7 外出時の付添いや買い物	29.1
3 非常時（災害など）の自動通報・駆け付け	47.4	8 食事などの宅配	36.3
		9 掃除・洗濯などの家事の手伝い	32.6
4 GPS（位置情報）を利用した家族などへ のお知らせ	19.4	10 その他	1.3
		無回答	1.1
5 定期訪問による安否確認	57.2		

問20 あなたは、これら民間や行政のサービス以外に、ご近所同士の支えあいや見守りが必要だと思いますか。(一つに○) n=1, 395

1 思う	39.5%	4 思わない	6.7
2 やや思う	34.7	5 どちらともいえない	9.0
3 あまり思わない	8.7	無回答	1.4

問21 あなたご自身は、近隣の高齢の方や身体などに不自由がある方に対しての見守りや、支えあいの活動に参加したいと思いますか。(一つに○) n=1, 395

1 ぜひ参加したい	3.7%	3 参加したいとは思わない	21.1
2 機会があれば参加したい	40.4	4 どちらともいえない	31.8
		無回答	3.0

【問21で「1 ぜひ参加したい」「2 機会があれば参加したい」と答えた方に伺います】

問21-1 あなたが具体的にしたいと思うことは何ですか。(いくつでも○) n=614

1 病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け	59.9%	5 相談ごとの相手	16.1
2 一人暮らしの高齢者などの見守り	40.9	6 簡単な家事や買い物などの手伝い	31.4
3 子どもの一時預かり、外遊びの見守り	18.7	7 近所への外出時などの付き添い	17.3
4 話し相手	36.5	8 その他	1.5
		無回答	1.0

問22 あなたが困った時にその地域で相談できる人や場所がありますか。(いくつでも○)

n=1, 395

1 家族	60.9%	6 町会長や役員など	3.4
2 近くに住んでいる友人	35.9	7 地域の民生委員・児童委員	2.4
3 近くに住んでいる親戚	13.4	8 その他	2.2
4 区役所や行政機関	9.5	9 相談できる人や場所はない	11.0
5 おとなりの人	7.1	10 相談しない	5.9
		無回答	2.6

問23 あなたご自身は、自立した生活に不安を感じるようになった時、近隣の住民の方による見守りを受けたいと思いますか。(一つに○)

n=1,395

1	思う	12.0%	3	あまり思わない	24.3
2	やや思う	28.0	4	思わない	11.7
			5	どちらともいえない	22.0
				無回答	2.0

【問23で「3 あまり思わない」「4 思わない」と答えた方に伺います】

問23-1 その理由は何ですか。(いくつでも○)

n=502

1	自分のことは自分でしたい	46.2%	5	そうしたサービスは行政が提供するもの	
2	そうしたサービスがなくてもやっていける自信がある	6.0		だと思う	25.7
3	プライバシーに干渉されるのが嫌だ	43.2	6	別の方法を取りたい(有料サービスを利用する、施設に入るなど)	31.3
4	個人情報を知られるのが嫌だ	20.1	7	その他	7.2
				無回答	0.6

5 施策への要望

問24 つぎにあげる施策の中で、中野区が力を入れていると評価できるものを三つ以内で選び、番号を□内に記入してください。

また、今後特に力を入れてほしいものを三つ以内で選び、第1位から第3位までの順位をつけて、それぞれの番号を□内に一つずつ記入してください。

n=1, 395

	力を入れていると 評価できるもの	今後特に力を入れてほしいもの		
		第1位	第2位	第3位
1 平和	4.9%	1.5	0.4	0.6
2 人権	2.2	0.6	0.5	0.2
3 国際化	1.6	0.5	0.3	0.6
4 情報化（IT）の推進	3.4	2.2	1.0	0.9
5 防災	8.5	16.1	7.7	5.1
6 防犯	15.6	8.0	9.4	5.5
7 地域・自治活動	9.7	1.1	0.7	1.5
8 産業振興	5.2	2.7	3.0	4.2
9 消費者支援	0.8	1.2	2.7	1.5
10 環境改善	3.7	1.9	4.1	4.8
11 ごみ対策	29.7	2.4	2.9	3.6
12 子育て支援	5.0	8.6	4.8	2.8
13 子ども育成	4.8	1.9	4.4	2.0
14 男女平等	0.6	0.2	0.5	0.5
15 健康	8.5	3.1	3.3	4.4
16 公衆衛生	1.6	1.2	2.2	2.2
17 高齢者福祉	8.1	8.5	7.5	6.8
18 障害者福祉	4.6	1.5	2.4	2.0
19 低所得者支援	1.4	3.7	3.8	3.0
20 道路・交通	15.6	6.3	5.6	4.7
21 みどり・公園	11.1	6.0	8.2	7.7
22 住宅・まちづくり	3.7	1.9	4.2	4.1
23 駅前などの重点まちづくり	15.0	2.5	2.6	4.1
24 学校教育	3.5	2.9	2.4	4.1
25 文化・スポーツ	5.3	1.5	1.5	3.9
26 その他	0.5	1.1	0.4	0.9
27 特にない	13.3	1.1	0.0	0.4
無回答	19.0	9.7	13.6	17.9

6 フェイスシート

統計的に処理するために、あなた自身とご家族についてお聞きします。

F 1 あなたの性別はどちらですか。 n=1,395

1 男	48.0%	2 女	51.5
		無回答	0.4

F 2 あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。 n=1,395

1 20～24歳	6.5%	6 45～49歳	9.3	11 70～74歳	5.0
2 25～29歳	9.6	7 50～54歳	9.0	12 75～79歳	3.2
3 30～34歳	10.5	8 55～59歳	7.6	13 80～84歳	0.5
4 35～39歳	11.0	9 60～64歳	10.8	14 85～89歳	-
5 40～44歳	11.7	10 65～69歳	4.9	15 90歳以上	0.1
				無回答	0.4

F 3 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(主なもの一つに○) n=1,395

1 自営業	11.9%	5 家事専業	14.3
2 常勤の勤め人	42.0	6 無職	11.8
3 パート・臨時・アルバイト	14.3	7 その他	1.4
4 学生	3.1	無回答	1.1

↓ F 4 へ

【F 3で「1」～「4」に○をした方に伺います】

F 3-1 勤務先または通学先は、どちらですか。(一つに○) n=995

1 自宅と同じ	6.9%	5 東京都以外	5.5
2 中野区内	17.1	6 その他	-
3 中野区以外の区	58.8	7 特に決まっていない	2.9
4 23区以外の東京都	7.4	無回答	1.3

F 4 あなたに配偶者はいらっしゃいますか(届け出の有無に関係なく)。(一つに○) n=1,395

1 はい	54.2%	2 いいえ	44.4
		無回答	1.4

F 5 あなたにお子さんはいらっしゃいますか(同居・別居を問わない)。(1つに○) n=1,395

1 はい	46.8%	2 いいえ	51.0
		無回答	2.2

【F 5で「1 はい」に○をした方に伺います】

F 5-1 一番上のお子さんは、次のどれにあたりますか。(一つに○) n=653

1 就学前	11.9%	4 高校生	7.2	7 仕事をしている	48.9
2 小学生	11.6	5 短大・専門学校生	0.9	8 その他	7.2
3 中学生	5.2	6 大学生・大学院生	6.9	無回答	0.2

F 6 現在、いっしょにお住まいのご家族は、あなたを含め、何人ですか。(一つに○) n=1,395

1 1人	24.0%	4 4人	16.6
2 2人	27.3	5 5人	6.7
3 3人	20.8	6 その他	2.6
		無回答	1.9

【F 6で「2」～「6」に○をした方に伺います】

F 6-1 いっしょにお住まいのご家族は、あなたを含め、次のどれにあたりますか。(一つに○) n=1,033

1 夫婦のみ	26.4%	3 親と子どもと孫(三世代家族)	7.2
2 親と子ども(二世代家族)	59.6	4 その他	4.5
		無回答	2.2

これで調査は終了です。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

なお、この調査の集計結果(概要)は、平成24年2～3月頃に
区報とホームページでお知らせする予定です。

この調査票は再生紙を利用しています。

IV 結果と分析

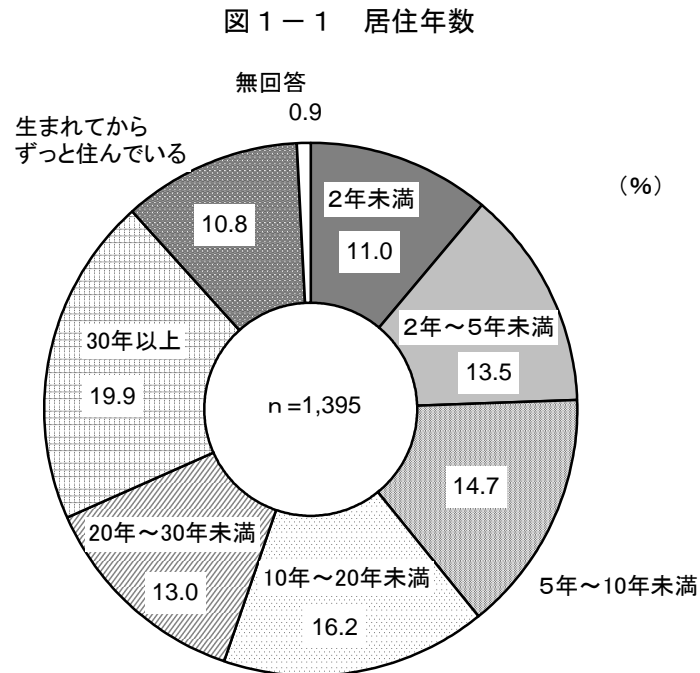
IV 結果と分析

1 定住意向

(1) 居住年数

◇『20年以上住んでいる』人が4割を超える

問1 あなたは、中野区にお住まいになって何年になりますか。(一つに○)

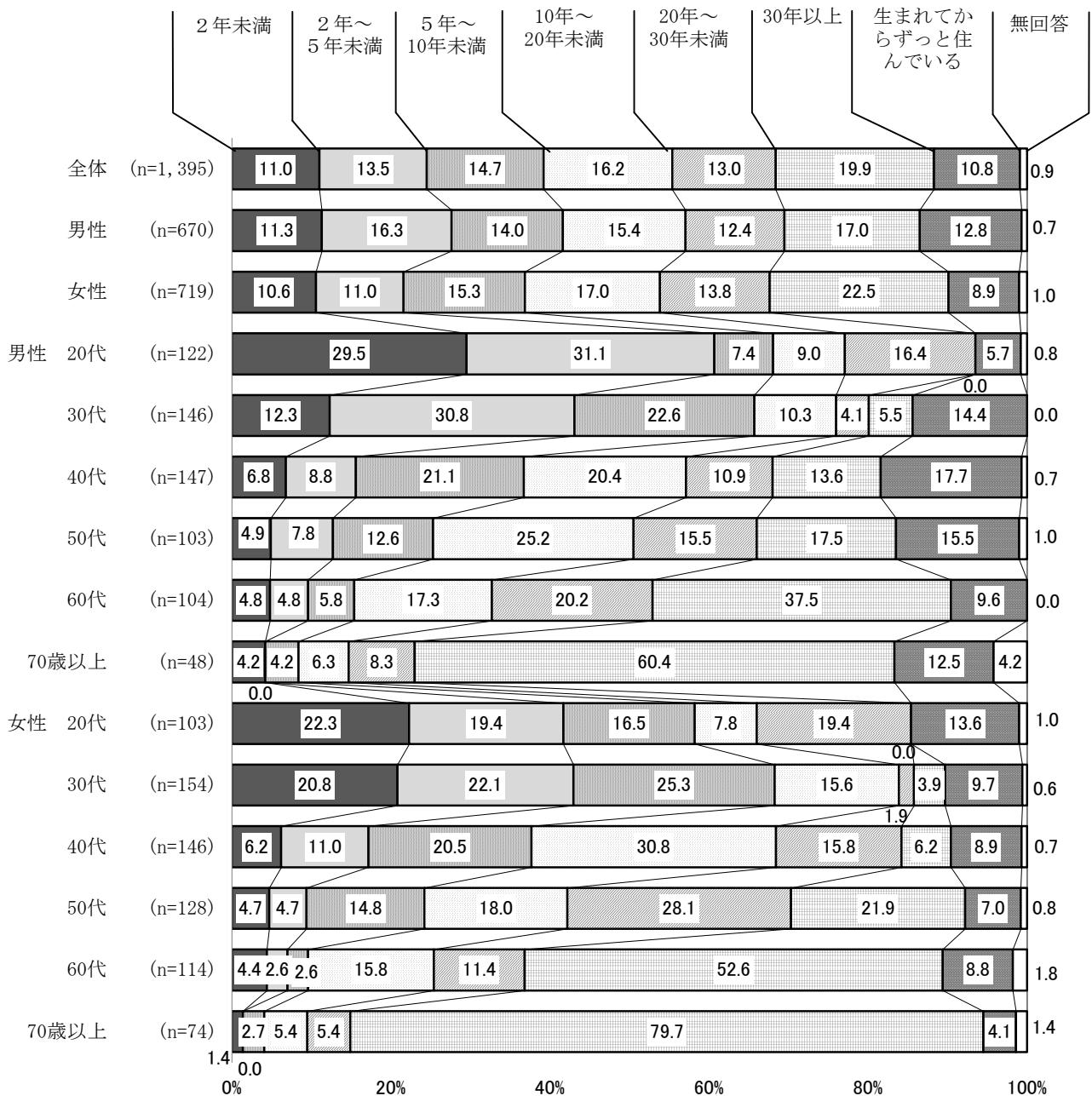


居住年数を聞いたところ、「20年～30年未満」、「30年以上」、「生まれてからずっと住んでいる」を合計した『20年以上住んでいる』人が4割を超えている。(図1-1)

性別でみると、『5年未満』（「2年未満」、「2年～5年未満」の合計）は、男性（27.6%）が女性（21.6%）より6ポイント高く、「30年以上」では女性（22.5%）が男性（17.0%）より5.5ポイント高くなっている。

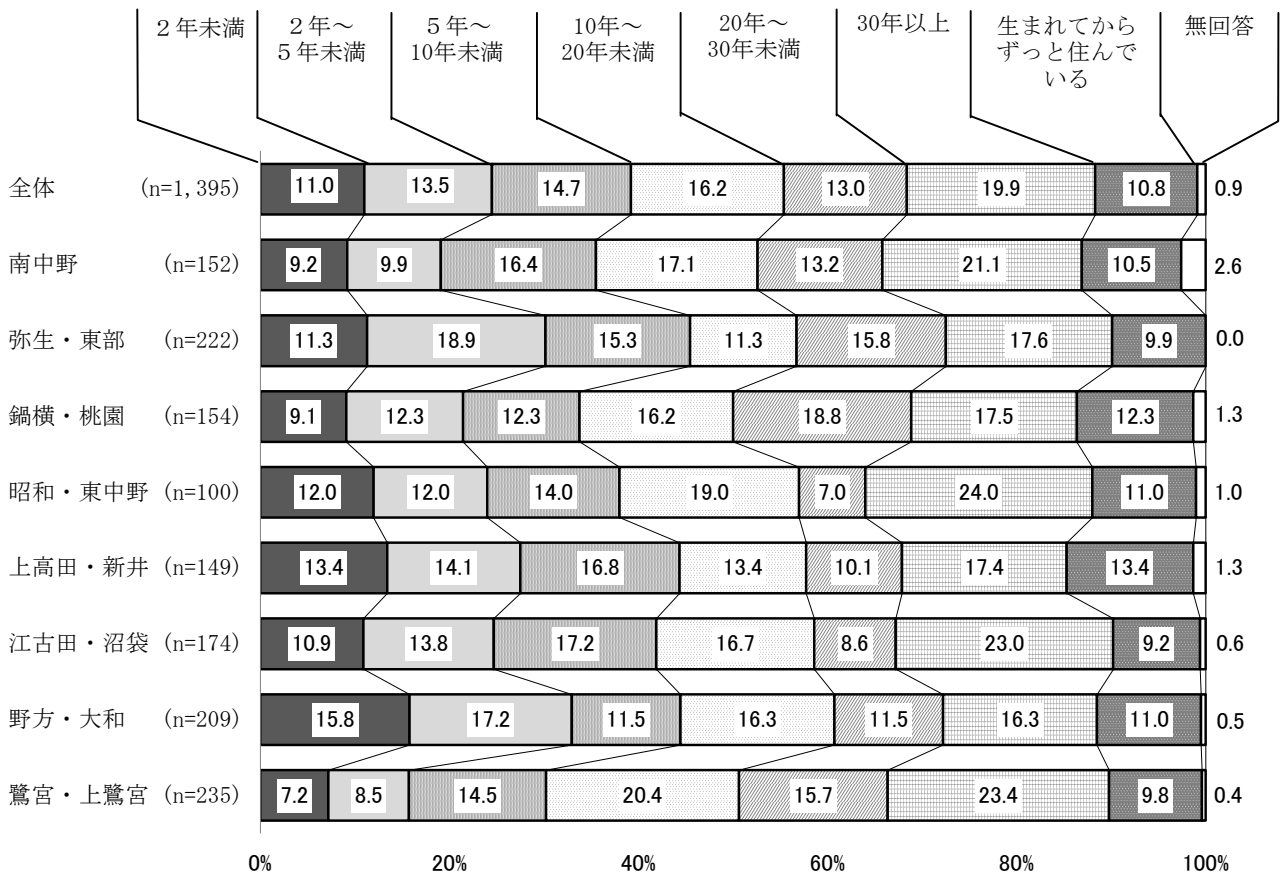
性・年代別でみると、男性20代では約6割、男性30代、女性20代・30代では約4割が『5年未満』であり、70歳以上では男女とも「30年以上」が圧倒的に高くなっている。（図1-2）

図1-2 居住年数、性別、性・年代別



地域別でみると、『5年未満』は弥生・東部、野方・大和の2地域で3割を超えている。一方、『20年以上住んでいる』は鷺宮・上鷺宮が最も高くなっている。(図1-3)

図1-3 居住年数、地域別

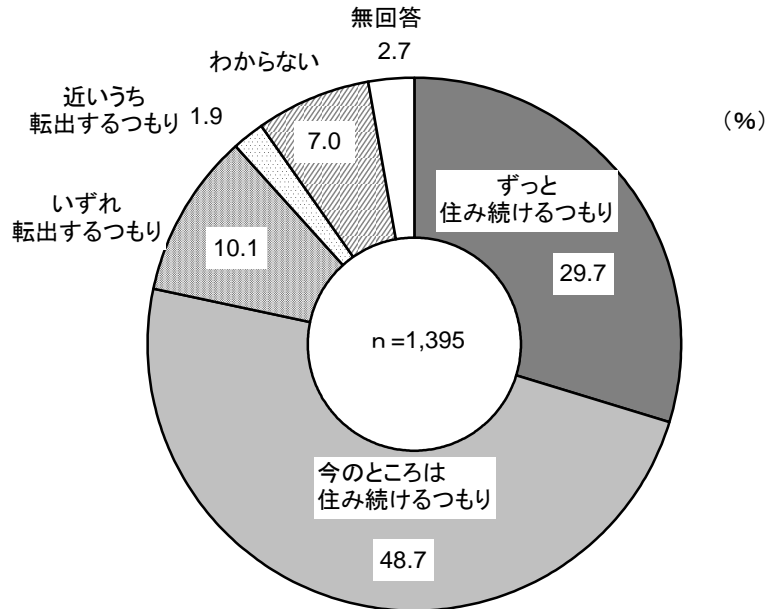


(2) 定住意向

◇『定住派』(「ずっと住み続けるつもり」、「今のところは住み続けるつもり」)は全体の8割近く

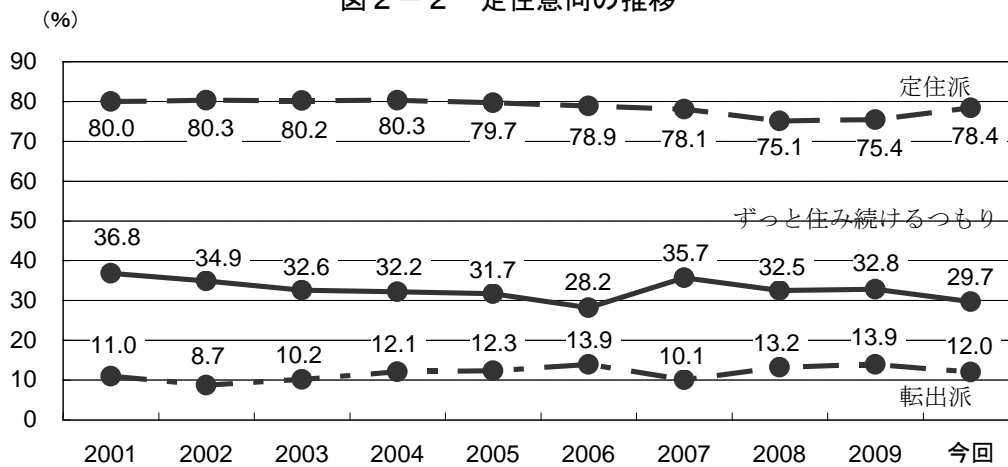
問2 これからも引き続いて中野区にお住まいになりますか。(一つに○)

図2-1 定住意向



定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けるつもり」、「今のところは住み続けるつもり」の合計を『定住派』、「いずれ転出するつもり」、「近いうち転出するつもり」の合計を『転出派』とすると、『定住派』が78.4%、『転出派』が12.0%となっている。(図2-1)

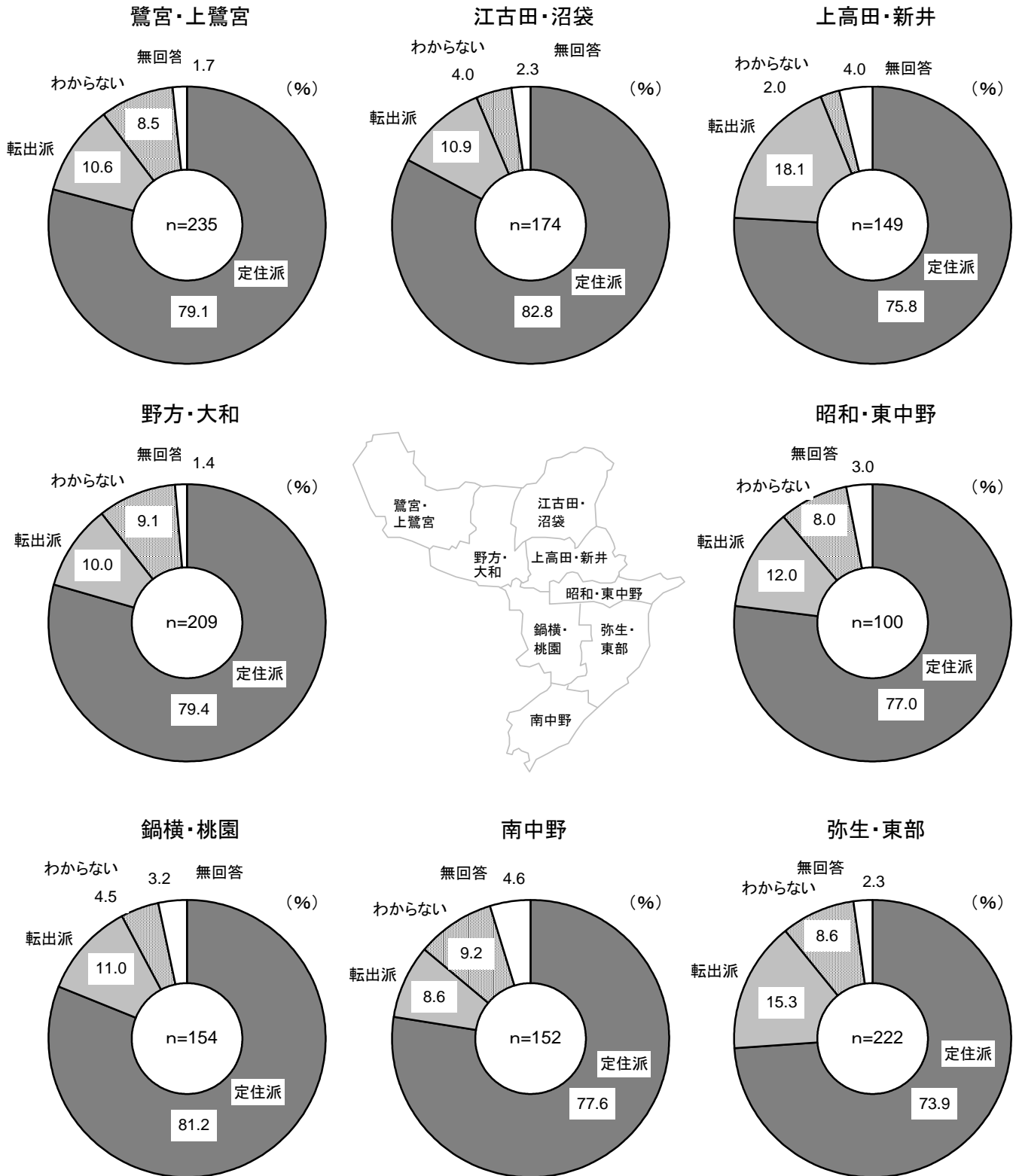
図2-2 定住意向の推移



定住意向の過去10年間の推移をみると、『定住派』は2005年以降減少傾向であったが、2009年から増加に転じ、前回より増加して78.4%となった。また、『転出派』は減少し12.0%となった。(図2-2)

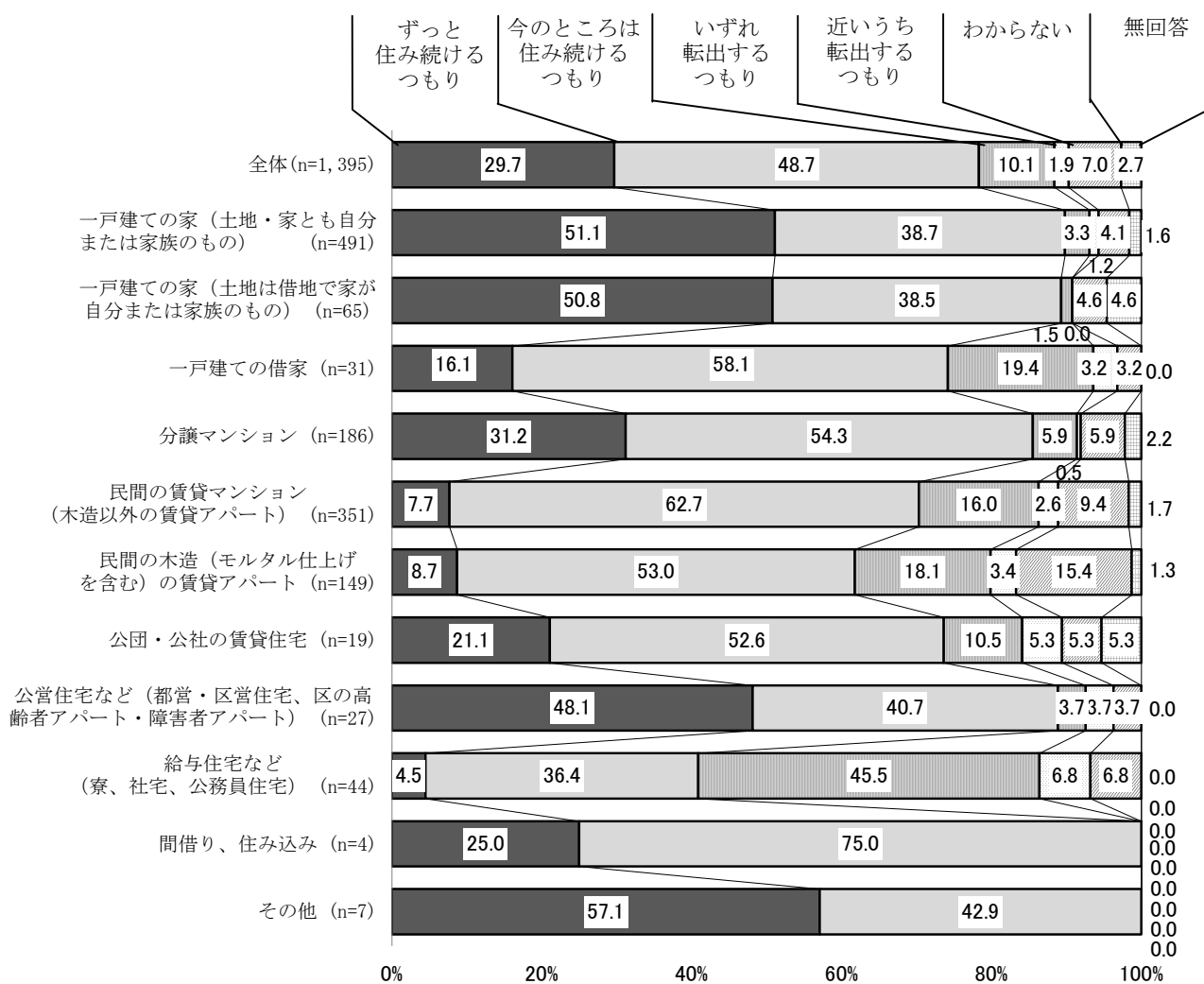
地域別でみると、『定住派』は、江古田・沼袋（82.8%）、鍋横・桃園（81.2%）が8割を超えている。一方、『転出派』は上高田・新井（18.1%）、弥生・東部（15.3%）がやや高くなっている。（図2-3）

図2-3 定住意向 地域別



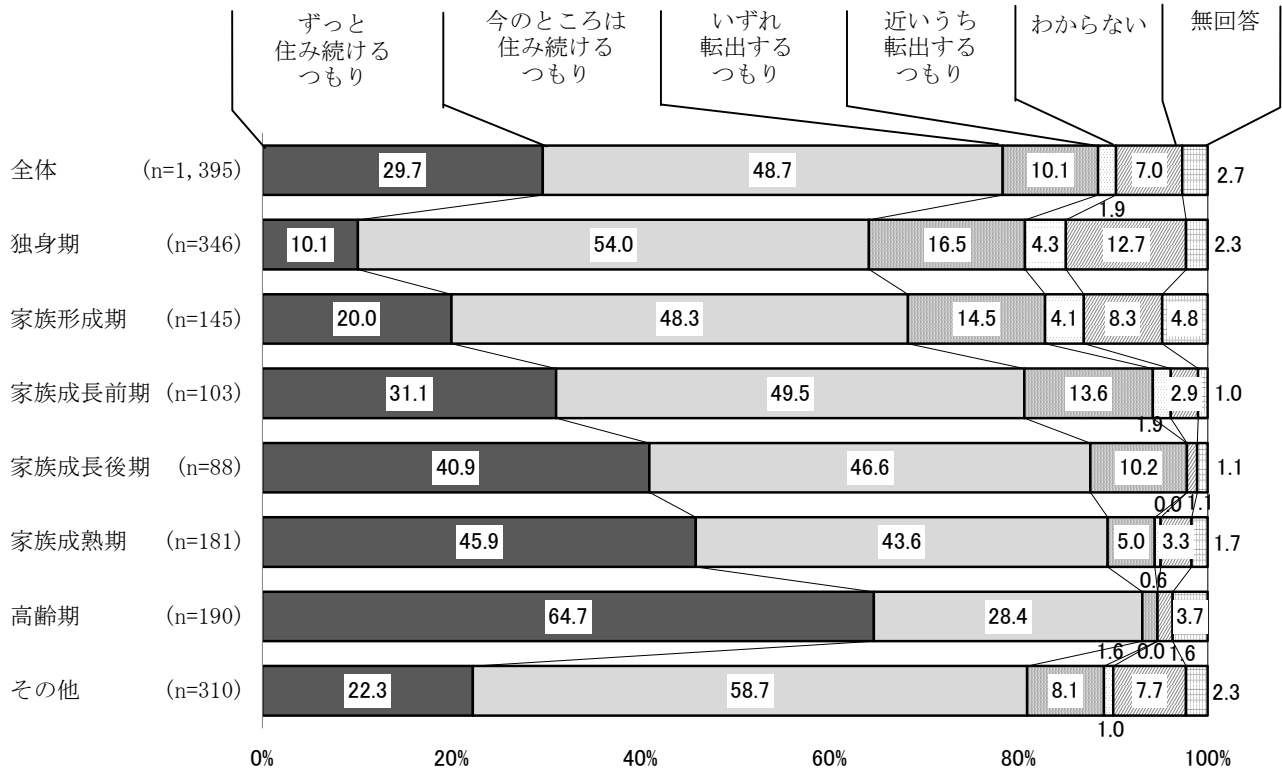
居住形態別でみると、「一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）」、「一戸建ての家（土地は借地で家が自分または家族のもの）」、「分譲マンション」、「公営住宅など（都営・区営住宅、区の高齢者アパート・障害者アパート）」では、『定住派』が8割を超えている。一方、「給与住宅など（寮、社宅、公務員住宅）」では『転出派』が5割を超えて高くなっている。（図2-4）

図2-4 定住意向 居住形態別



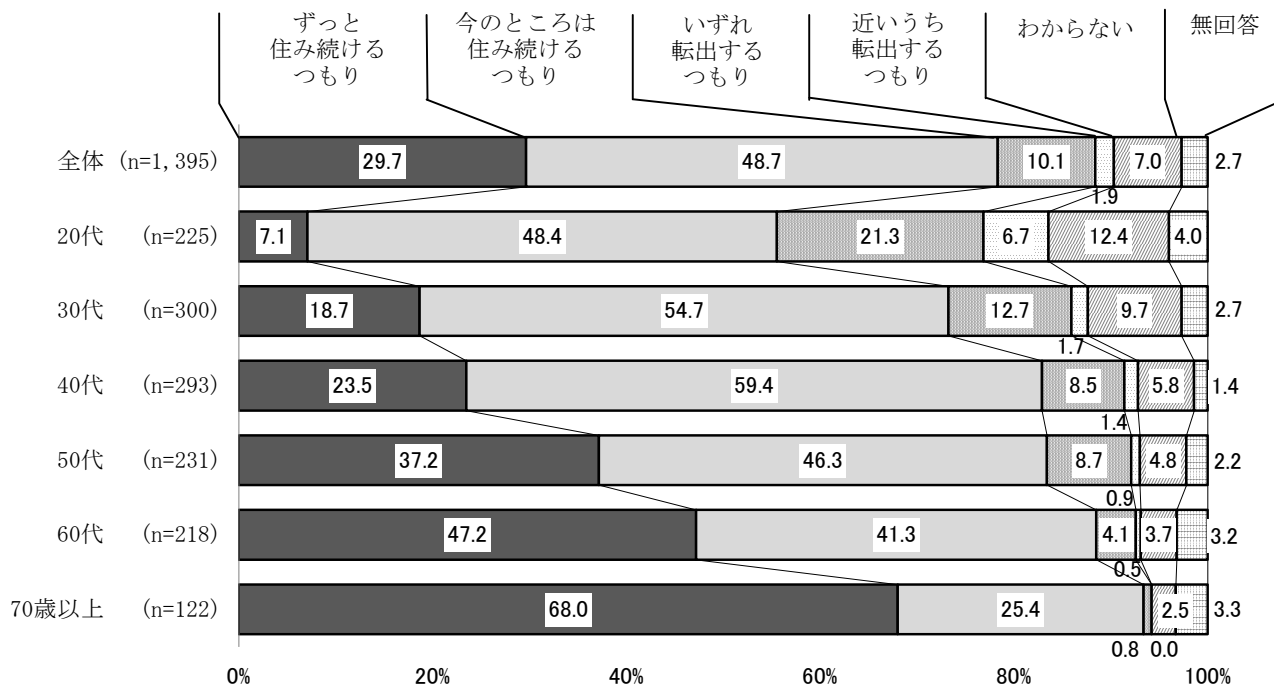
ライフステージ別で見ると、独身期から高齢期へすすむにつれて、「ずっと住み続けるつもり」が増加している。一方、「いずれ転出するつもり」は独身期（16.5%）、家族形成期（14.5%）、家族成長前期（13.6%）が他のライフステージよりやや高くなっている。（図2-5）

図2-5 定住意向 ライフステージ別



年代別でみると、『定住派』は年代が上がるにつれて高くなっており、中でも60代では半数近く、70歳以上では7割近くが「ずっと住み続けるつもり」となっている。一方、『転出派』は20代（28.0%）が他の年代に比べてかなり高くなっている。（図2-6）

図2-6 定住意向 年代別



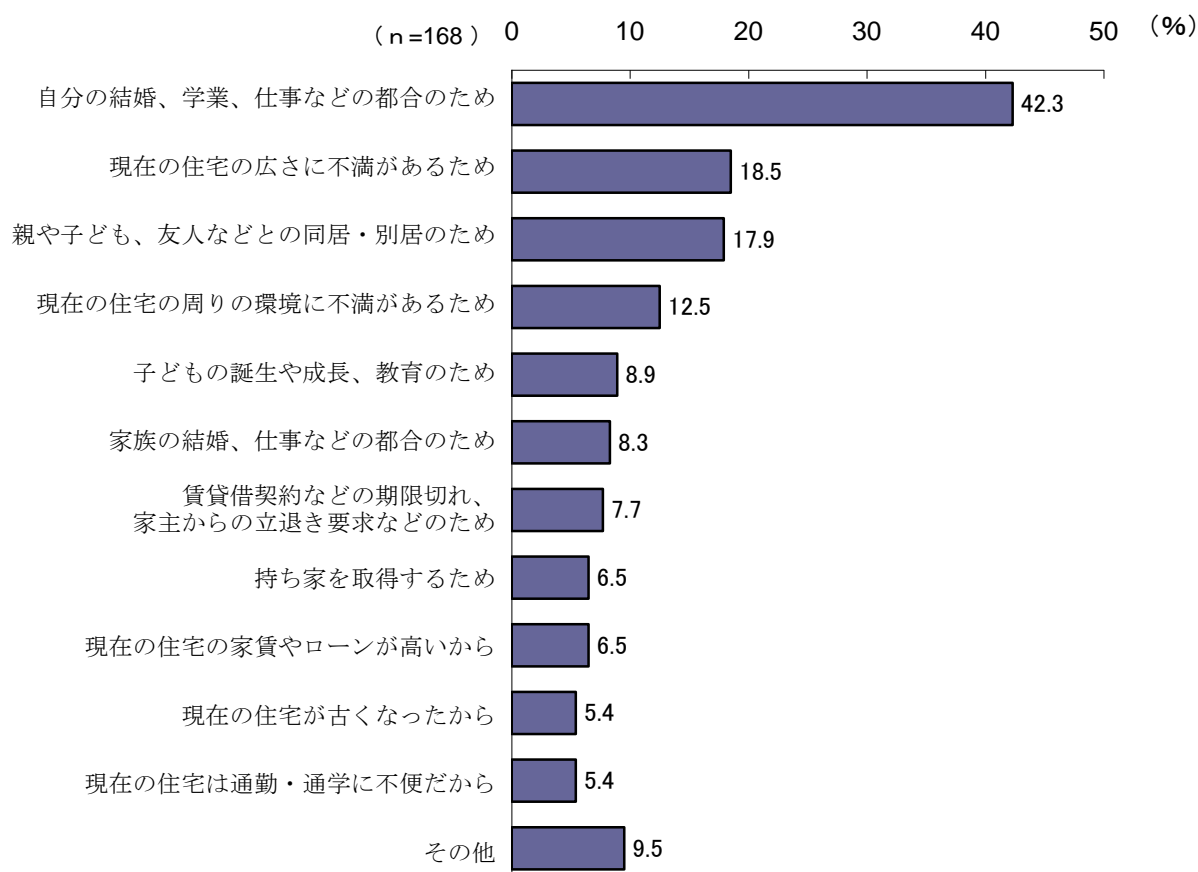
(2-1) 転出理由

◇「自分の結婚、学業、仕事などの都合のため」に転出が約4割

【問2で「3 いずれ転出するつもり」「4 近いうち転出するつもり」と答えた方に伺います】

問2-1 中野区から転出する理由は何ですか。(いくつでも○)

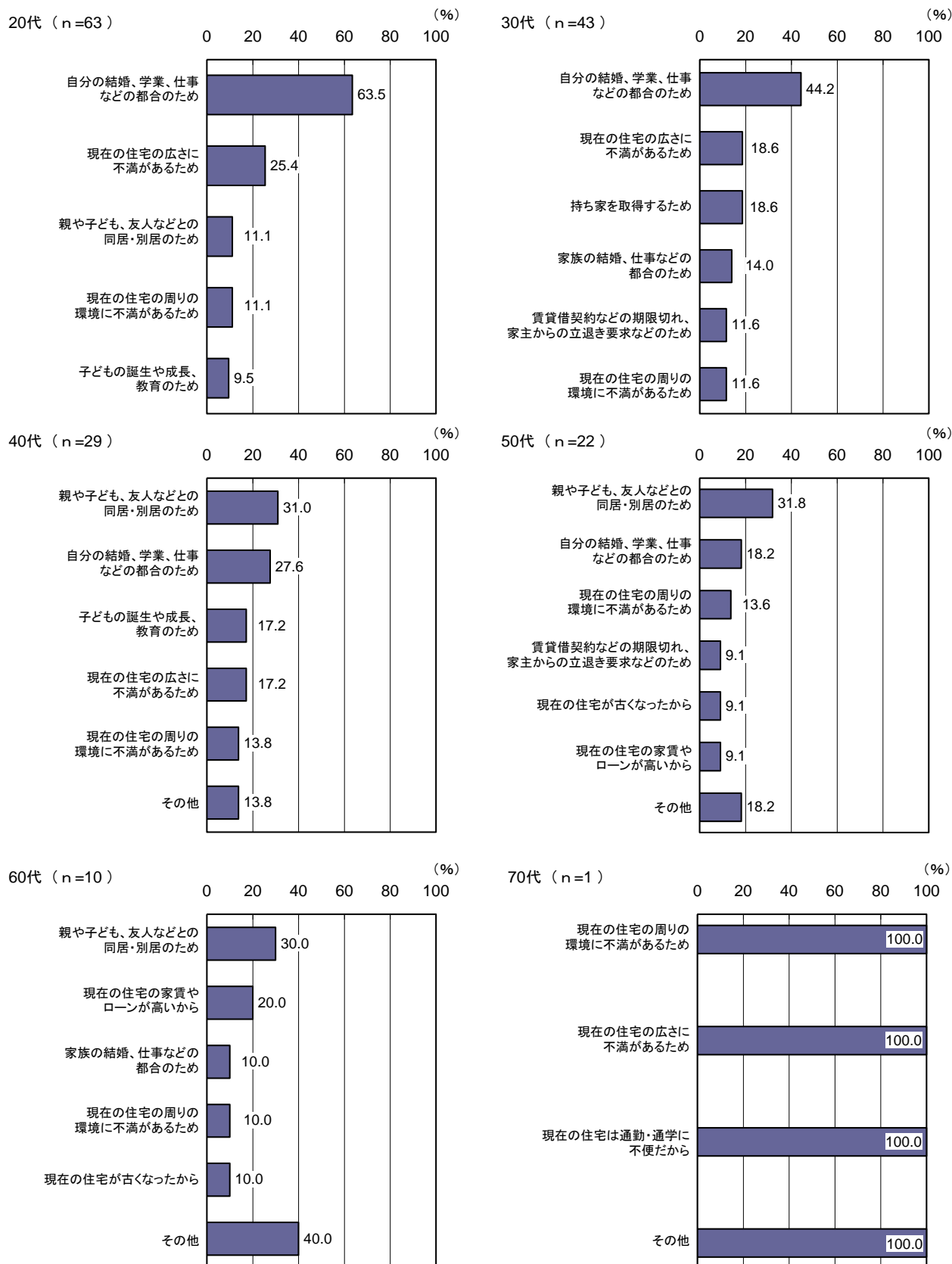
図3-1 転出理由



転出を考えている人に転出理由を聞いたところ、「自分の結婚、学業、仕事などの都合のため」(42.3%)が最も高く4割程度となっている。次いで「現在の住宅の広さに不満があるため」(18.5%)、「親や子ども、友人などとの同居・別居のため」(17.9%)、「現在の住宅の周りの環境に不満があるため」(12.5%)となっている。(図3-1)

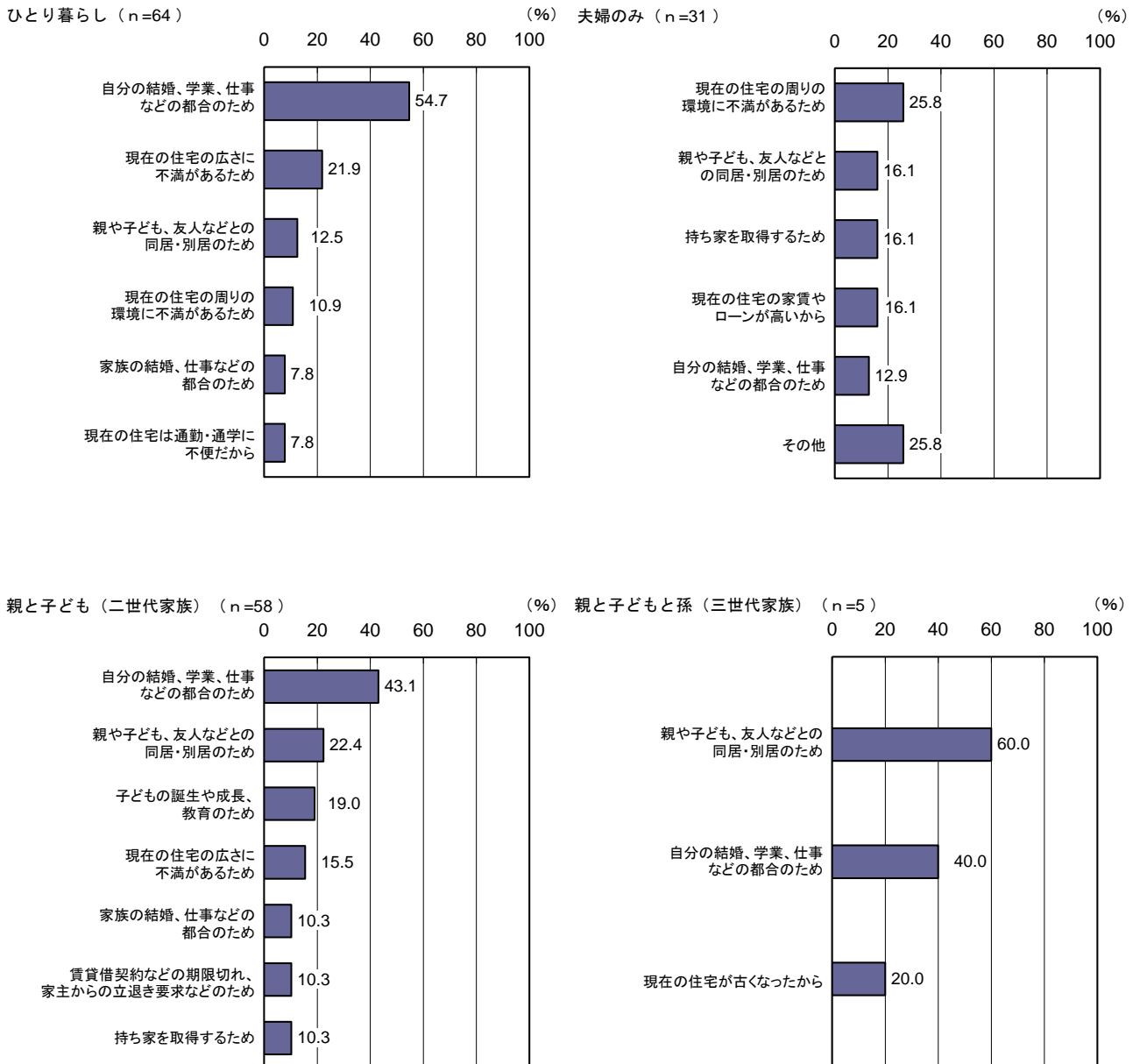
年代別でみると、20代、30代では「自分の結婚、学業、仕事などの都合のため」が1位となっており、特に20代では6割を超えている。また、40代、50代、60代では「親や子ども、友人などとの同居・別居のため」が1位となっている。（図3-2）

図3-2 転出理由 年代別（上位5項目）



家族形態別でみると、ひとり暮らし、親と子ども（二世世代家族）では「自分の結婚、学業、仕事などの都合のため」が1位となっており、ひとり暮らしでは5割を超えている。夫婦のみでは「現在の住宅の周りの環境に不満がある」が1位となっている。（図3-3）

図3-3 転出理由 家族形態別（上位5項目）

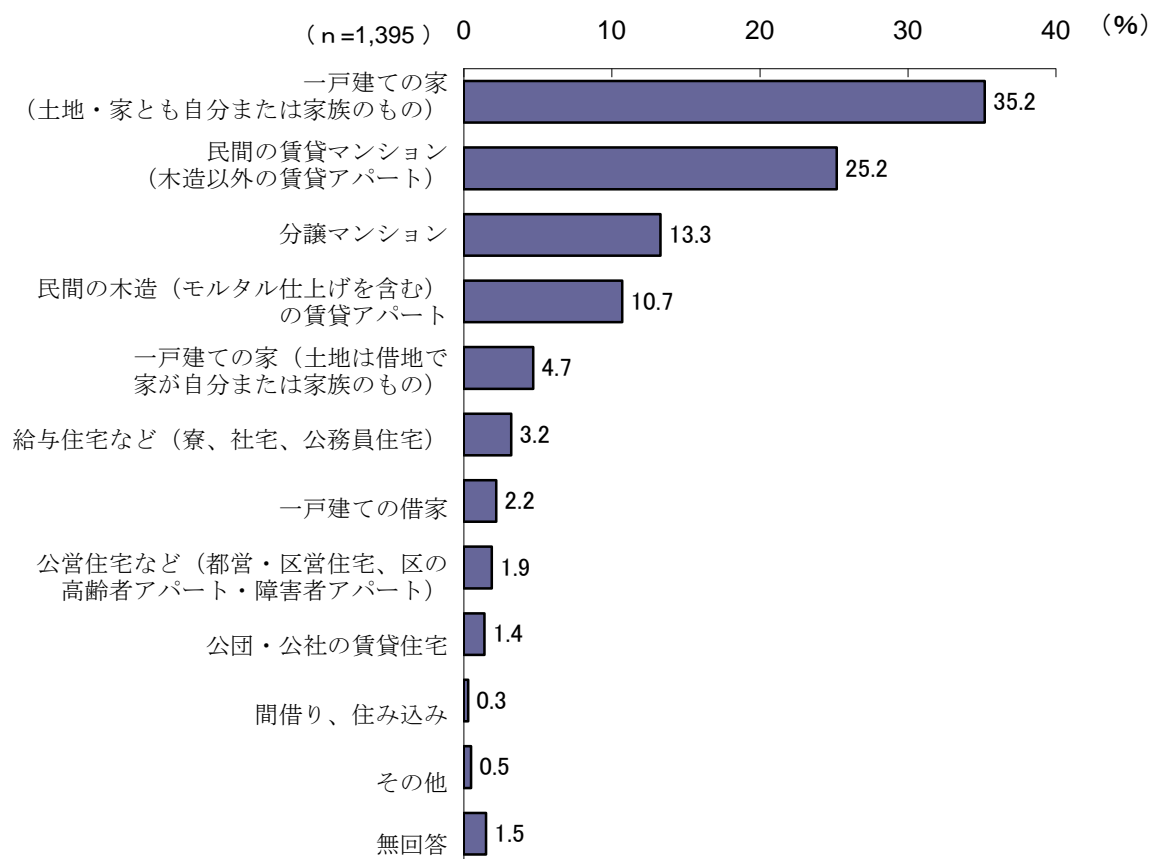


(3) 居住形態

◇「一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）」が3割半ば

問3 現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。（一つに○）

図4-1 居住形態



現在の住まいを聞いたところ、「一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）」（35.2%）が最も高く、次いで「民間の賃貸マンション（木造以外の賃貸アパート）」（25.2%）、「分譲マンション」（13.3%）、「民間の木造（モルタル仕上げを含む）の賃貸アパート」（10.7%）となっている。（図4-1）

地域別でみると、「一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）」は鷺宮・上鷺宮と江古田・沼袋で4割を超えている。また、「分譲マンション」は昭和・東中野が、「民間の賃貸マンション（木造以外の賃貸アパート）」は弥生・東部と野方・大和が、他の地域に比べ割合が高くなっている。

家族形態別でみると、『持ち家一戸建て』（「一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）」）は「親と子どもと孫（三世代家族）」が67.6%と最も高く、また、『民間賃貸住宅』（「民間の賃貸マンション（木造以外の賃貸アパート）」、「民間の木造（モルタル仕上げ含む）の賃貸アパート」の合計）は「ひとり暮らし」が合計で74.9%と最も高くなっている。（表4-1）

表4-1 居住形態 地域別 家族形態別

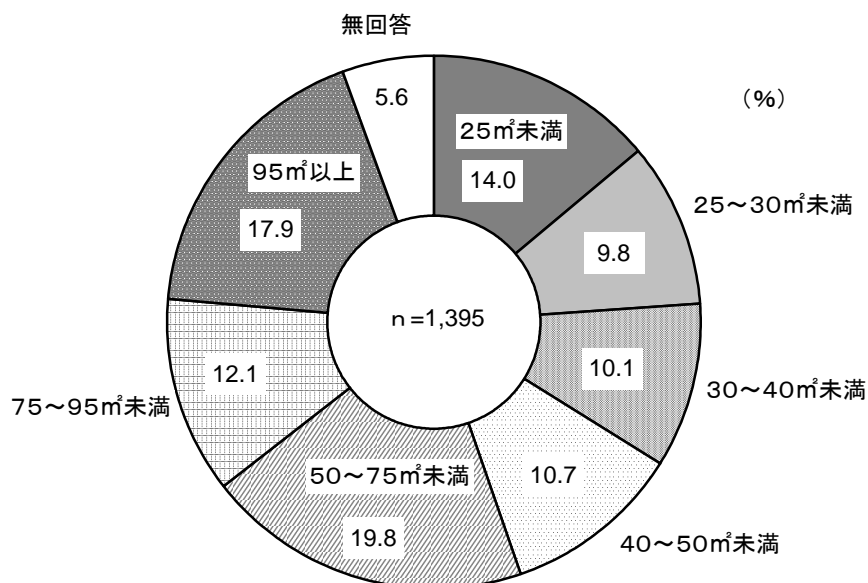
	一戸建ての家（土地・家とも自分または家族のもの）	一戸建ての家（土地は借地で家が自分または家族のもの）	一戸建ての借家	分譲マンション	民間の賃貸マンション（木造以外の賃貸アパート）	民間の木造（モルタル仕上げを含む）の賃貸アパート	公団・公社の賃貸住宅	公営住宅など（都営・区営住宅、区の高齢者アパート・障害者アパート）	給与住宅など（寮、社宅、公務員住宅）	間借り、住み込み	その他	無回答	
全体（n=1,395）	35.2	4.7	2.2	13.3	25.2	10.7	1.4	1.9	3.2	0.3	0.5	1.5	
地域別	南中野（n=152）	30.3	7.9	0.7	15.8	23.0	3.9	5.9	6.6	2.0	0.7	0.7	2.6
	弥生・東部（n=222）	29.7	3.6	0.5	15.8	35.1	8.6	0.5	0.5	4.5	0.5	0.5	0.5
	鍋横・桃園（n=154）	33.8	3.2	3.9	16.9	22.7	12.3	0.0	0.0	3.9	0.0	1.3	1.9
	昭和・東中野（n=100）	37.0	3.0	2.0	20.0	21.0	12.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	2.0
	上高田・新井（n=149）	28.2	8.1	1.3	12.1	25.5	10.7	0.7	2.0	8.1	0.7	0.0	2.7
	江古田・沼袋（n=174）	42.0	6.3	2.9	12.1	19.0	8.6	2.3	2.9	1.7	0.6	0.6	1.1
	野方・大和（n=209）	31.1	3.8	4.8	9.1	30.6	16.3	0.0	1.4	1.4	0.0	0.5	1.0
	鷺宮・上鷺宮（n=235）	46.8	2.6	1.7	9.8	20.0	11.9	1.7	2.1	2.1	0.0	0.0	1.3
家族形態別	ひとり暮らし（n=335）	6.6	0.3	0.9	9.6	44.8	30.1	0.3	2.1	3.0	0.3	0.3	1.8
	夫婦のみ（n=273）	31.5	3.3	2.2	18.7	26.7	8.1	2.9	1.1	2.9	0.7	0.4	1.5
	親と子ども（二世代家族）（n=616）	49.7	6.7	2.6	14.1	14.6	2.4	1.6	2.4	4.2	0.2	0.2	1.3
	親と子どもと孫（三世代家族）（n=74）	67.6	12.2	5.4	6.8	5.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
	その他（n=47）	12.8	2.1	4.3	10.6	53.2	12.8	0.0	2.1	0.0	0.0	2.1	0.0

(4) 床面積

◇ 『50㎡以上』が約半数

問4 現在お住まいの床面積の合計は、この中のどれにあたりますか。(床面積には、居住室のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れなども含みます。)(一つに○) [参考 6畳=9.9㎡]

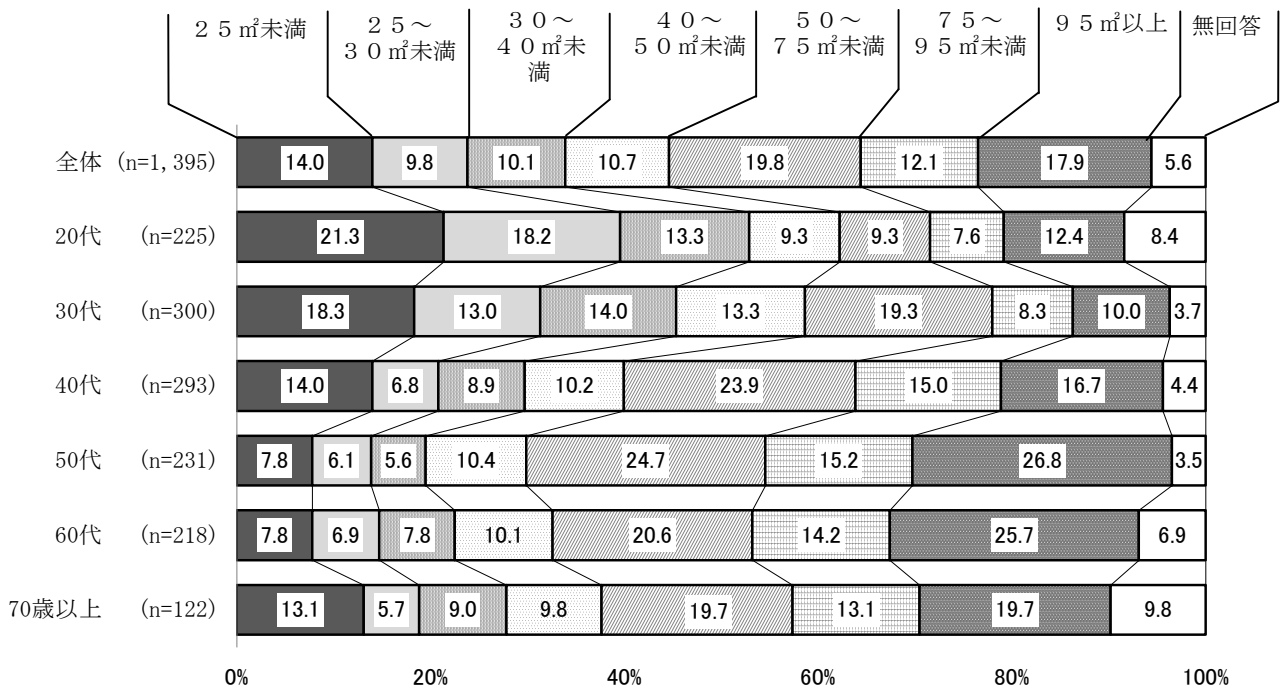
図5-1 床面積



床面積を聞いたところ、「50~75㎡未満」(19.8%)が最も高く、次いで「95㎡以上」(17.9%)、「25㎡未満」(14.0%)となっている。また、「50~75㎡未満」「75~95㎡未満」「95㎡以上」を合計した『50㎡以上』は約半数(49.8%)となっている。(図5-1)

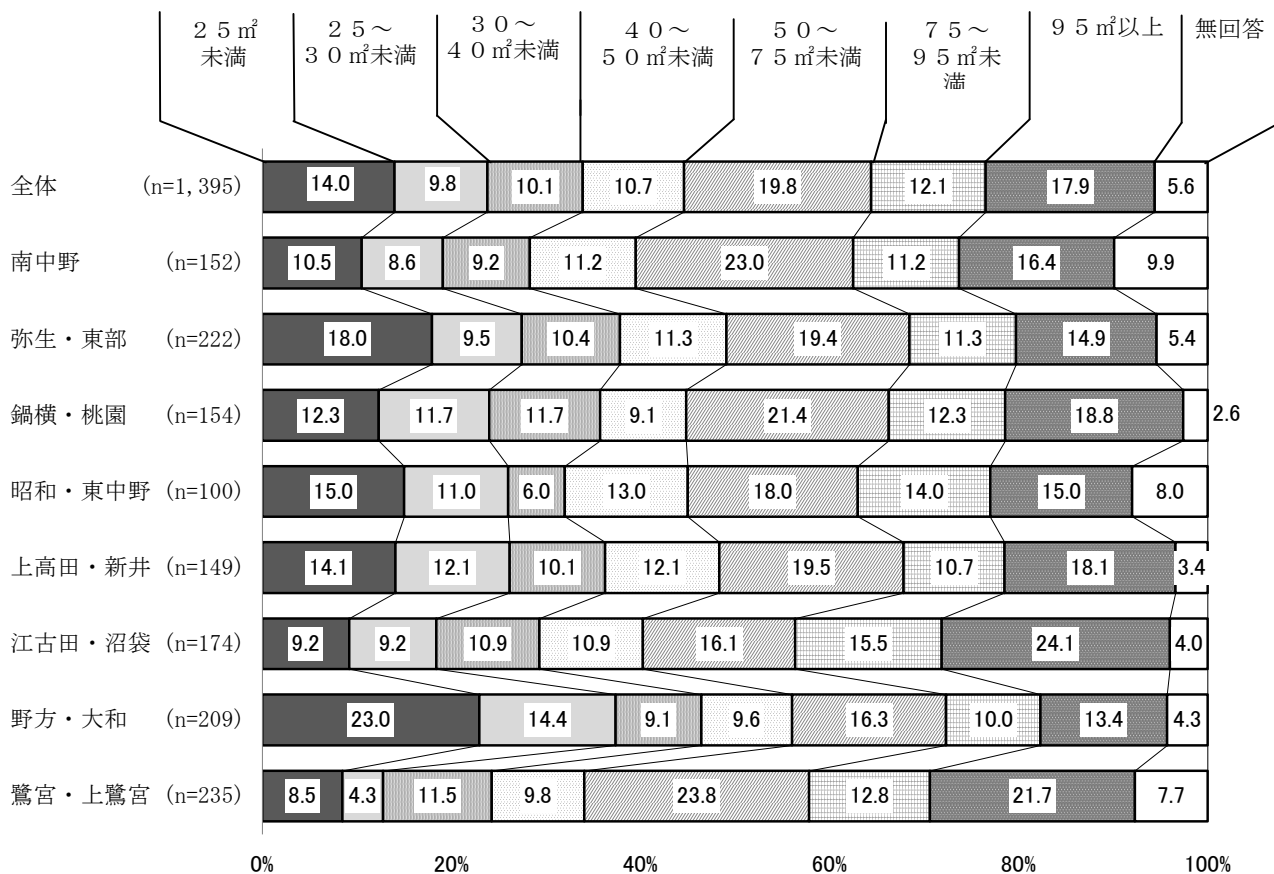
年代別でみると、「25㎡未満」は20代（21.3%）が最も高くなっている。一方、「95㎡以上」は、50代（26.8%）が最も高く、次いで60代（25.7%）、70歳以上（19.7%）となっている。（図5-2）

図5-2 床面積 年代別



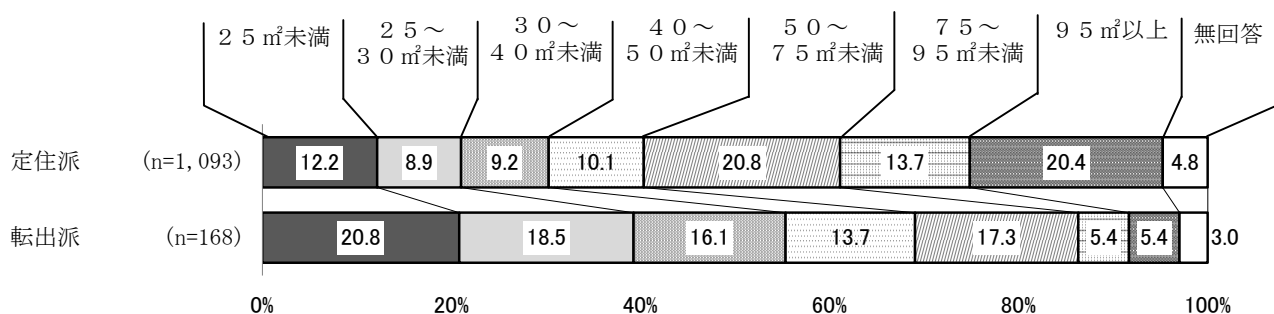
地域別でみると、「25㎡未満」は野方・大和（23.0%）が最も高くなっている。一方、「95㎡以上」は江古田・沼袋（24.1%）が最も高くなっている。（図5-3）

図5-3 床面積 地域別



問2の定住意向（『定住派』と『転出派』）別でみると、「25㎡未満」では、『定住派』12.2%、『転出派』20.8%と『転出派』が多いが、50㎡以上を境に『定住派』が『転出派』を上回っている。（図5-4）

図5-4 床面積 問2『定住派』・『転出派』別



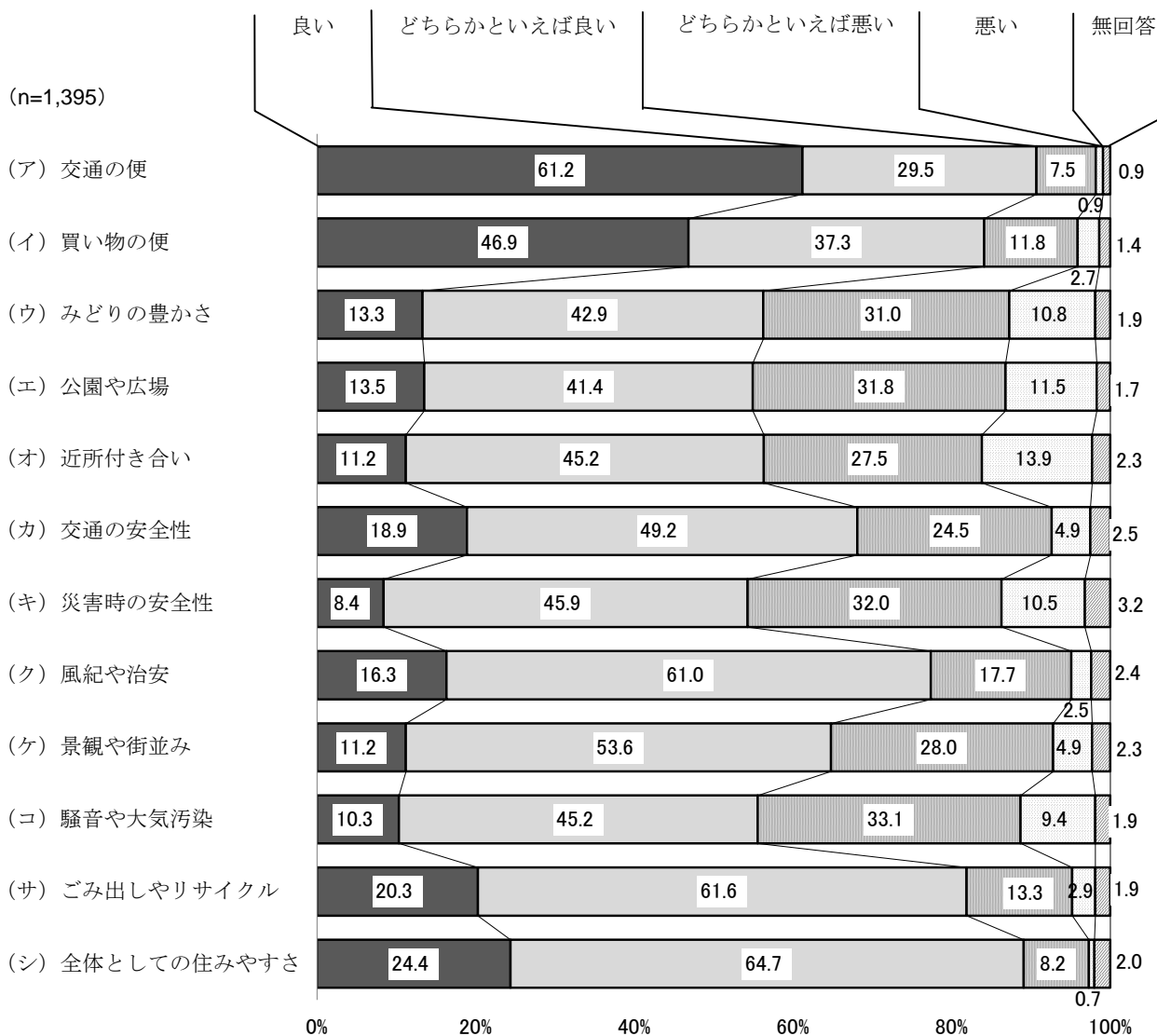
2 生活環境の満足度

(1) 生活環境の満足度

◇良いと感じるのは「交通の便」で6割、次いで「買い物の便」が4割半ば

問5 あなたは、自宅周辺の生活環境についてどのように感じていますか。
項目ごとにお答えください。(それぞれ一つずつ〇)

図6-1 生活環境の満足度



自宅周辺の生活環境に関する各項目について聞いたところ、「良い」、「どちらかといえば良い」を合計した『良い評価』は、「交通の便」(90.7%)が最も高く、次いで「全体としての住みやすさ」(89.1%)、「買い物の便」(84.2%)、「ごみ出しやリサイクル」(81.9%)となっている。一方、「悪い」、「どちらかといえば悪い」を合計した『悪い評価』は、「公園や広場」(43.3%)、「災害時の安全性」と「騒音や大気汚染」(42.5%)、「みどりの豊かさ」(41.8%)、「近所付き合い」(41.4%)の順で高い割合となっている。(図6-1)

【生活環境の評価点】

満足度の比較をより明確にするために、4段階評価に点数を与え、下式により評価点を算出して、各項目の評価を行った。

「良い」の回答者	× 4点
+ 「どちらかといえば良い」の回答者	× 3点
+ 「どちらかといえば悪い」の回答者	× 2点
+ 「悪い」の回答者	× 1点

= (回答者の総評価点数)

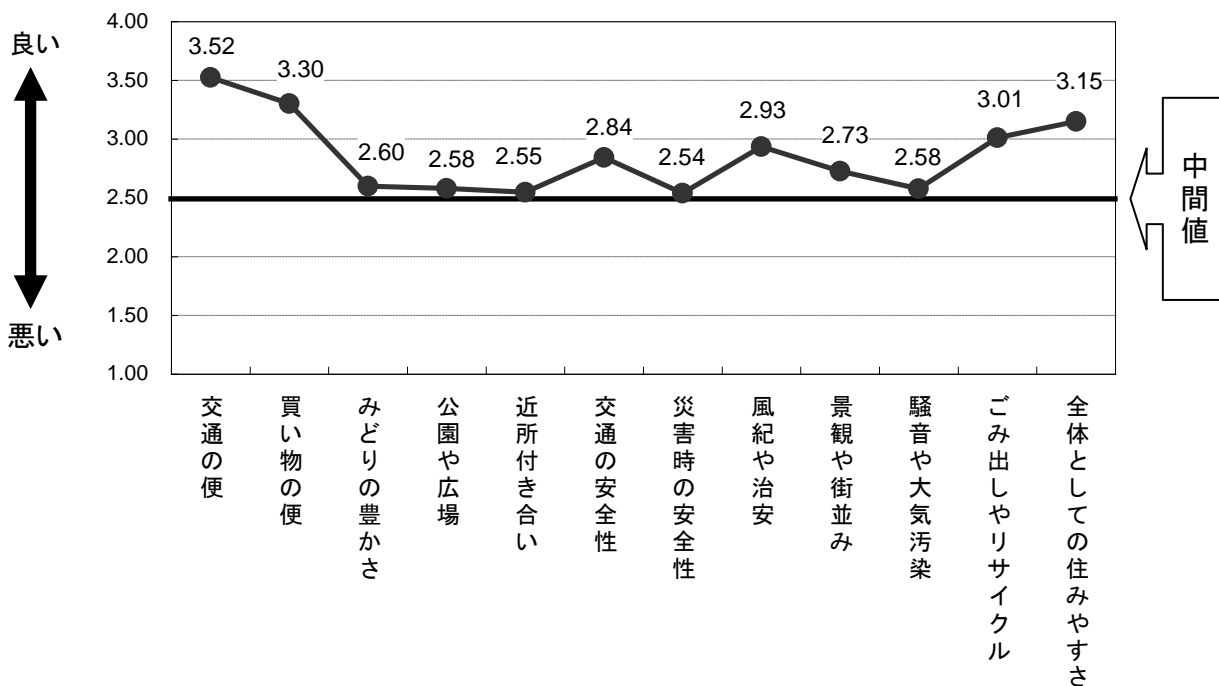
(各施策の評価点) = (回答者の総評価点数) ÷ [(全回答者数1,395) - (無回答者数)]

- ◎ この算出方法では、評価点は1.00～4.00の間に分布し、2.50が中間値となる
- ◎ 4.00に近いほど評価が良く、1.00に近いほど評価が悪い

評価が高い項目は、「交通の便」(3.52)、「買い物の便」(3.30)、「全体としての住みやすさ」(3.15)、「ごみ出しやリサイクル」(3.01)となっており、上位4項目は3.00を上回っている。

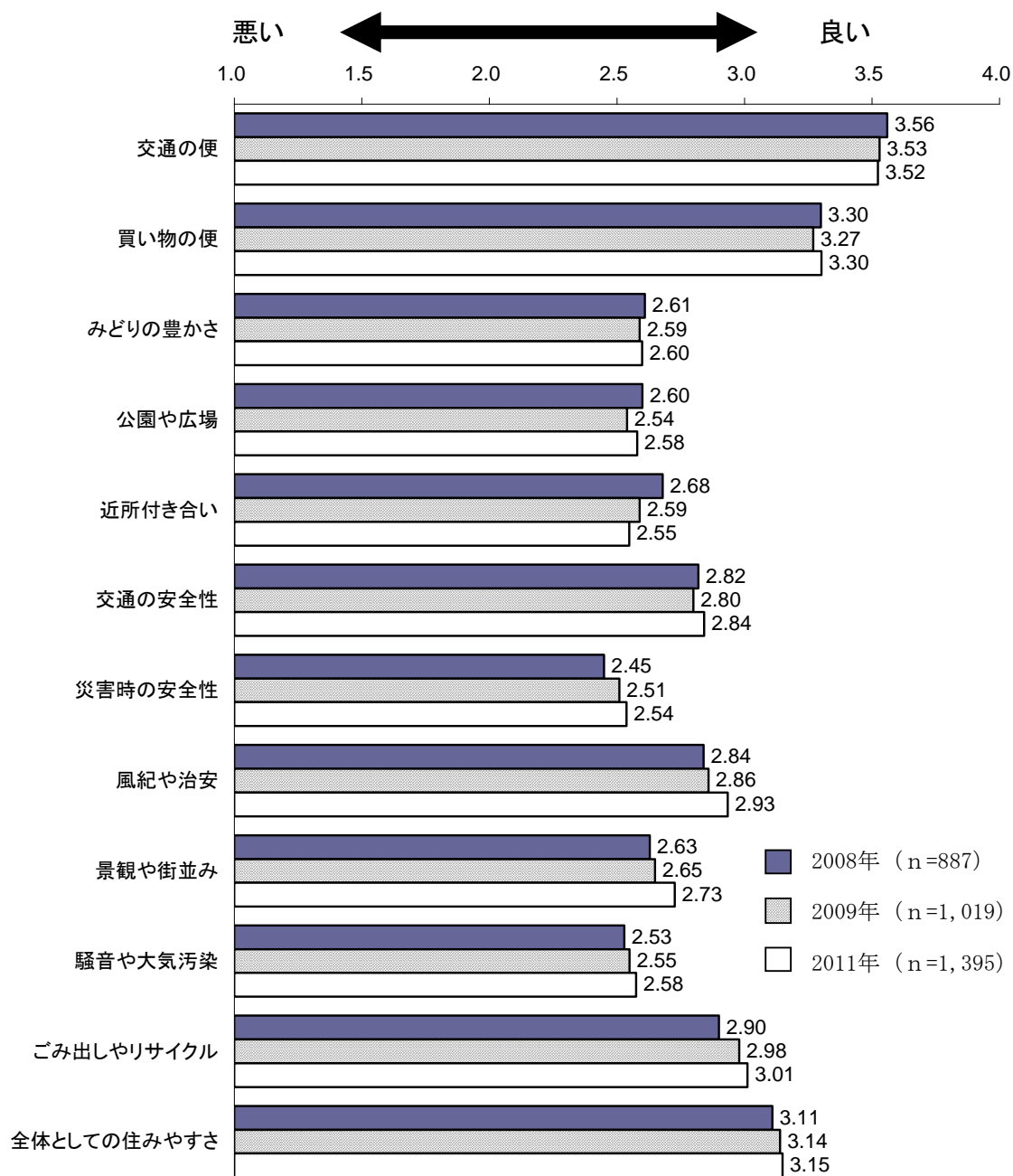
一方、最も評価の低い項目は、「災害時の安全性」(2.54)であったが、中間値を下回る項目はみられない。(図6-2)

図6-2 生活環境の評価点



生活環境の満足度を過去の調査の結果（2008年、2009年）と比較すると、2009年に前年を上回っていたのは「災害時の安全性」、「風紀や治安」、「景観や街並み」、「騒音や大気汚染」、「ごみ出しやリサイクル」、「全体としての住みやすさ」の6項目であった。2011年は、「交通の便」、「買い物の便」、「みどりの豊かさ」、「公園や広場」、「近所付き合い」を除いた7項目で前回（2009年）、前々回（2008年）を上回っている。（図6-3）

図6-3 2011年までの生活環境の評価点推移



地域別でみると、地域間で評価に差があるのは、「みどりの豊かさ」、「公園や広場」、差が小さいのは、「ごみ出しやリサイクル」、「全体としての住みやすさ」となっている。また、「交通の便」、「買い物の便」、「全体としての住みやすさ」では、すべての地域で評価点が3.00を上回る高い評価となっている。一方、評価点が中間値（2.50）を下回る地域がみられるのは、「みどりの豊かさ」、「公園や広場」、「近所付き合い」、「災害時の安全性」、「騒音や大気汚染」となっている。（図6-4-①～②）

図6-4-① 生活環境の評価点 地域別

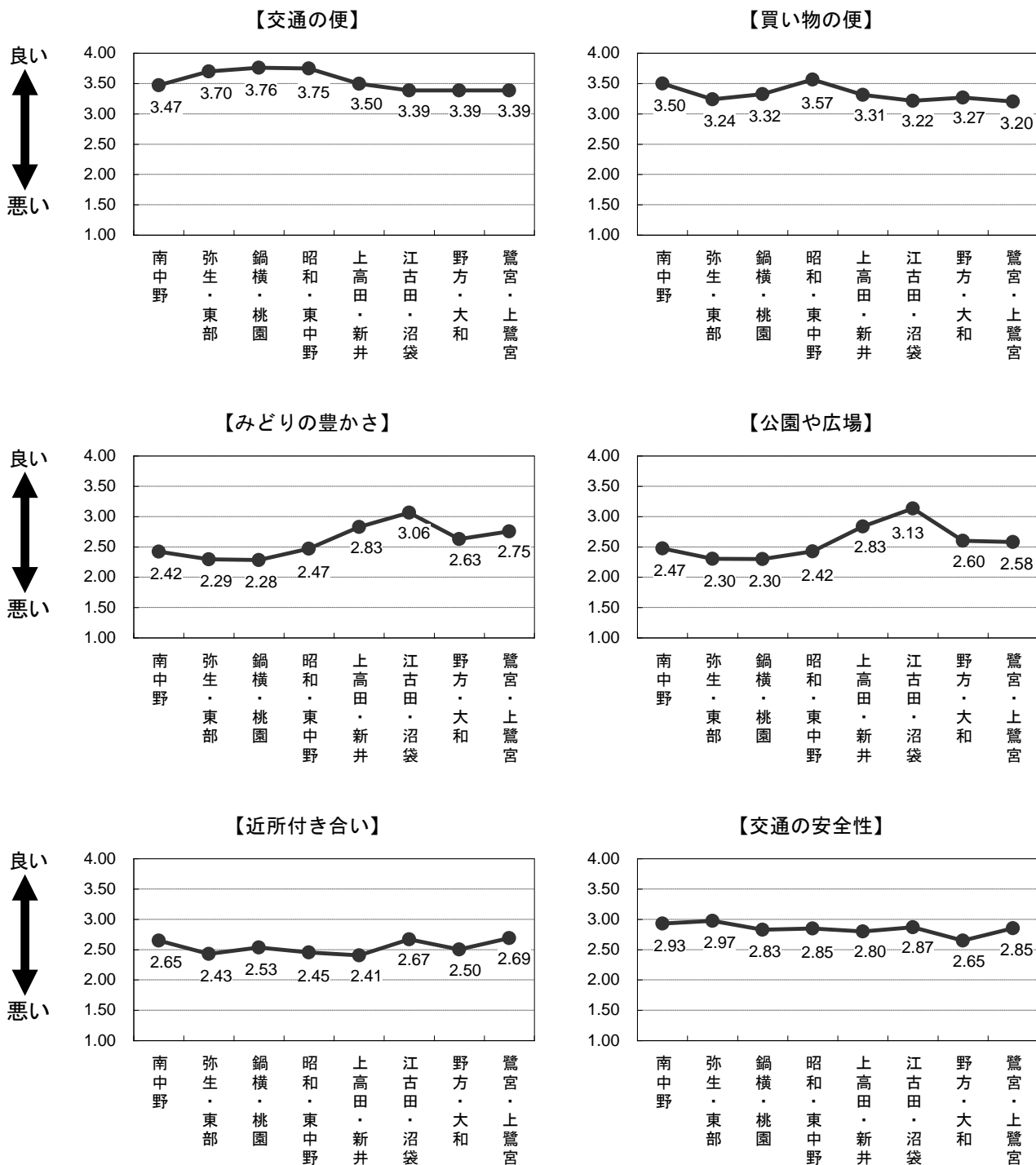
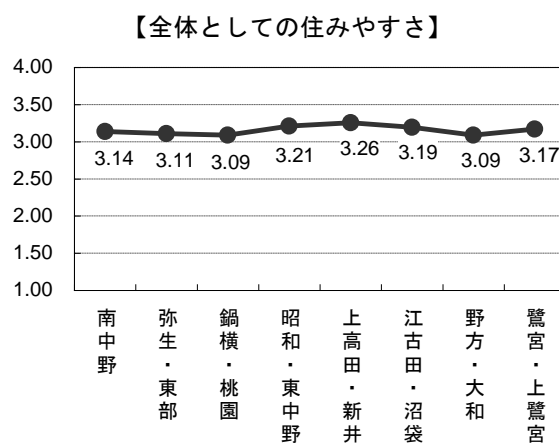
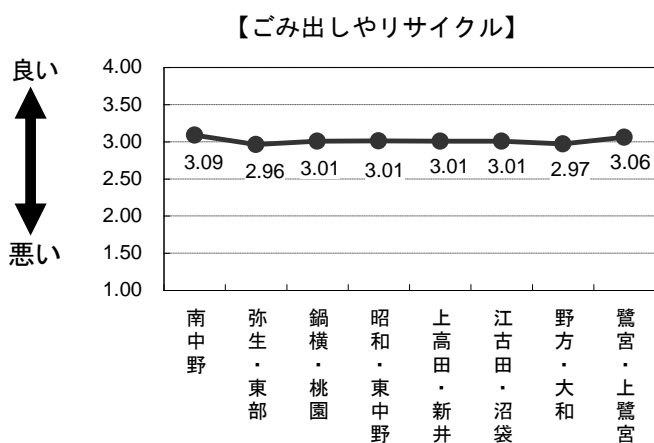
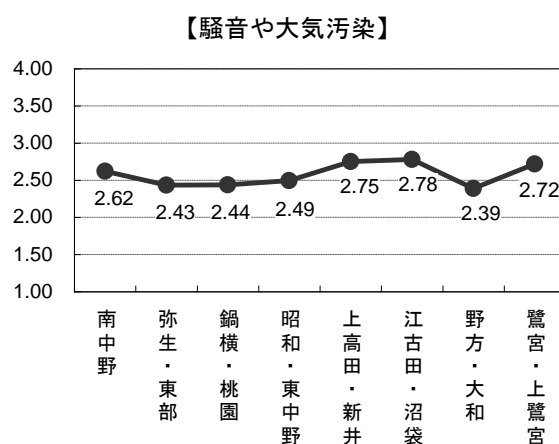
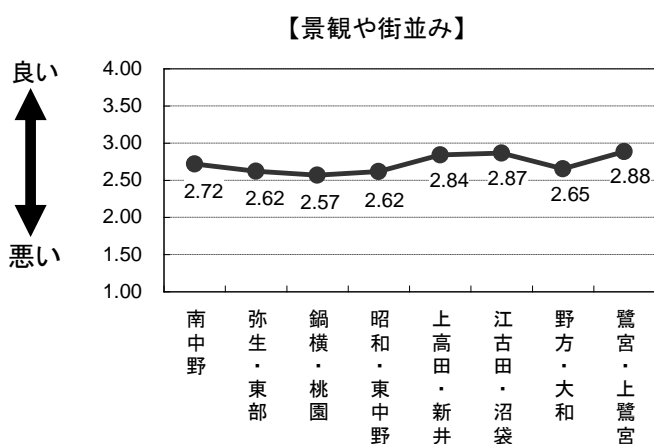
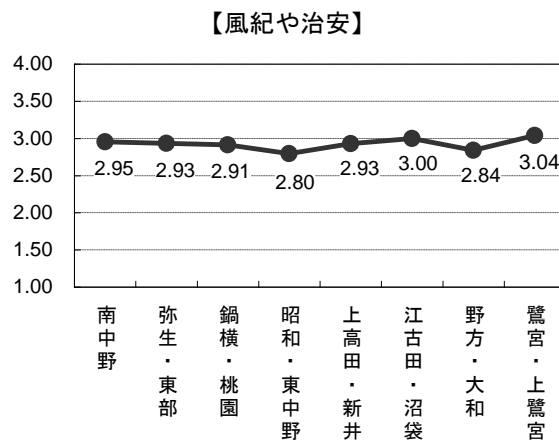
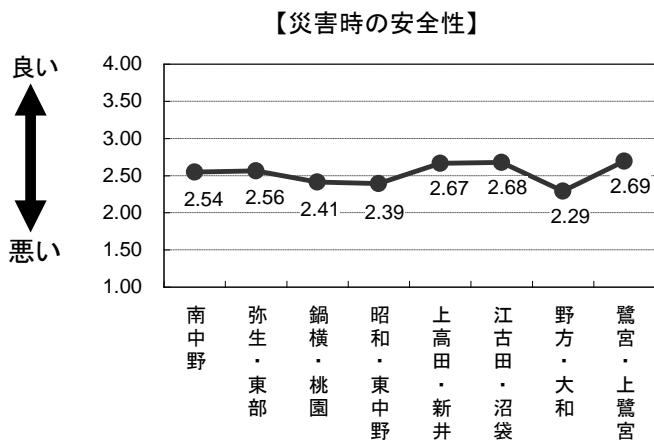


図6-4-② 生活環境の評価点 地域別

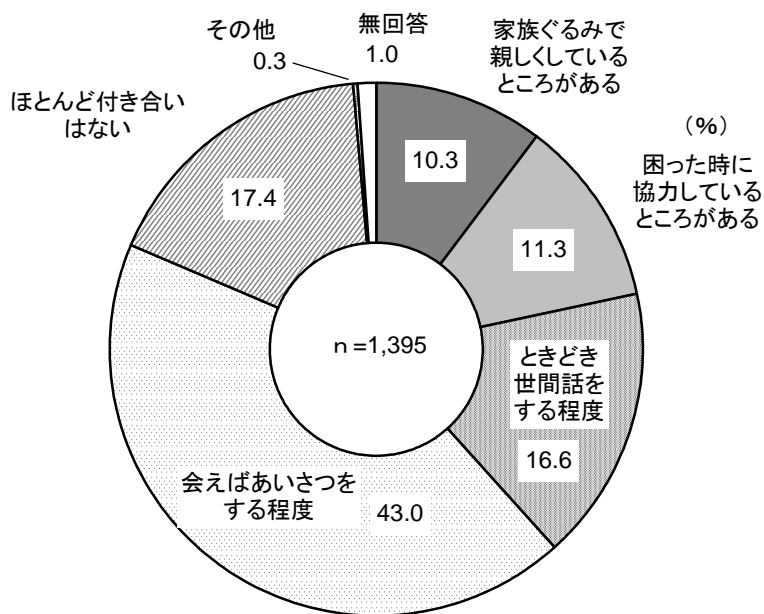


(2) 近所づきあいの程度

◇「会えばあいさつをする程度」が4割を超える

問6 あなたは、隣近所の方々とどのようにお付き合いをされていますか。(一つに○)

図7-1 近所づきあいの程度

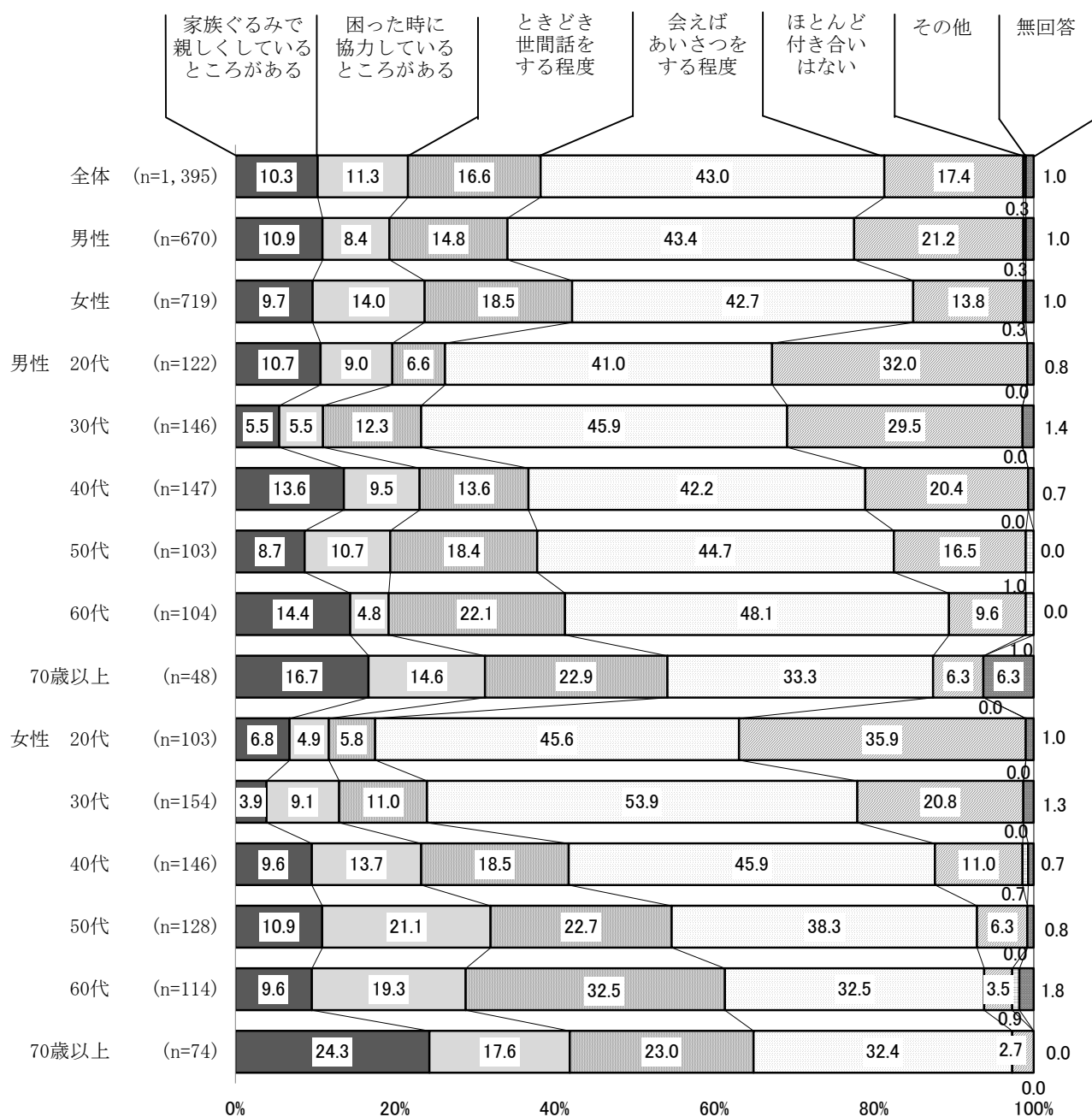


隣近所とどのような付き合いをしているかを聞いたところ、「会えばあいさつをする程度」(43.0%)が4割を超える。また、「困った時に協力しているところがある」(11.3%)と「家族ぐるみで親しくしているところがある」(10.3%)はともに1割程度となっている。(図7-1)

性別でみると、「困った時に協力しているところがある」と「ときどき世間話をする程度」は、女性が男性を上回っているのに対し、「会えばあいさつをする程度」と「ほとんど付き合いはない」は男性が女性を上回っている。

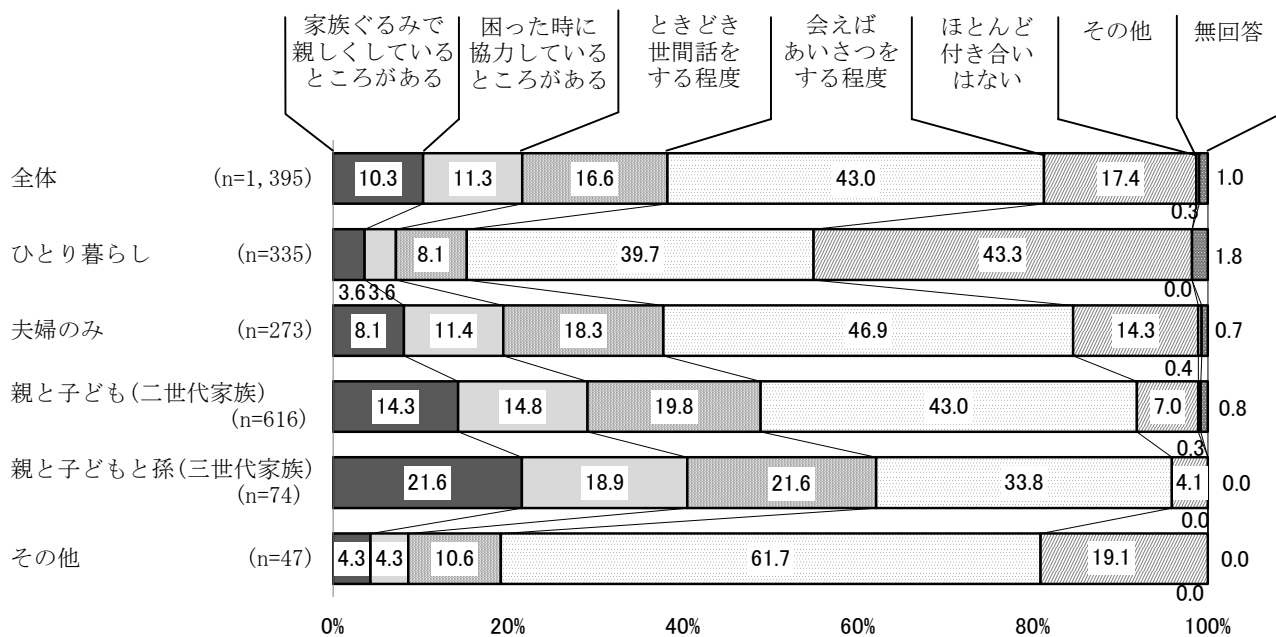
性・年代別でみると、「ほとんど付き合いはない」は、男女ともに20代、30代では2割を超えており、特に20代女性では35.9%、20代男性では32.0%にのぼっている。(図7-2)

図7-2 近所づきあいの程度 性別、性・年代別



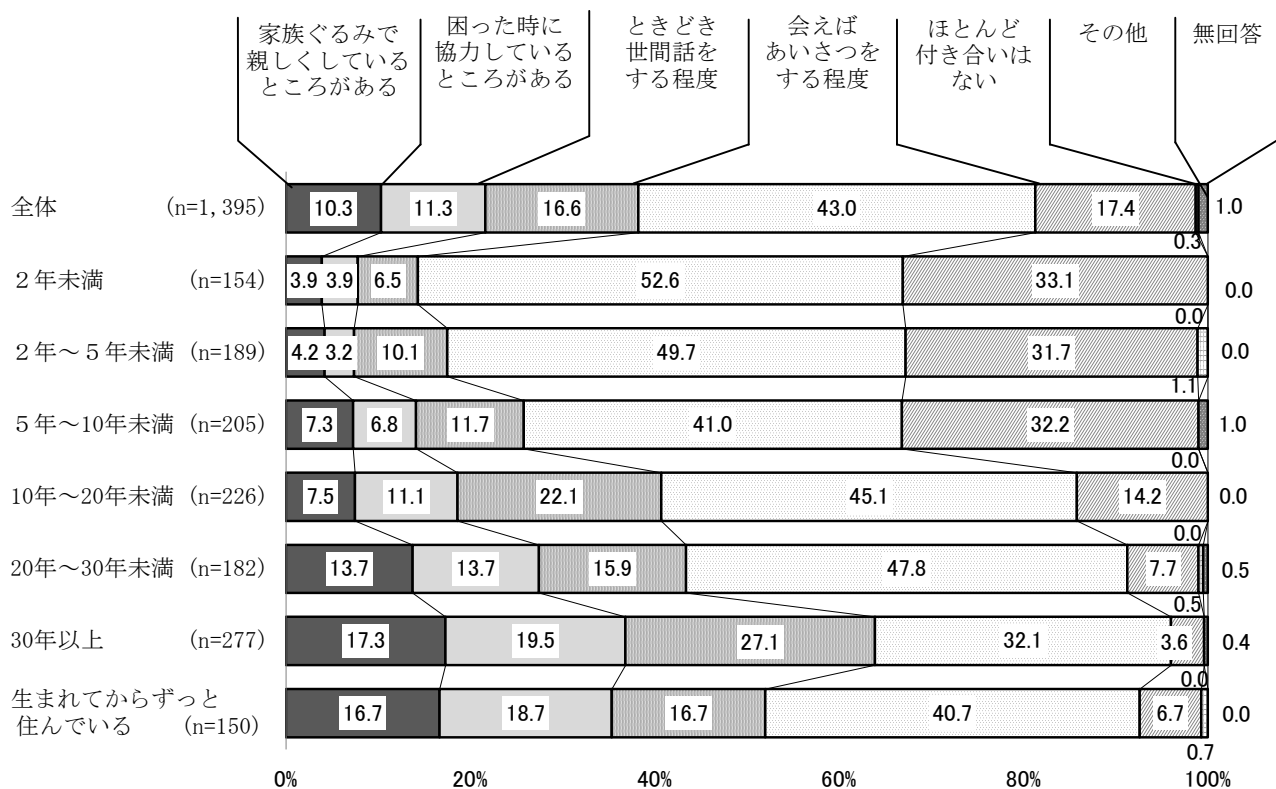
家族形態別でみると、「ほとんど付き合いはない」は、ひとり暮らしが4割を越え、他と比べて高くなっている。一方、「家族ぐるみで親しくしているところがある」と「困った時に協力しているところがある」は親と子どもと孫（三世代家族）がともに1位となっている。（図7-3）

図7-3 近所づきあいの程度 家族形態別



居住年数別でみると、居住年数が長くなるほど「家族ぐるみで親しくしているところがある」と「困った時に協力しているところがある」が高くなり、「ほとんど付き合いはない」が低くなる傾向がみられる。(図7-4)

図7-4 近所づきあいの程度 居住年数別



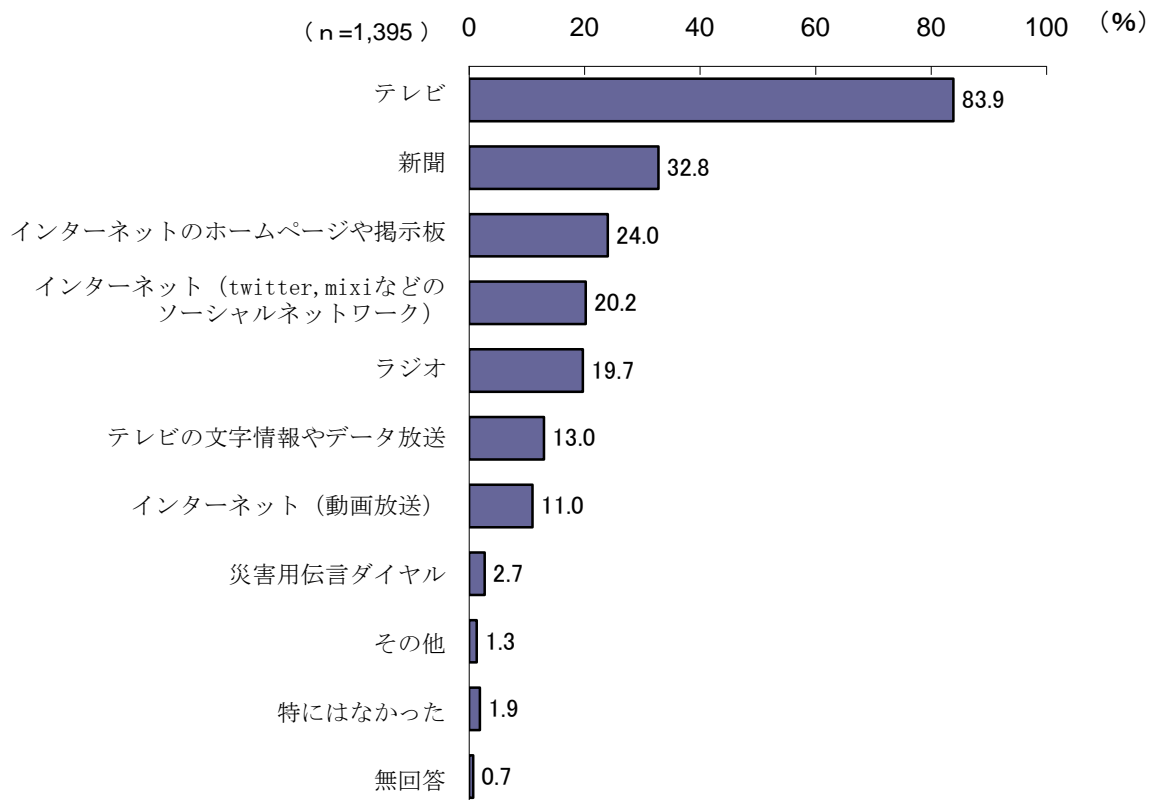
3 生活の安全（防災）

（1）「東日本大震災」発生直後の有用な情報源

◇「テレビ」が8割を超える

問7 今年3月11日の「東日本大震災」発生直後、震災や被害状況などについて、あなたが有用な情報が得られたと思うものをあげて下さい。（いくつでも○）

図8-1 「東日本大震災」発生直後の有用な情報源



「東日本大震災」発生直後に、震災や被害状況などについて有用な情報を何から得たかを聞いたところ、「テレビ」(83.9%)が最も高く、次いで「新聞」(32.8%)、「インターネットのホームページや掲示板」(24.0%)、「インターネット (twitter, mixiなどのソーシャルネットワーク)」(20.2%)、「ラジオ」(19.7%)となっている。(図8-1)

性別でみると、「テレビ」と「新聞」は、女性が男性を上回っているのに対し、「インターネットのホームページや掲示板」、「インターネット（twitter, mixiなどのソーシャルネットワーク）」、「ラジオ」は男性が女性を上回っている。

性・年代別でみると、年代が上がるにつれ、男女ともに「テレビ」、「ラジオ」、「新聞」の割合が高くなる傾向がみられる。また、「インターネットのホームページや掲示板」、「インターネット（twitter, mixiなどのソーシャルネットワーク）」は、男女ともに20代、30代、40代の割合が高く、特に「インターネット（twitter, mixiなどのソーシャルネットワーク）」では男女とも20代は4割を超えている。（表8-1）

表8-1 「東日本大震災」発生直後の有用な情報源 性別、性・年代別

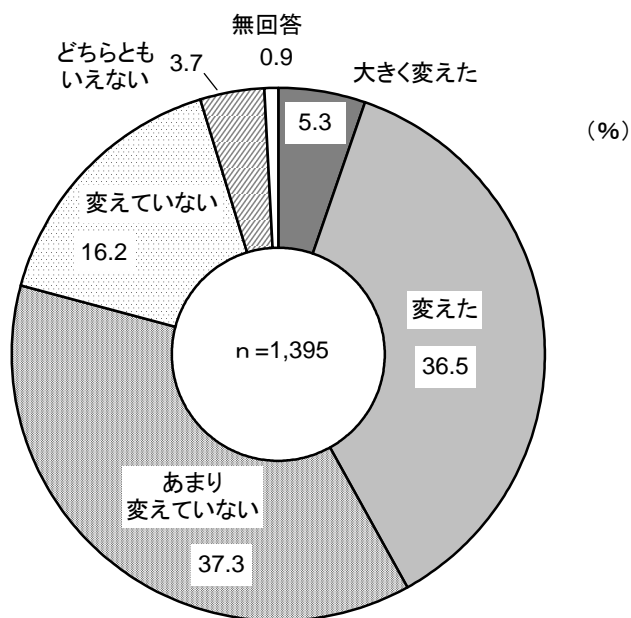
		テレビ	テレビの文字情報やデータ放送	ラジオ	新聞	インターネットのホームページや掲示板	インターネット（twitter, mixiなどのソーシャルネットワーク）	インターネット（動画放送）	災害用伝言ダイヤル	その他	特にはなかった	無回答
全体（n=1,395）		83.9	13.0	19.7	32.8	24.0	20.2	11.0	2.7	1.3	1.9	0.7
性別	男性（n=670）	81.5	9.0	21.9	31.6	27.3	23.0	15.2	2.1	1.0	2.1	0.6
	女性（n=719）	86.1	16.8	17.4	33.7	21.0	17.7	7.1	3.3	1.5	1.8	0.8
男性	20代（n=122）	73.0	9.0	9.8	16.4	38.5	48.4	21.3	2.5	0.0	1.6	0.0
	30代（n=146）	74.0	6.8	13.7	22.6	34.2	37.0	17.1	0.7	1.4	1.4	1.4
	40代（n=147）	81.6	11.6	23.8	31.3	29.9	20.4	14.3	2.7	0.7	2.0	0.7
	50代（n=103）	83.5	10.7	25.2	36.9	25.2	8.7	13.6	5.8	2.9	4.9	1.0
	60代（n=104）	93.3	4.8	32.7	47.1	11.5	1.9	12.5	0.0	1.0	1.9	0.0
	70歳以上（n=48）	95.8	12.5	41.7	54.2	8.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	20代（n=103）	81.6	14.6	8.7	14.6	28.2	41.7	13.6	6.8	1.9	2.9	1.9
	30代（n=154）	82.5	14.9	19.5	19.5	36.4	30.5	10.4	5.2	2.6	1.9	0.0
	40代（n=146）	78.1	14.4	12.3	29.5	21.9	16.4	8.9	2.1	2.1	2.7	2.1
	50代（n=128）	93.0	18.8	14.8	45.3	17.2	6.3	2.3	3.9	0.8	0.8	0.0
	60代（n=114）	92.1	16.7	26.3	47.4	9.6	4.4	4.4	0.0	0.9	0.0	0.9
	70歳以上（n=74）	94.6	25.7	25.7	56.8	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	2.7	0.0

(2) 「東日本大震災」後の防災対策の変化

◇ 『変えた』人は4割、『変えていない』人が5割を超える

問8 「東日本大震災」の発生後、あなたは防災に対する備えを何か変えましたか。(一つに○)

図8-2 「東日本大震災」後の防災対策の変化

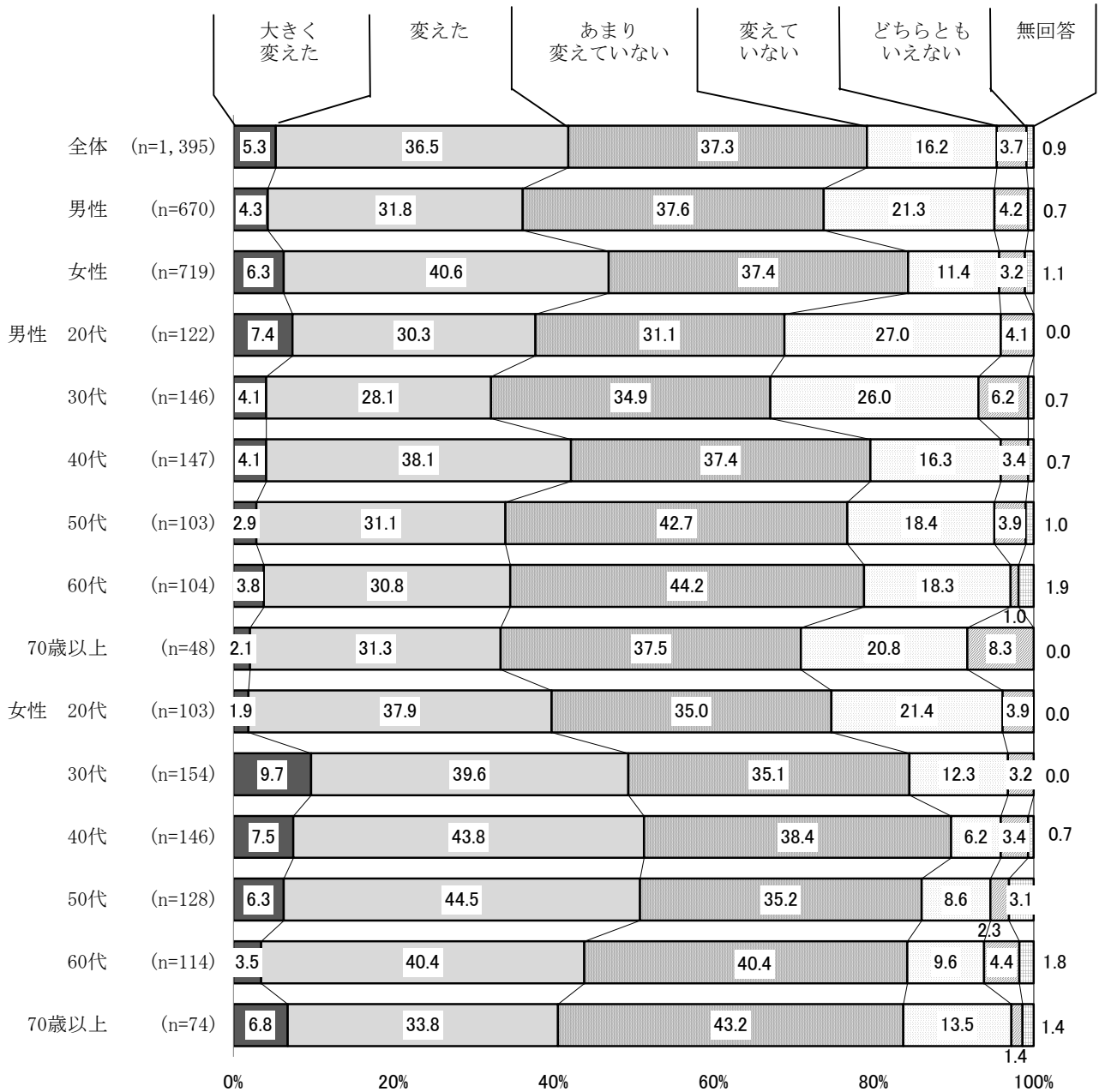


「東日本大震災」の発生後、防災に対する備えを変えたかどうかを聞いたところ、「大きく変えた」(5.3%)と「変えた」(36.5%)を合計した『変えた』人は約4割となっている。一方、「あまり変えていない」(37.3%)と「変えていない」(16.2%)を合計した『変えていない』人は5割を超えている。(図8-2)

性別でみると、『変えた』人は女性が男性を上回っている。

性・年代別でみると、『変えた』人はすべての年代で女性が男性を上回り、女性30代、40代、50代では5割前後で他の年代と比べて高くなっている。(図8-2)

図8-3 「東日本大震災」後の防災対策の変化 性別、性・年代別

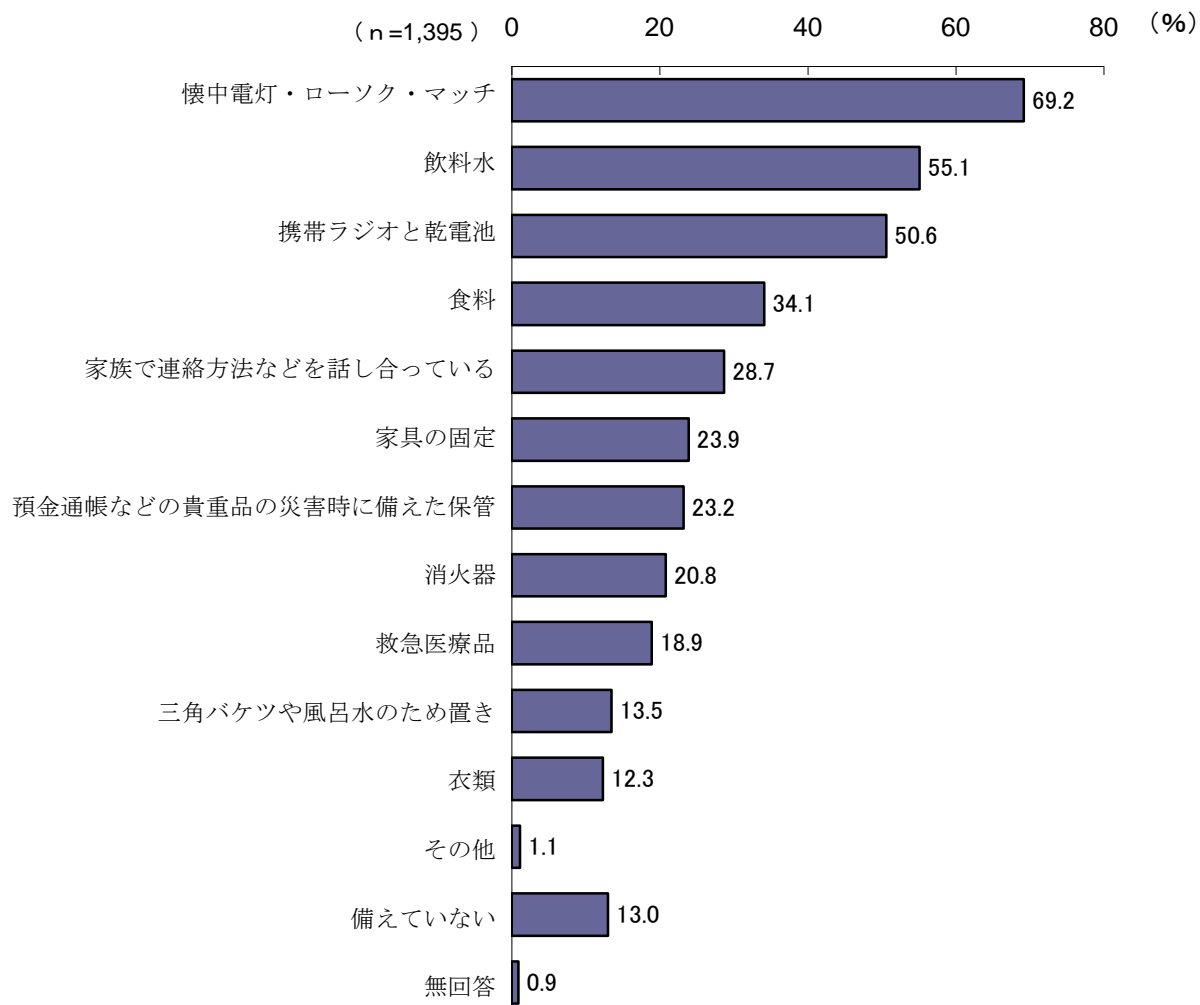


(3) 地震に対する備え

◇「懐中電灯・ローソク・マッチ」が約7割、次いで「飲料水」が5割半ば

問9 地震に対して、あなたが現在おこなっている備えをあげてください。(いくつでも○)

図8-4 地震に対する備え



地震に対して、現在行なっている備えを聞いたところ、「懐中電灯・ローソク・マッチ」(69.2%)が最も高く、次いで「飲料水」(55.1%)、「携帯ラジオと乾電池」(50.6%)、「食料」(34.1%)、「家族で連絡方法などを話し合っている」(28.7%)となっている。(図8-4)

性別でみると、備えている割合は、備えのすべての項目で女性が男性を上回っており、中でも「懐中電灯・ローソク・マッチ」と「飲料水」は10ポイント以上高くなっている。

性・年代別でみると、「三角バケツや風呂水のため置き」は男女ともに、年代が上るにつれ割合が高くなっている。「懐中電灯・ローソク・マッチ」は女性40代、60代、70歳以上では8割を超えて高くなっている。(表8-2)

表8-2 地震に対する備え 性別、性・年代別

		消火器	懐中電灯・ローソク・マッチ	携帯ラジオと乾電池	食料	飲料水	衣類	救急医療品	預金通帳などの貴重品の災害時に備えた保管	三角バケツや風呂水のため置き	家具の固定	家族で連絡方法などを話し合っている	その他	備えていない	無回答
全体 (n=1,395)		20.8	69.2	50.6	34.1	55.1	12.3	18.9	23.2	13.5	23.9	28.7	1.1	13.0	0.9
性別	男性 (n=670)	17.3	63.0	46.9	30.0	47.9	11.9	16.1	19.9	9.1	21.0	23.9	1.0	17.0	1.2
	女性 (n=719)	23.9	74.8	54.1	38.0	61.8	12.7	21.6	26.3	17.7	26.3	33.1	1.3	9.5	0.6
男性	20代 (n=122)	9.8	49.2	28.7	27.9	35.2	11.5	12.3	16.4	3.3	18.9	23.8	0.0	27.9	0.0
	30代 (n=146)	7.5	43.8	31.5	25.3	47.9	4.8	15.1	10.3	4.8	17.8	18.5	1.4	24.0	1.4
	40代 (n=147)	19.0	72.8	52.4	34.0	51.7	17.0	15.6	20.4	8.8	18.4	24.5	0.7	12.9	2.7
	50代 (n=103)	23.3	73.8	59.2	26.2	50.5	11.7	17.5	22.3	13.6	20.4	25.2	2.9	13.6	1.0
	60代 (n=104)	26.0	75.0	63.5	37.5	51.9	13.5	17.3	31.7	14.4	28.8	26.9	0.0	7.7	0.0
	70歳以上 (n=48)	29.2	77.1	60.4	29.2	54.2	16.7	25.0	25.0	16.7	29.2	29.2	2.1	8.3	2.1
女性	20代 (n=103)	8.7	54.4	24.3	26.2	41.7	6.8	15.5	11.7	3.9	19.4	24.3	0.0	23.3	0.0
	30代 (n=154)	13.6	67.5	47.4	31.8	58.4	14.3	24.7	26.0	7.1	25.3	37.7	1.3	12.3	1.3
	40代 (n=146)	24.0	82.9	56.2	39.0	67.1	11.0	18.5	21.2	18.5	26.7	43.2	1.4	5.5	0.0
	50代 (n=128)	29.7	78.9	67.2	47.7	65.6	12.5	21.1	26.6	24.2	32.8	38.3	1.6	4.7	0.0
	60代 (n=114)	30.7	83.3	64.0	37.7	74.6	10.5	21.1	36.0	27.2	29.8	23.7	1.8	5.3	0.9
	70歳以上 (n=74)	45.9	82.4	67.6	48.6	59.5	24.3	31.1	41.9	31.1	20.3	21.6	1.4	6.8	1.4

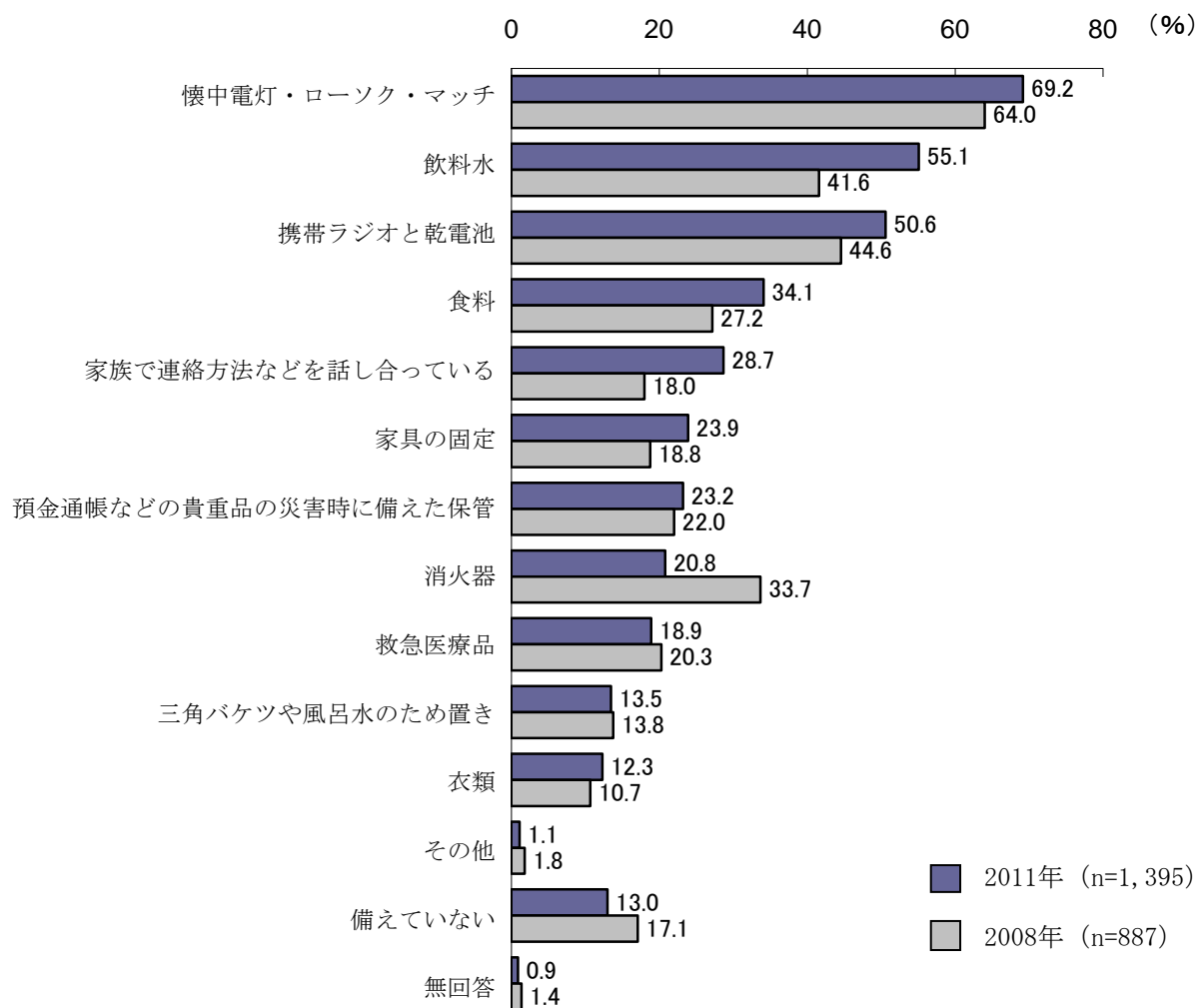
問8の「東日本大震災」の発生後、防災に対する備えの変化（『変えた』人と『変えていない』人）別でみると、備えのすべての項目で『変えた』人が『変えていない』人を上回っており、「食料」と「飲料水」は30ポイント以上、「懐中電灯・ローソク・マッチ」、「携帯ラジオと乾電池」、「家族で連絡方法などを話し合っている」は20ポイント以上高くなっている。（表8-3）

表8-3 地震に対する備え 問8『変えた』人・『変えていない』人別

	消火器	懐中電灯・ローソク・マッチ	携帯ラジオと乾電池	食料	飲料水	衣類	救急医療品	預金通帳などの貴重品の災害時に備えた保管	三角バケツや風呂水のため置き	家具の固定	家族で連絡方法などを話し合っている	その他	備えていない	無回答
全体 (n=1,395)	20.8	69.2	50.6	34.1	55.1	12.3	18.9	23.2	13.5	23.9	28.7	1.1	13.0	0.9
変えた (n=583)	26.2	85.4	67.9	52.1	75.1	19.6	28.8	33.6	17.8	32.2	42.4	1.7	1.0	0.2
変えていない (n=747)	16.7	58.2	39.0	20.9	41.5	7.4	11.5	15.7	11.0	18.6	19.3	0.7	21.6	0.7
どちらともいえない (n=52)	17.3	44.2	26.9	19.2	28.8	1.9	11.5	13.5	3.8	7.7	15.4	0.0	28.8	3.8

2008年中野区区民意識調査において、「災害に対する備え」について聞いた際の結果と比較してみると、全体では、今回調査の上位7項目で2008年調査より割合が上回っており、「飲料水」と「家族で連絡方法などを話し合っている」は10ポイント以上高くなっている。(図8-5)

図8-5 地震に対する備え 2008年調査との比較

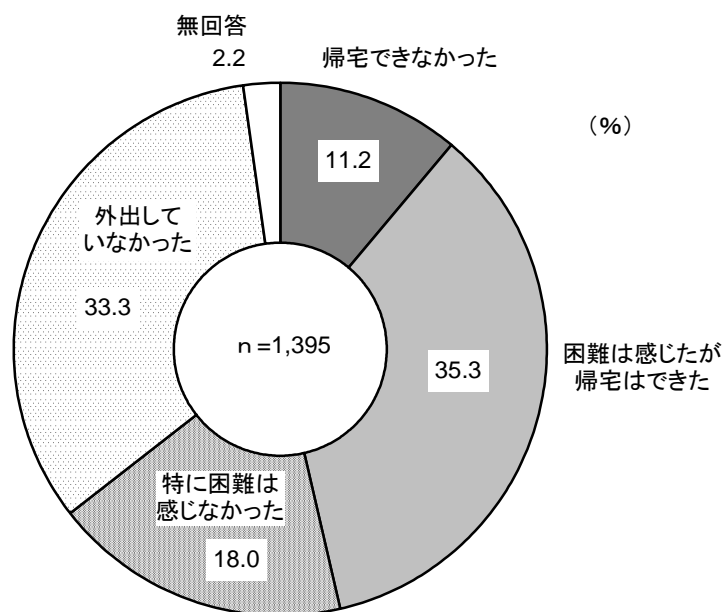


(4) 「東日本大震災」当日の帰宅状況

◇「帰宅できなかった」が約1割、「困難は感じたが帰宅はできた」は3割半ば

問10 「東日本大震災」の日に、あなたの帰宅の状況はいかがでしたか。(一つに○)

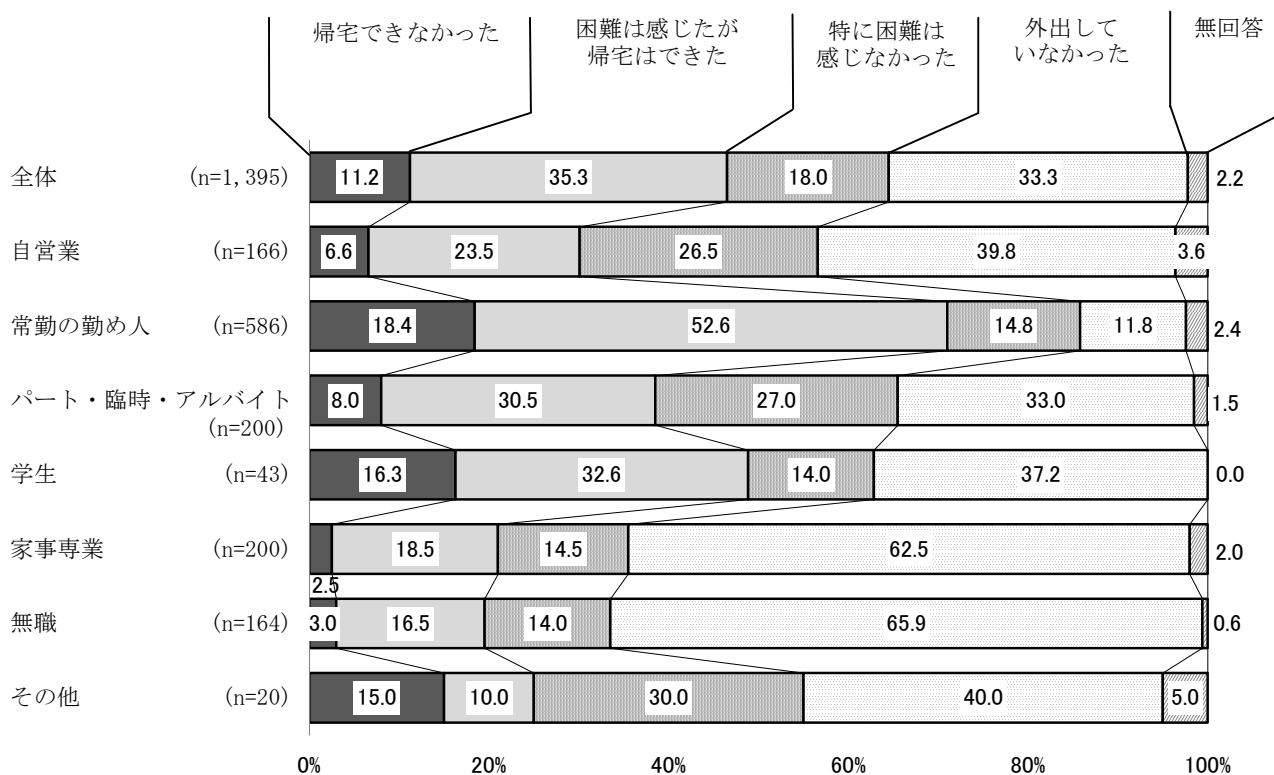
図8-6 「東日本大震災」当日の帰宅状況



「東日本大震災」当日の帰宅状況を聞いたところ、「困難は感じたが帰宅はできた」(35.3%)が最も高く、次いで「外出していなかった」(33.3%)、「特に困難は感じなかった」(18.0%)、「帰宅できなかった」(11.2%)となっている。(図8-6)

職業別でみると、「帰宅できなかった」は常勤の勤め人（18.4%）が最も高く、次いで学生（16.3%）となっている。「困難は感じたが帰宅はできた」は常勤の勤め人（52.6%）が過半数を越えており他の職業と比べかなり高くなっている。また、「外出していなかった」は家事専業と無職がともに6割を超えている。（図8-7）

図8-7 「東日本大震災」当日の帰宅状況 職業別



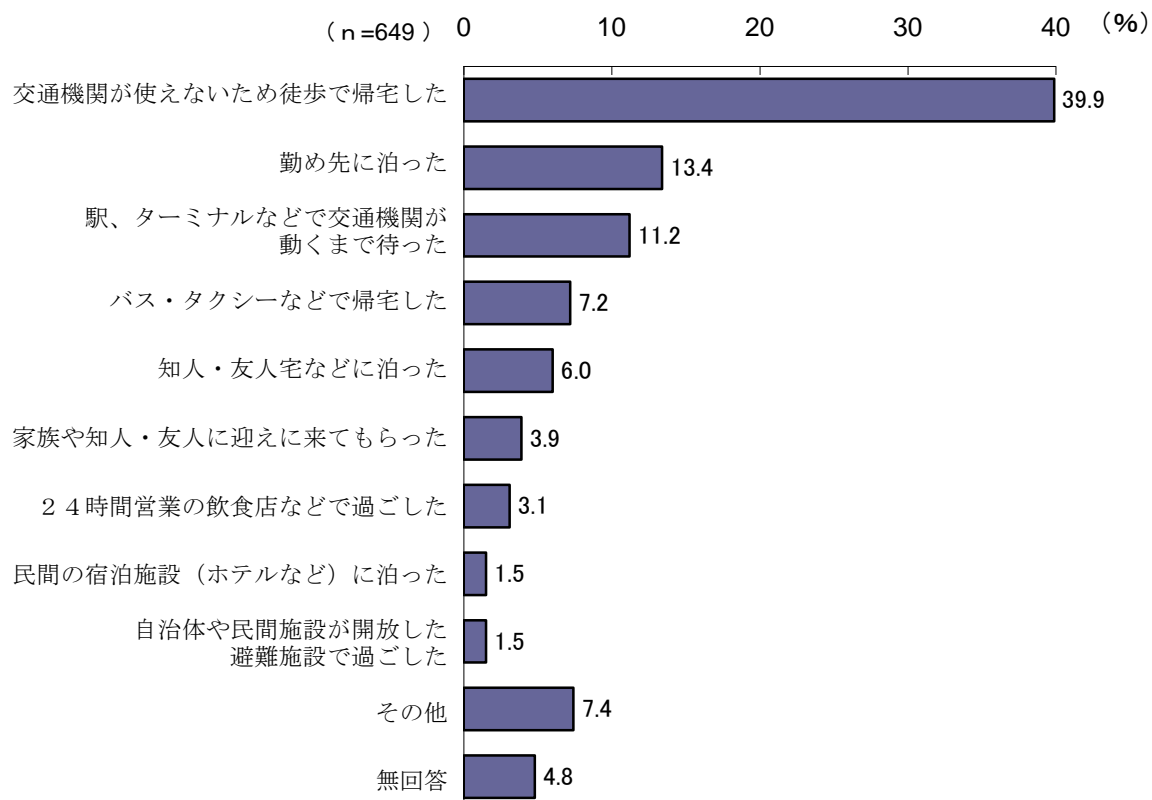
(4-1) 「東日本大震災」当日の過ごし方

◇『徒歩で帰宅した』人が約4割

【問10で「1 帰宅できなかった」「2 困難は感じたが帰宅はできた」と答えた方に伺います】

問10-1 当日は、どのように過ごしましたか。(一つに○)

図8-8 「東日本大震災」当日の過ごし方



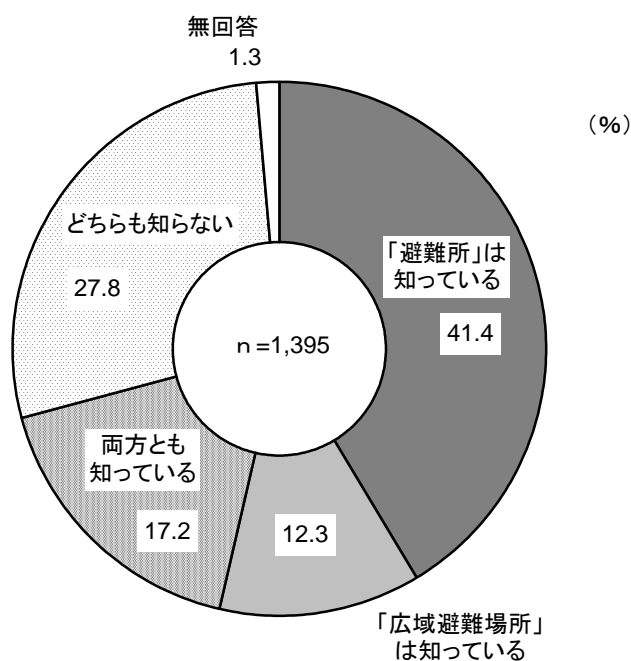
「東日本大震災」当日に帰宅困難であった人に当日の過ごし方を聞いたところ、「交通機関が使えないため徒歩で帰宅した」(39.9%)が最も高く、次いで「勤め先に泊った」(13.4%)、「駅、ターミナルなどで交通機関が動くまで待った」(11.2%)、「バス・タクシーなどで帰宅した」(7.2%)となっている。(図8-8)

(5) 「避難所」や「広域避難場所」の認識状況

◇『知っている』人は7割を超える

問11 ご自身が避難する「避難所」や「広域避難場所」の場所を知っていますか。(一つに○)

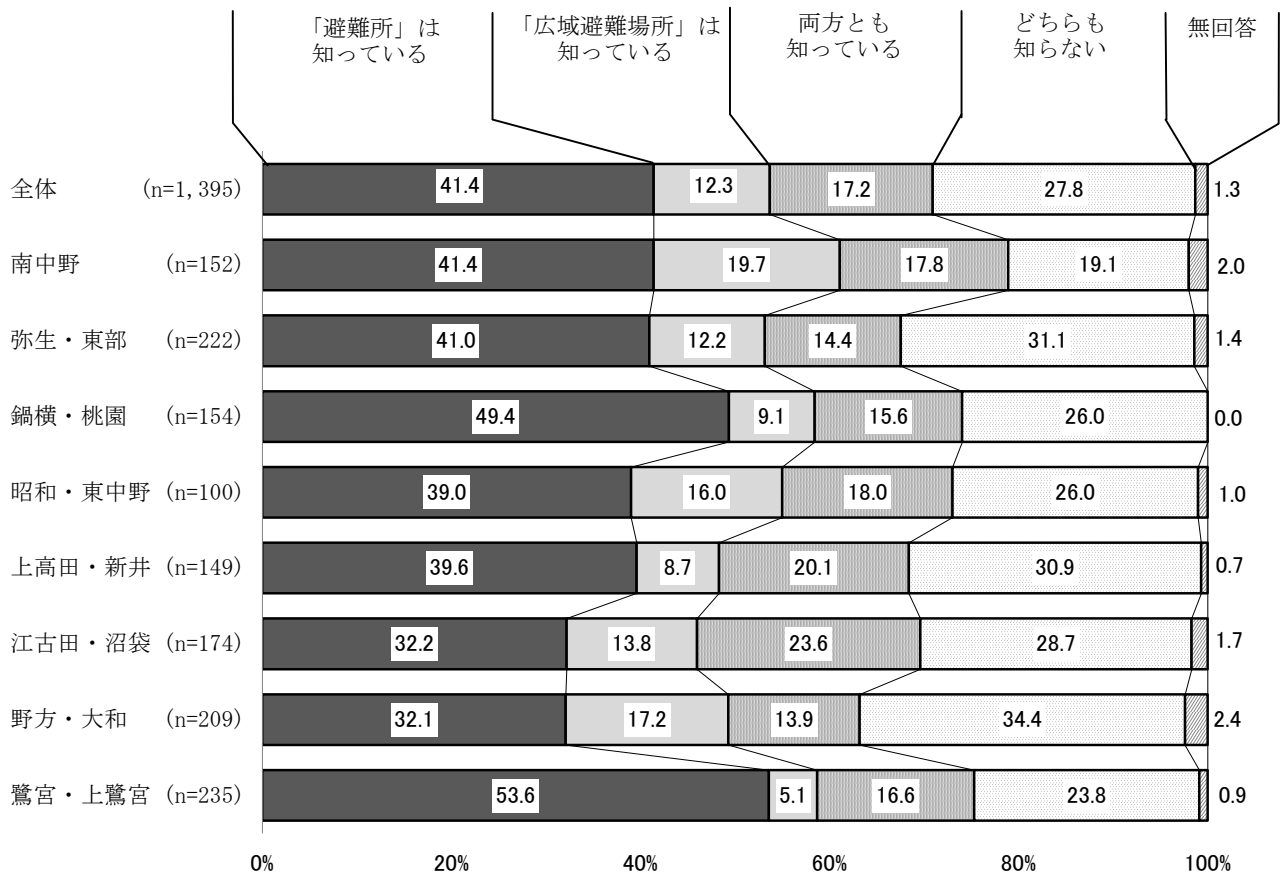
図8-9 「避難所」や「広域避難場所」の認識状況



自分の避難する場所を知っているかを聞いたところ、「避難所」は知っている(41.4%)が約4割、「広域避難場所」は知っている(12.3%)が1割程度、「両方とも知っている」(17.2%)が1割半ば程度となっている。また、「避難所」は知っている「広域避難場所」は知っている「両方とも知っている」を合計した『知っている』人は7割を超えている。(図8-9)

地域別でみると、『知っている』人の割合は、南中野で78.9%と最も高く、次いで鷺宮・上鷺宮で75.3%、鍋横・桃園74.1%となっている。一方、「どちらも知らない」は野方・大和で34.4%と最も高くなっている。(図8-10)

図8-10 「避難所」や「広域避難場所」の認識状況 地域別

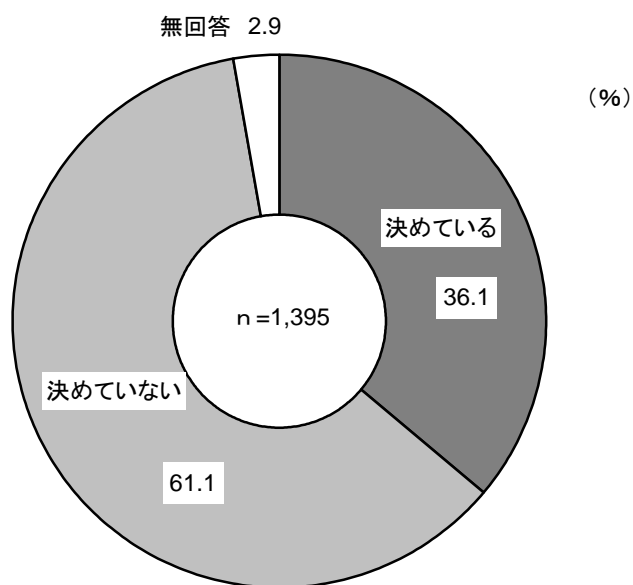


(6) 震災発生時の家族との集合場所

◇「決めている」は3割半ば、「決めていない」は約6割

問12 震災発生時の家族との集合場所をあらかじめ決めていますか。(一つに○)

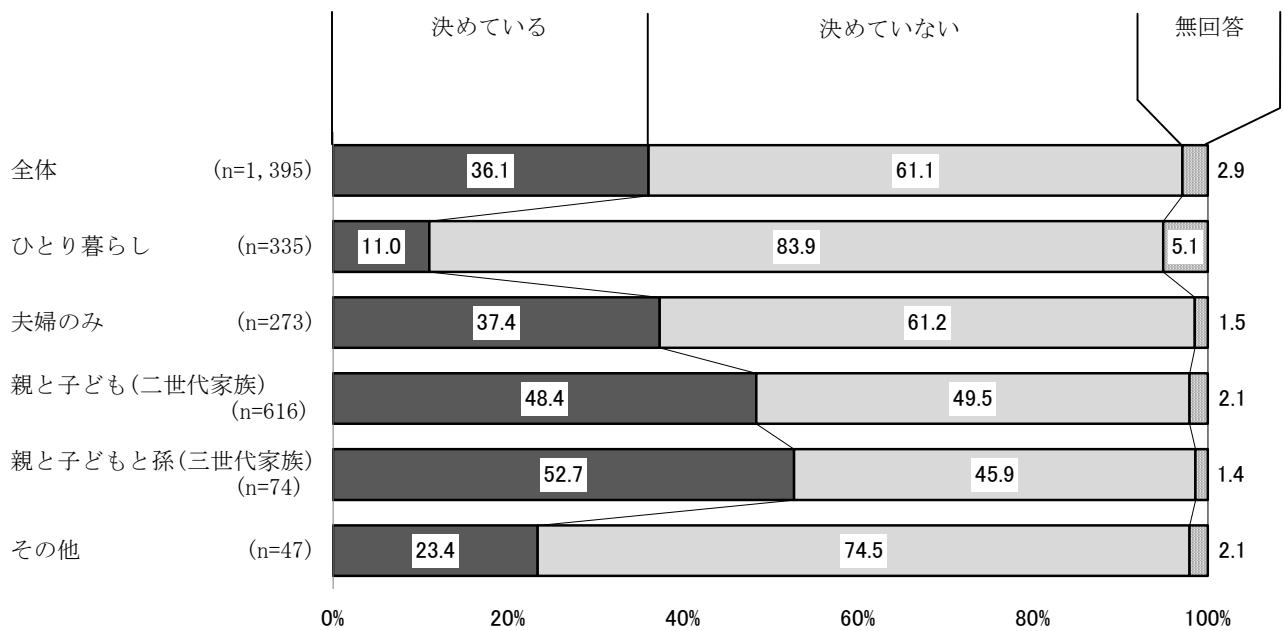
図8-11 震災発生時の家族との集合場所



震災発生時に家族との集合場所をあらかじめ決めているかどうかを聞いたところ、「決めていない」(61.1%)が約6割、「決めている」(36.1%)が3割半ばとなっている。(図8-11)

家族形態別でみると、「決めている」は、親と子どもと孫（三世代家族）の52.7%が最も高く、次いで親と子ども（二世世代家族）の48.4%、夫婦のみの37.4%の順となっている。（図8-12）

図8-12 震災発生時の家族との集合場所 家族形態別

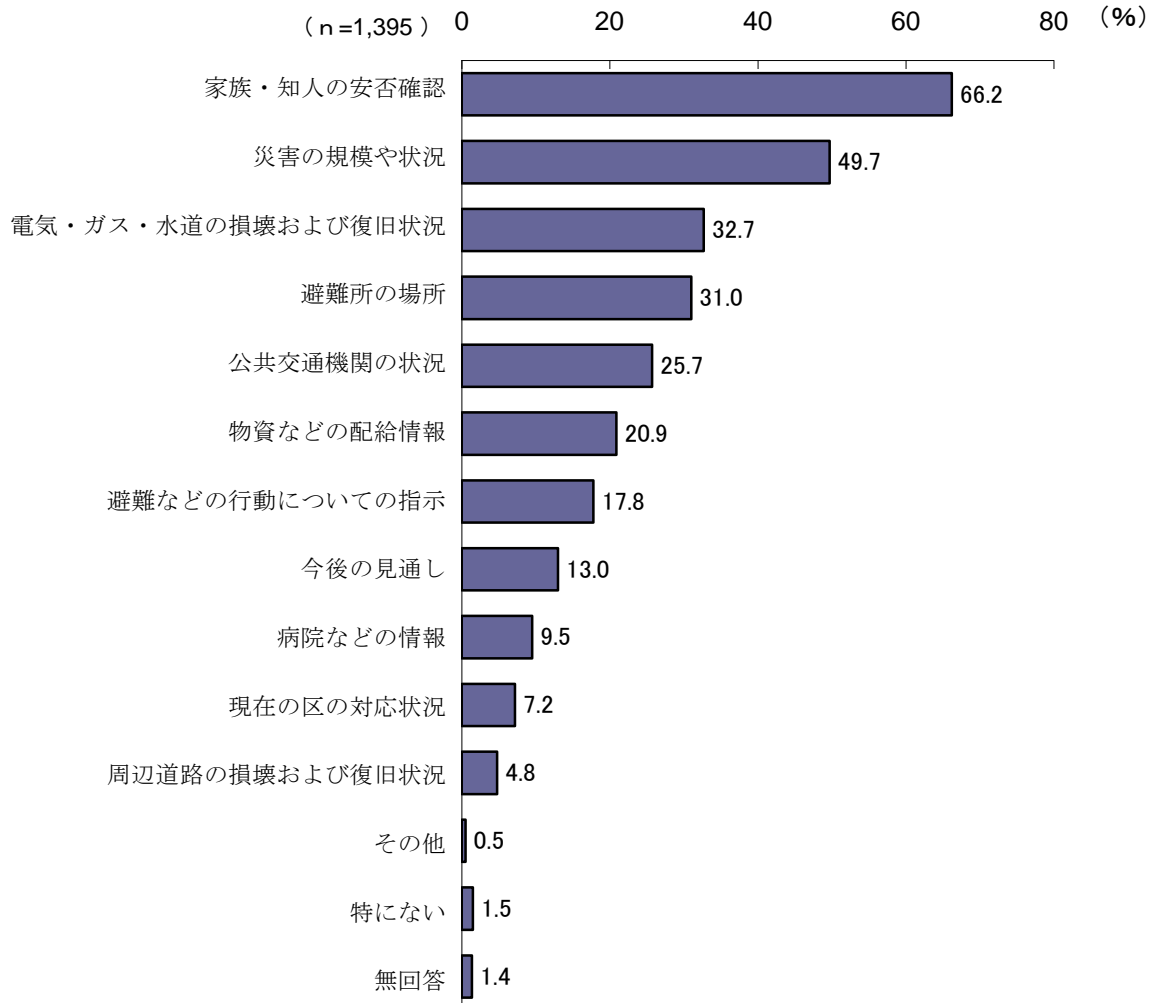


(7) 震災時に必要な情報提供内容

◇「家族・知人の安否確認」が6割半ば、次いで「災害の規模や状況」が約5割

問13 震災が起きた時に、あなたが必要だと思う情報提供の内容はどのようなものですか。
(三つまで○)

図8-13 震災時に必要な情報提供内容



震災時に必要な情報提供の内容を聞いたところ、「家族・知人の安否確認」(66.2%)が最も高く、次いで「災害の規模や状況」(49.7%)、「電気・ガス・水道の損壊および復旧状況」(32.7%)、「避難所の場所」(31.0%)、「公共交通機関の状況」(25.7%)となっている。(図8-13)

家族形態別でみると、「家族・知人の安否確認」は、親と子ども（二世世代家族）と親と子どもと孫（三世世代家族）がともに7割、「電気・ガス・水道の損壊および復旧状況」は、ひとり暮らしと夫婦のみがともに3割半ば程度、「公共交通機関の状況」はひとり暮らしが3割半ばと、それぞれ他と比べて高くなっている。（表8-4）

表8-4 震災時に必要な情報提供内容 家族形態別

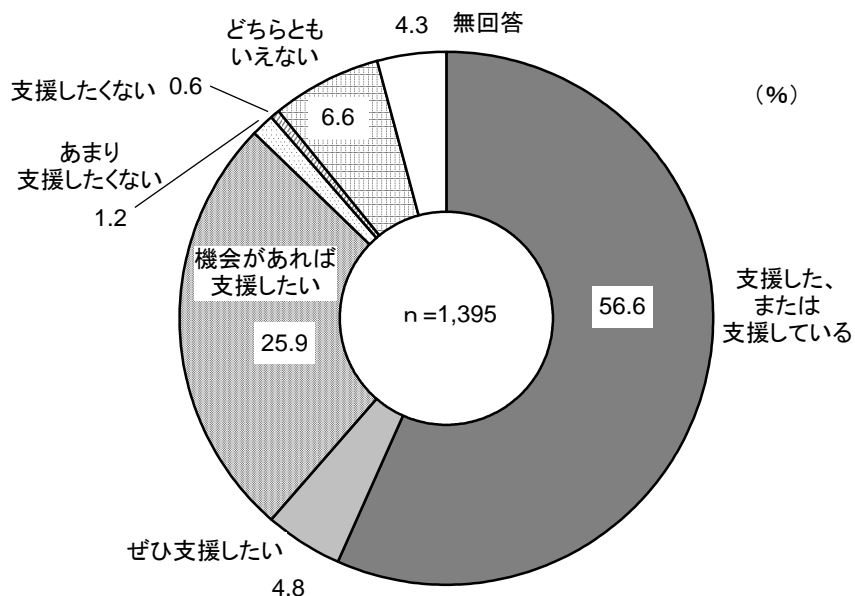
	避難所の場所	災害の規模や状況	公共交通機関の状況	周辺道路の損壊および復旧状況	電気・ガス・水道の損壊および復旧状況	避難などの行動についての指示	現在の区の対応状況	家族・知人の安否確認	病院などの情報	物資などの配給情報	今後の見通し	その他	特になし	無回答
全体 (n=1,395)	31.0	49.7	25.7	4.8	32.7	17.8	7.2	66.2	9.5	20.9	13.0	0.5	1.5	1.4
ひとり暮らし (n=335)	30.4	47.5	34.3	4.8	35.5	15.5	5.1	52.2	6.9	17.6	14.9	0.3	3.9	1.5
夫婦のみ (n=273)	31.9	51.3	21.2	4.4	37.0	19.4	6.6	68.9	9.2	20.9	13.9	1.1	1.1	1.1
親と子ども（二世世代家族） (n=616)	29.5	51.1	24.7	5.2	29.9	18.0	7.8	73.1	10.6	22.1	10.9	0.3	0.6	1.3
親と子どもと孫（三世世代家族） (n=74)	35.1	55.4	16.2	2.7	28.4	20.3	8.1	73.0	12.2	20.3	14.9	1.4	0.0	2.7
その他 (n=47)	34.0	42.6	25.5	2.1	27.7	21.3	17.0	61.7	8.5	17.0	25.5	0.0	0.0	0.0

(8)「東日本大震災」の復興支援活動意向

◇『支援意向のある』人は8割半ばを超えている

問14 「東日本大震災」の復興支援活動について、あなたはどのように考えますか。(一つに○)

図8-14 「東日本大震災」の復興支援活動意向

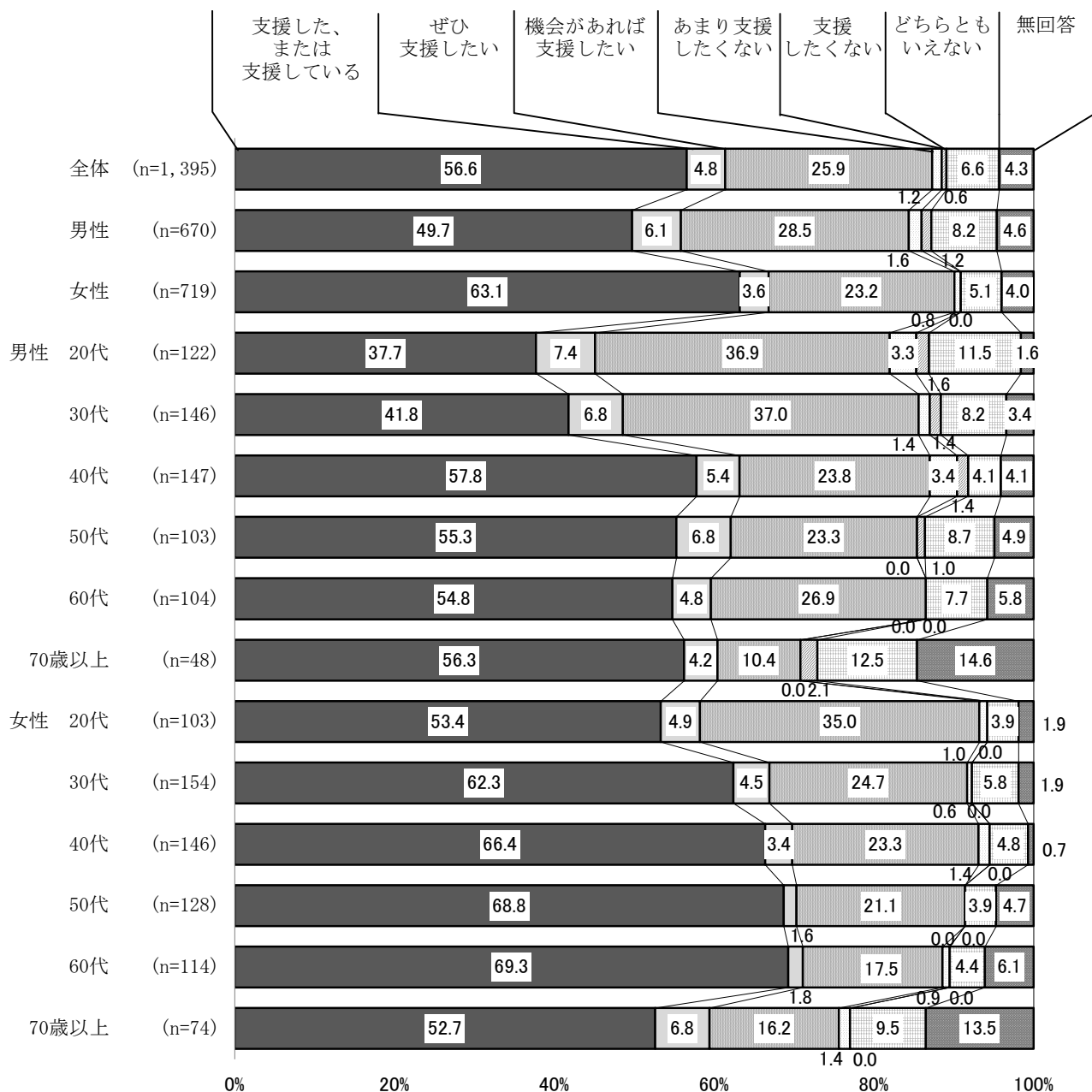


「東日本大震災」の復興支援活動の意向を聞いたところ、「支援した、または支援している」(56.6%)が最も高く、次いで「機会があれば支援したい」(25.9%)となっている。「支援した、または支援している」、「機会があれば支援したい」、「ぜひ支援したい」を合計した『支援意向のある』人は8割半ばを超えている。(図8-14)

性別でみると、「支援した、または支援している」は男性49.7%、女性63.1%で女性の方が10ポイント以上高くなっている。

性・年代別でみると、『支援意向のある』人は、男性では20代～60代が8割を越え、女性では20代～50代が9割を超えている。また、実際に、「支援した、または支援している」では、男性の40代以上が5割を越え、女性では30代～60代が6割を超えている。(図8-15)

図8-15 「東日本大震災」の復興支援活動意向 性別、性・年代別



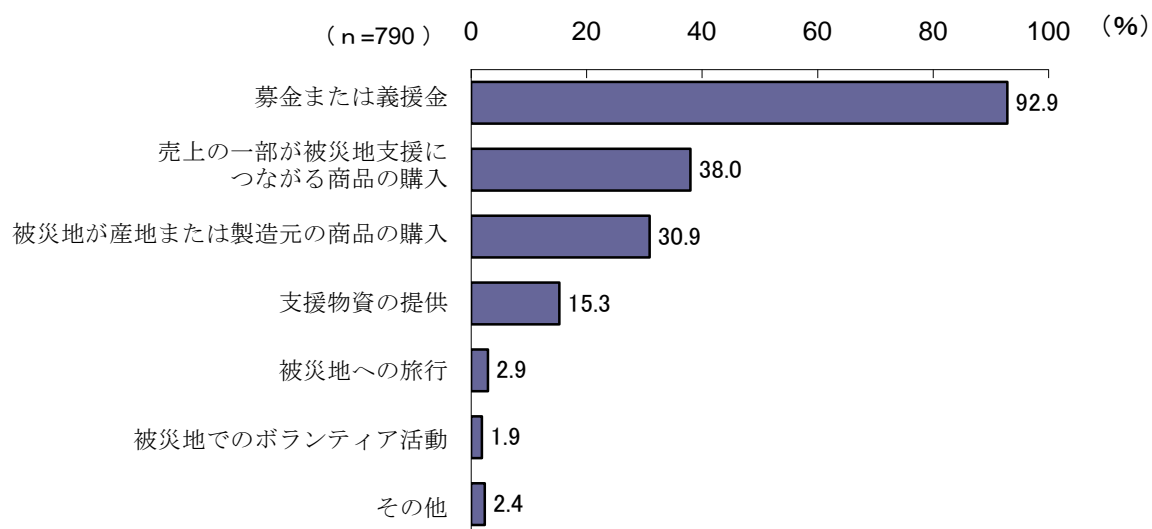
(8-1) 復興支援内容

◇支援内容は「募金または義援金」が9割を超える

【問14で「1 支援した、または支援している」と答えた方に伺います】

問14-1 あなたが行った、または行っている内容は、どのようなものですか。(いくつでも○)

図8-16 復興支援内容



「東日本大震災」の復興支援の活動内容を聞いたところ、「募金または義援金」(92.9%)が最も高く、次いで「売上の一部が被災地支援につながる商品の購入」(38.0%)、「被災地が産地または製造元の商品の購入」(30.9%)、「支援物資の提供」(15.3%)となっている。(図8-16)

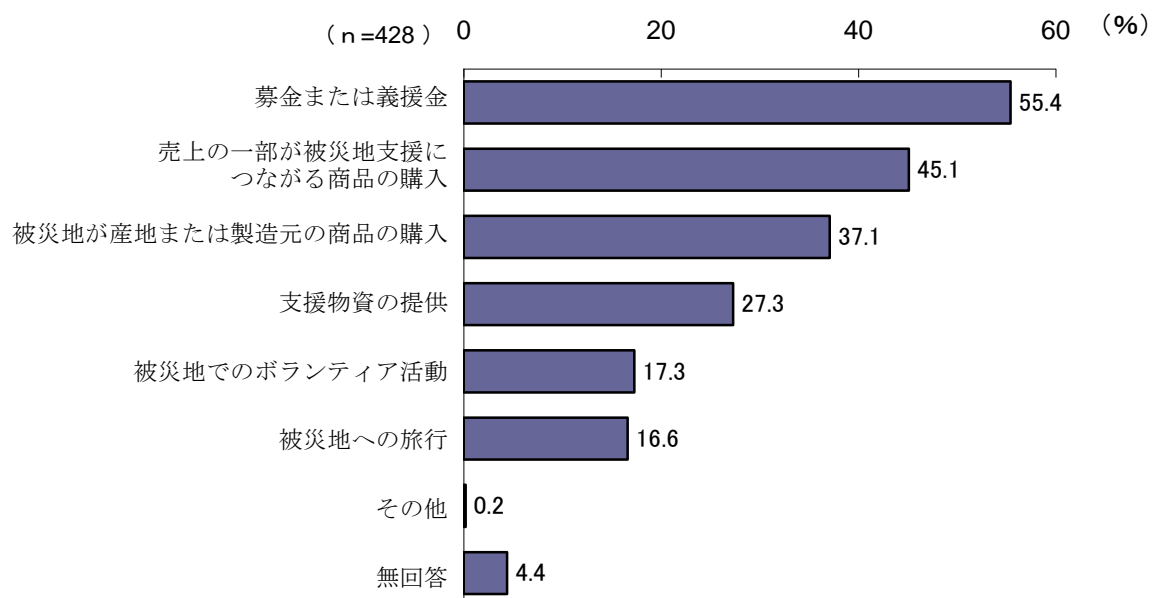
(8-2) 今後の復興支援活動意向

◇今後の支援内容は『募金または義援金』が5割半ば

【問14で「2 ぜひ支援したい」「3 機会があれば支援したい」と答えた方に伺います】

問14-2 あなたが行いたい内容は、どのようなものですか。(いくつでも○)

図8-17 今後の復興支援活動意向



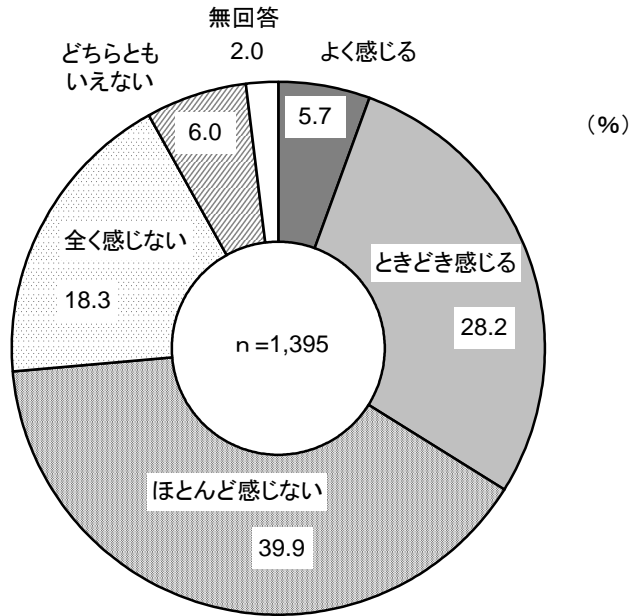
「東日本大震災」の復興支援の今後の活動意向を聞いたところ、「募金または義援金」(55.4%)が最も高い。また、「売上の一部が被災地支援につながる商品の購入」「被災地が産地または製造元の商品の購入」を合計した『商品の購入による支援意向』は8割を超えている。(図8-17)

(9) 都市型水害の危険性

◇『不安を感じている』人は約3割

問15 近年、都市部では台風などによる河川氾濫^{はんらん}のほか、下水の逆流などによる内水氾濫などがあります（以下「都市型水害」という）。あなたはそれらの氾濫の危険を身近に感じることがありますか。（一つに○）

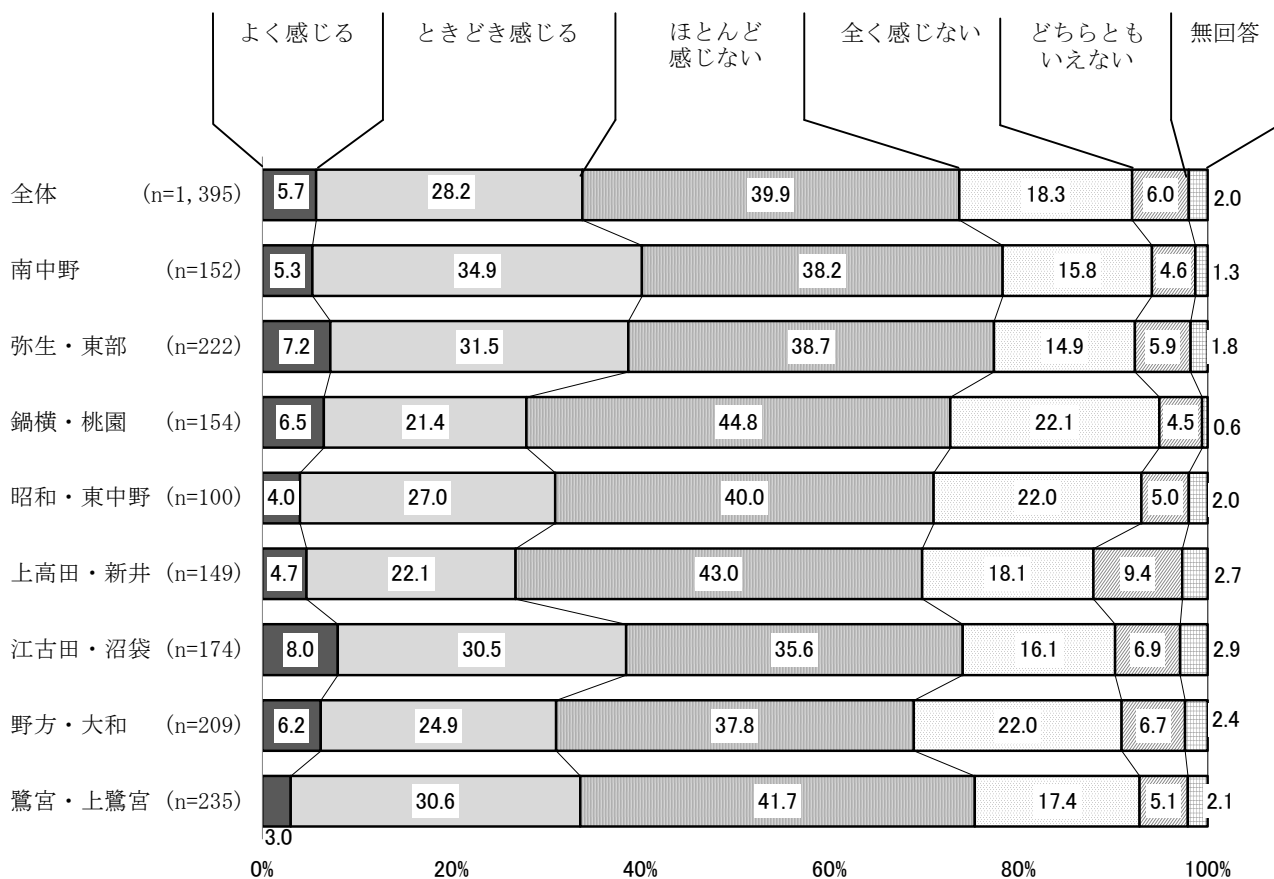
図8-18 都市型水害の危険性



都市型水害の危険性を聞いたところ、「ほとんど感じない」(39.9%)が最も高く、次いで「ときどき感じる」(28.2%)、「全く感じない」(18.3%)となっている。「よく感じる」、「ときどき感じる」を合計した『不安を感じている』人は約3割となっている。一方、「ほとんど感じない」、「全く感じない」を合計した『不安を感じていない』人は約6割となっている。(図8-18)

地域別でみると、『不安を感じている』人の割合は、南中野で40.2%と最も高く、上高田・新井で26.8%と最も低くなっている。一方、『不安を感じていない』人の割合は、鍋横・桃園で66.9%と最も高く、江古田・沼袋で51.7%と最も低くなっている。(図8-19)

図8-19 都市型水害の危険性 地域別

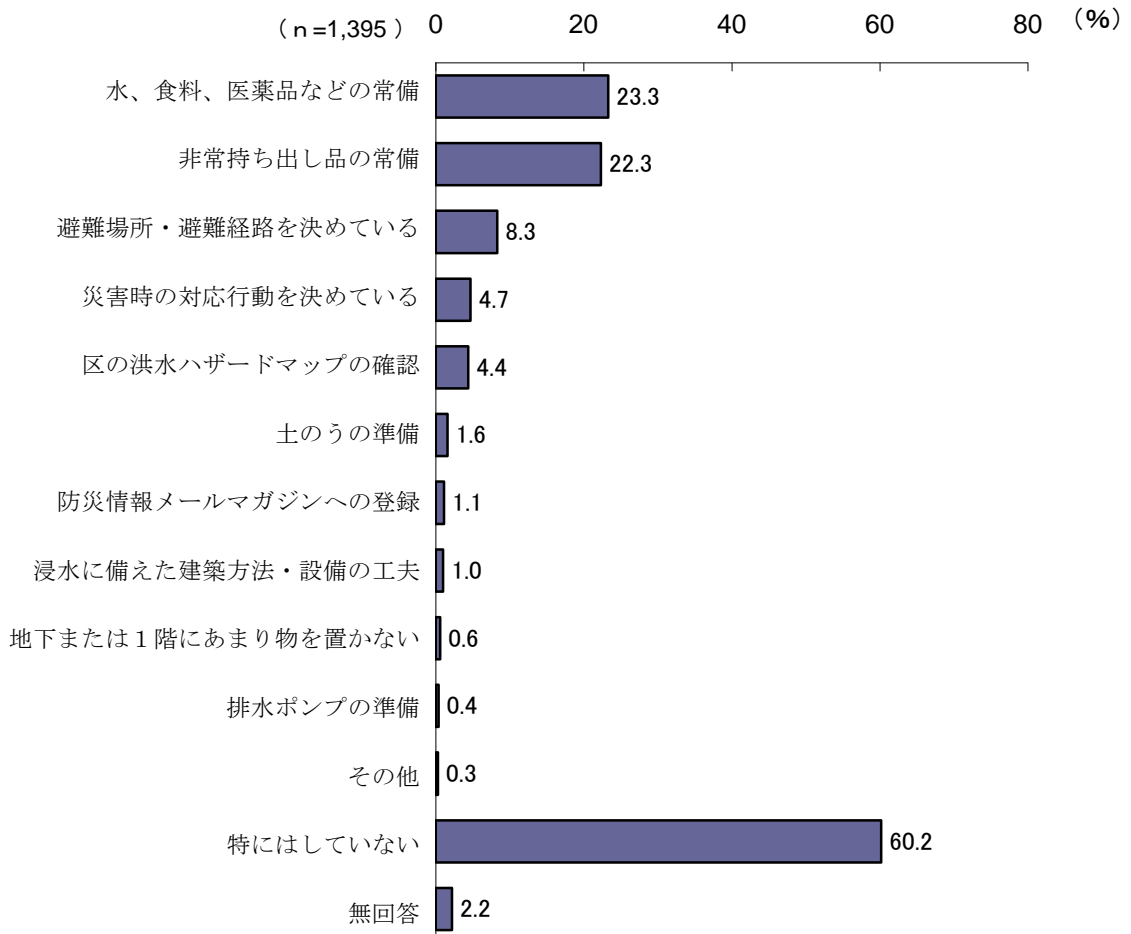


(10) 都市型水害への対策

◇「特にはしていない」が約6割、「水、食料、医薬品などの常備」「非常持ち出し品の常備」が2割を超える

問16 あなたは、都市型水害が起きた時に備え、普段から準備していることがありますか。
(いくつでも○)

図8-20 都市型水害への対策



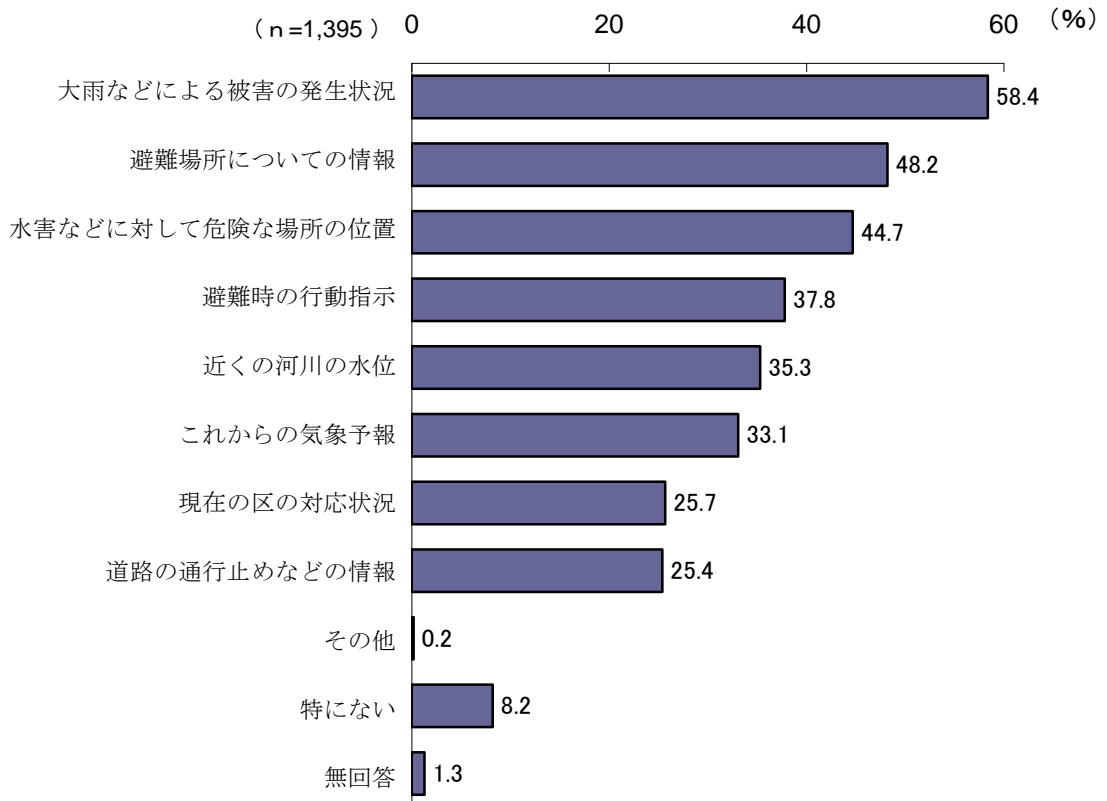
都市型水害が起きた際の備えを聞いたところ、「特にはしていない」(60.2%)が最も高くなっている。具体的な備えの内容は、「水、食料、医薬品などの常備」と「非常持ち出し品の常備」がともに約2割、「避難場所・避難経路を決めている」が1割程度となっている。(図8-20)

(11) 都市型水害時に区に期待する情報提供内容

◇「大雨などによる被害の発生状況」が約6割、次いで「避難場所についての情報」が約5割

問17 都市型水害があなたの身近に起きた際、あなたが区に期待する情報提供の内容はどのようなものですか。(いくつでも○)

図8-21 都市型水害時に区に期待する情報提供内容



都市型水害が起きた際に、区に期待する情報提供の内容を聞いたところ、「大雨などによる被害の発生状況」(58.4%)が最も高く、次いで「避難場所についての情報」(48.2%)、「水害などに対して危険な場所の位置」(44.7%)、「避難時の行動指示」(37.8%)、「近くの河川の水位」(35.3%)、「これからの気象予報」(33.1%)となっている。(図8-21)

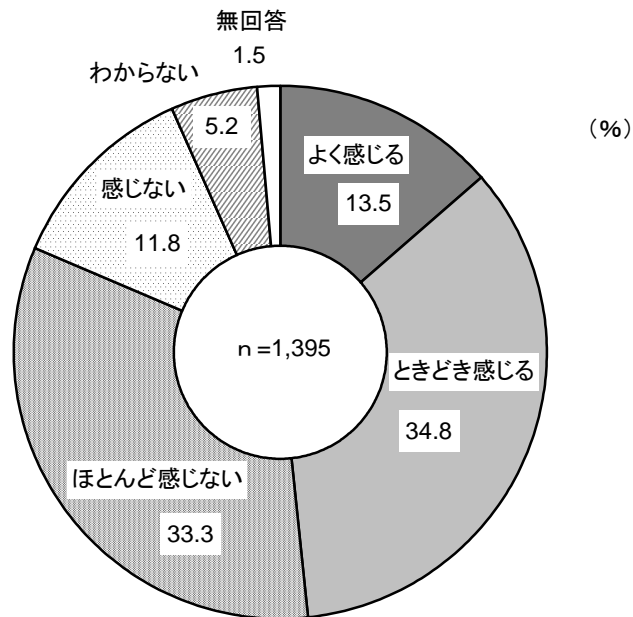
4 生活の安全（見守り・支えあい）

（1）日常生活での不安

◇『不安を感じている』人は約5割

問18 あなたは、ご自身の健康状態、社会とのつながり、経済状況などについて不安や心配を感じることはありませんか。（一つに○）

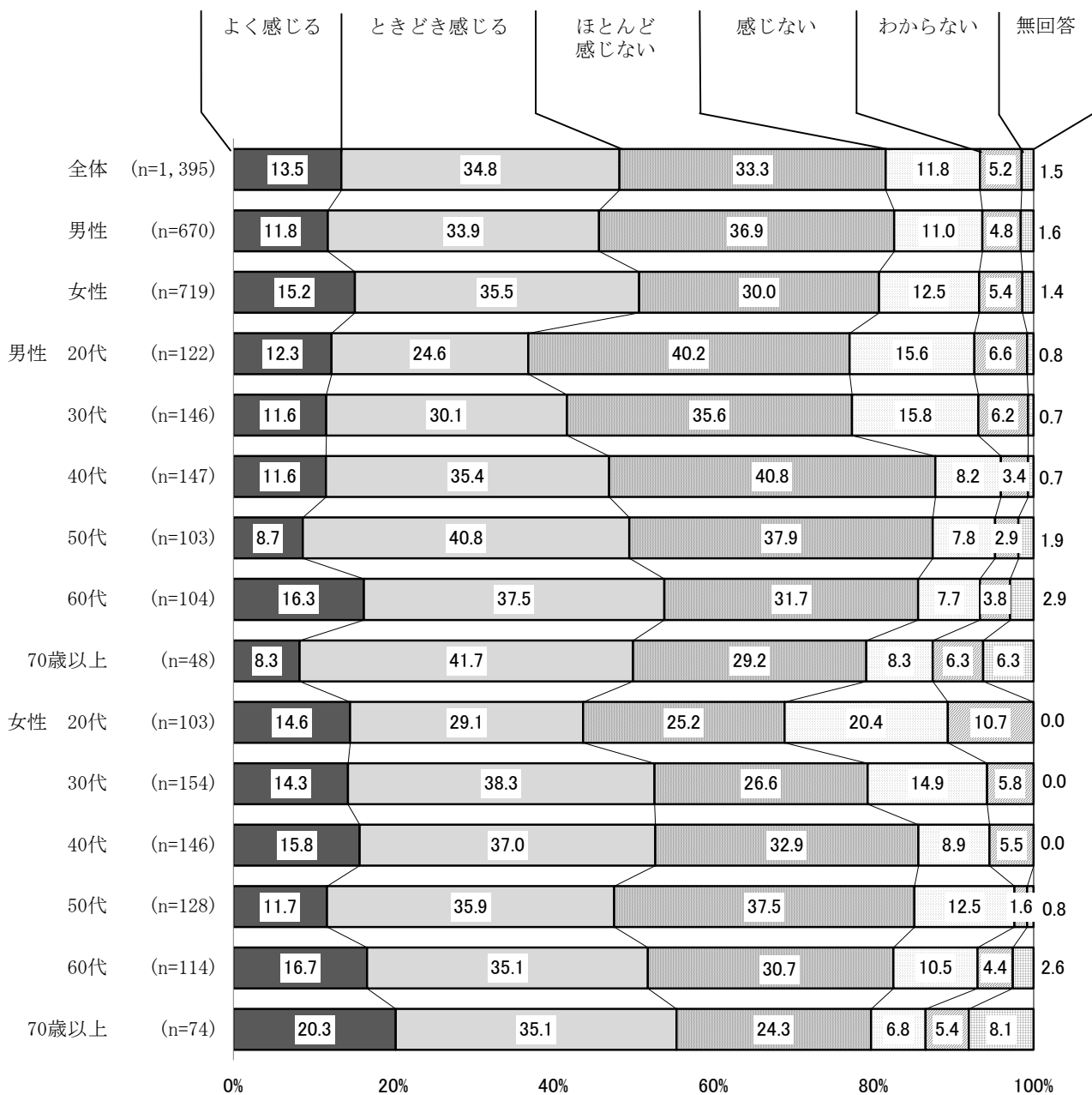
図9-1 日常生活での不安



自身の健康状態、社会とのつながり、経済状況などについての不安について聞いたところ、「ときどき感じる」(34.8%)が最も高く、「よく感じる」、「ときどき感じる」を合計した『不安を感じている』人は約5割となっている。一方、「ほとんど感じない」、「感じない」を合計した『不安を感じていない』人は4割半ばとなっている。(図9-1)

性別でみると、『不安を感じている』人の割合は、差は大きくはないが女性が男性を上回っている。
 性・年代別でみると、『不安を感じている』人の割合は、男性60代が53.8%、女性70歳以上が55.4%
 と高くなっている。(図9-2)

図9-2 日常生活での不安 性別、性・年代別



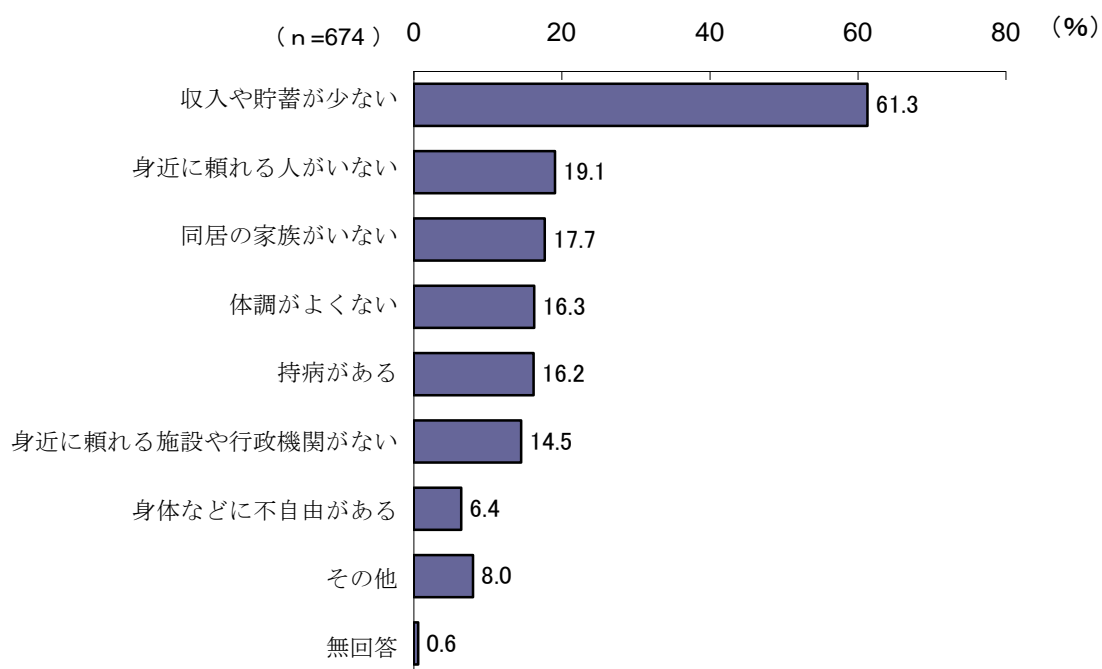
(1-1) 日常生活で不安を感じる理由

◇「収入や貯蓄が少ない」が6割以上

【問18で「1 よく感じる」「2 ときどき感じる」と答えた方に伺います】

問18-1 その理由は何ですか。(いくつでも○)

図9-3 日常生活で不安を感じる理由



『不安を感じている』人にその理由を聞いたところ、「収入や貯蓄が少ない」(61.3%)が最も高く、次いで「身近に頼れる人がいない」(19.1%)、「同居の家族がいない」(17.7%)、「体調がよくない」(16.3%)、「持病がある」(16.2%)となっている。(図9-3)

家族形態別でみると、『不安を感じている』人の理由では、「収入や貯蓄が少ない」がすべての家族形態で5割を超えている。また、「身近に頼れる人がいない」はひとり暮らしが26.8%、「同居の家族がない」はひとり暮らしが56.8%、「体調がよくない」は親と子どもと孫（三世代家族）が29.6%、「持病がある」は夫婦のみが21.5%でそれぞれ最も高くなっている。（表9-1）

表9-1 日常生活で不安を感じる理由 家族形態別

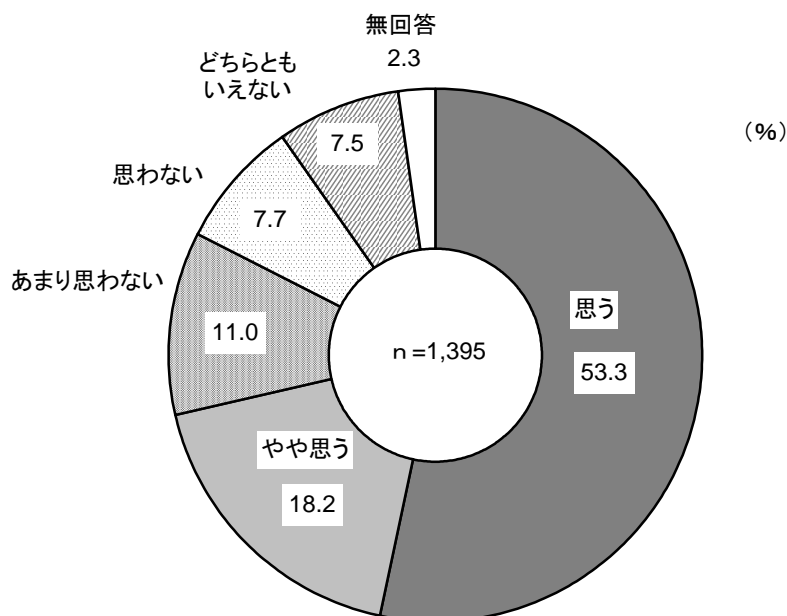
	同居の家族がない	収入や貯蓄が少ない	身体などに不自由がある	持病がある	体調がよくない	身近に頼れる人がいない	身近に頼れる施設や行政機関がない	その他	無回答
全体（n=674）	17.7	61.3	6.4	16.2	16.3	19.1	14.5	8.0	0.6
ひとり暮らし（n=183）	56.8	63.9	7.1	11.5	10.4	26.8	9.3	1.6	0.5
夫婦のみ（n=130）	3.8	56.9	6.2	21.5	20.0	16.9	23.8	11.5	2.3
親と子ども（二世世代家族）（n=285）	2.1	61.8	4.9	17.5	16.8	16.8	14.7	9.5	0.0
親と子どもと孫（三世代家族）（n=27）	0.0	63.0	11.1	14.8	29.6	3.7	7.4	22.2	0.0
その他（n=26）	3.8	76.9	3.8	3.8	23.1	19.2	7.7	3.8	0.0

(2) 見守りサービスの必要性

◇『必要だと思う』人は7割以上

問19 民間、行政問わず、高齢の方や身体などに不自由がある方へのさまざまな見守りサービスがありますが、あなたご自身はこれらのサービスを必要だと思いますか。(一つに○)

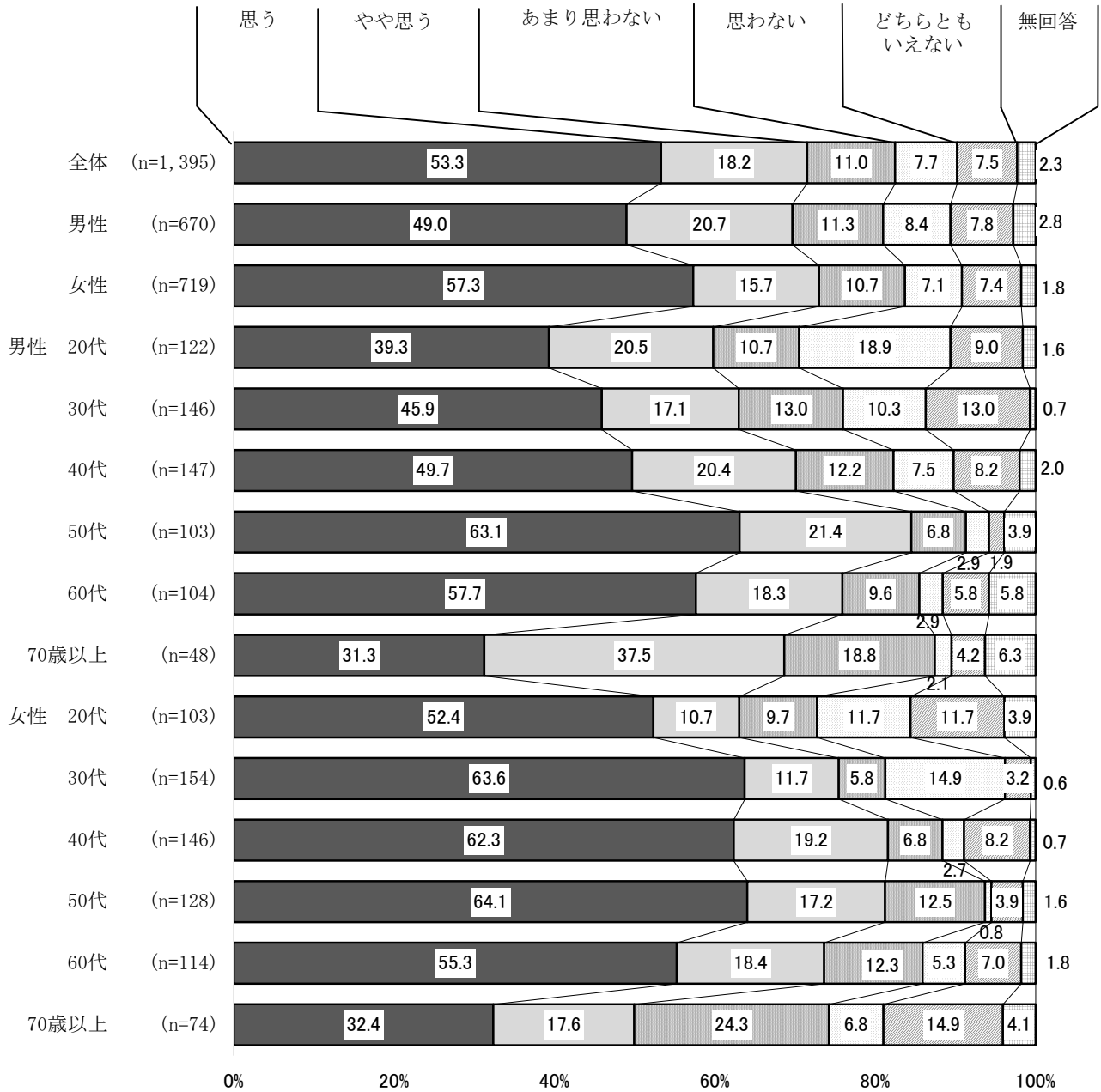
図9-4 見守りサービスの必要性



見守りサービスの必要性を聞いたところ、「思う」(53.3%)が最も高く、次いで「やや思う」(18.2%)、「あまり思わない」(11.0%)、「思わない」(7.7%)となっている。「思う」、「やや思う」を合計した『必要だと思う』人は7割を超えている。一方、「あまり思わない」、「思わない」を合計した『必要だと思わない』人は約2割となっている。(図9-4)

性別でみると、『必要だと思う』人の割合は、差は大きくはないが女性が男性を上回っている。
 性・年代別でみると、『必要だと思う』人の割合は、男性50代と女性40代、50代で8割を超えて高くなっている。(図9-5)

図9-5 見守りサービスの必要性 性別、性・年代別



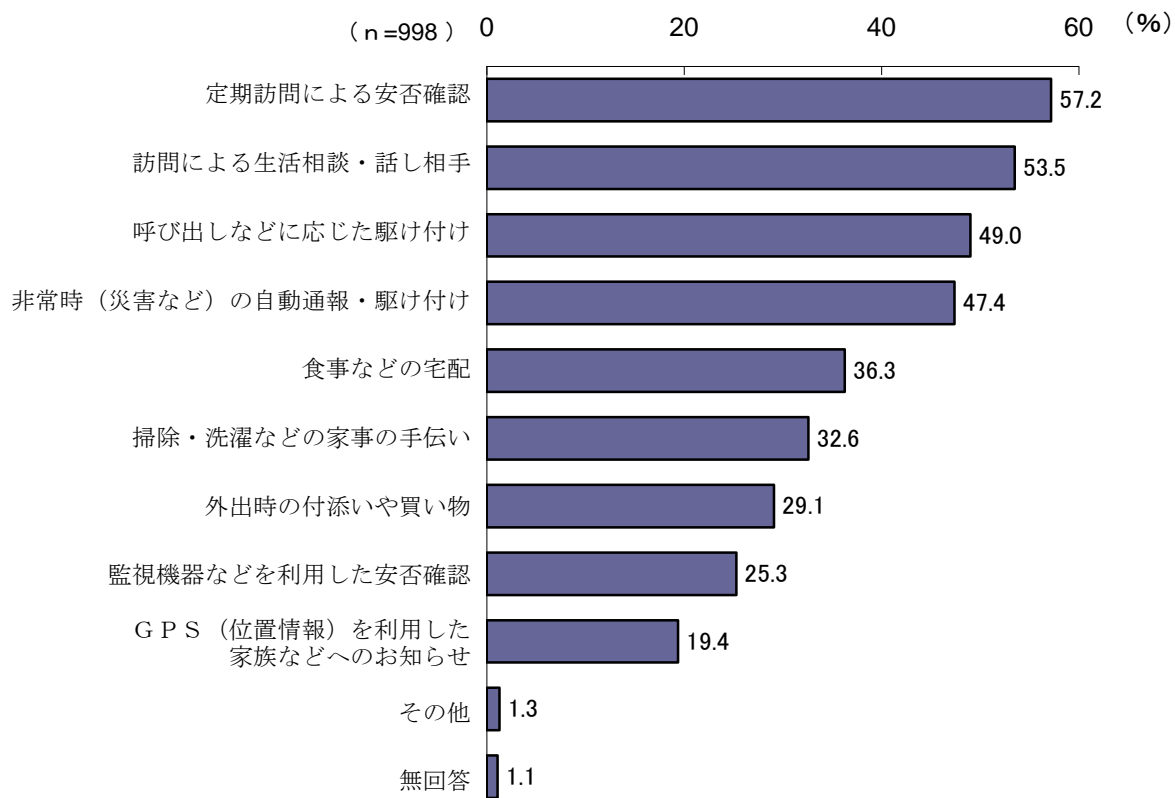
(2-1) 必要だと思う見守りサービスの内容

◇「定期訪問による安否確認」と「訪問による生活相談・話し相手」が5割以上

【問19で「1 思う」「2 やや思う」と答えた方に伺います】

問19-1 あなたが必要だと思うサービスの内容は何ですか。(いくつでも○)

図9-6 必要だと思う見守りサービスの内容



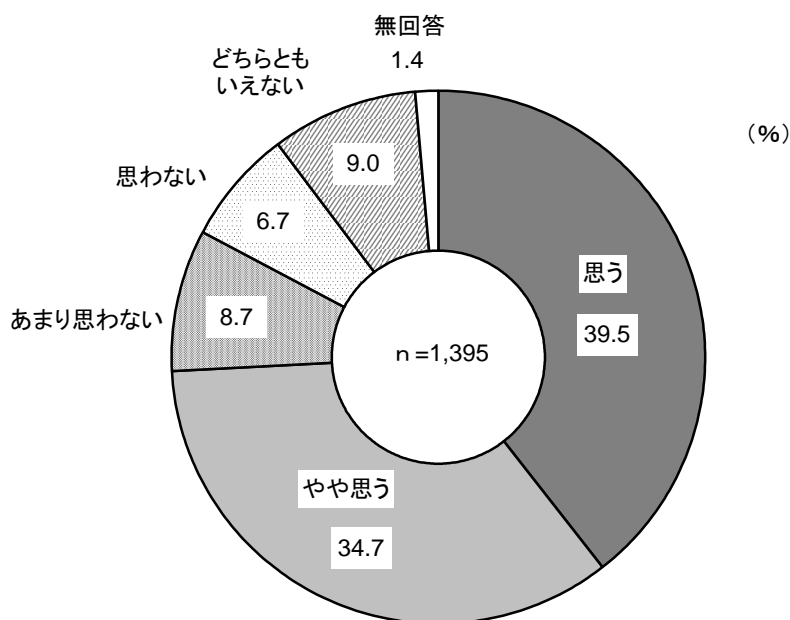
『必要だと思う』人にそのサービスの内容を聞いたところ、「定期訪問による安否確認」(57.2%)が最も高く、次いで「訪問による生活相談・話し相手」(53.5%)、「呼び出しなどに応じた駆け付け」(49.0%)、「非常時(災害など)の自動通報・駆け付け」(47.4%)となっている。(図9-6)

(3) ご近所同士の支えあいや見守りの必要性

◇『必要だと思う』人は7割以上

問20 あなたは、これら民間や行政のサービス以外に、ご近所同士の支えあいや見守りが必要だと思いますか。(一つに○)

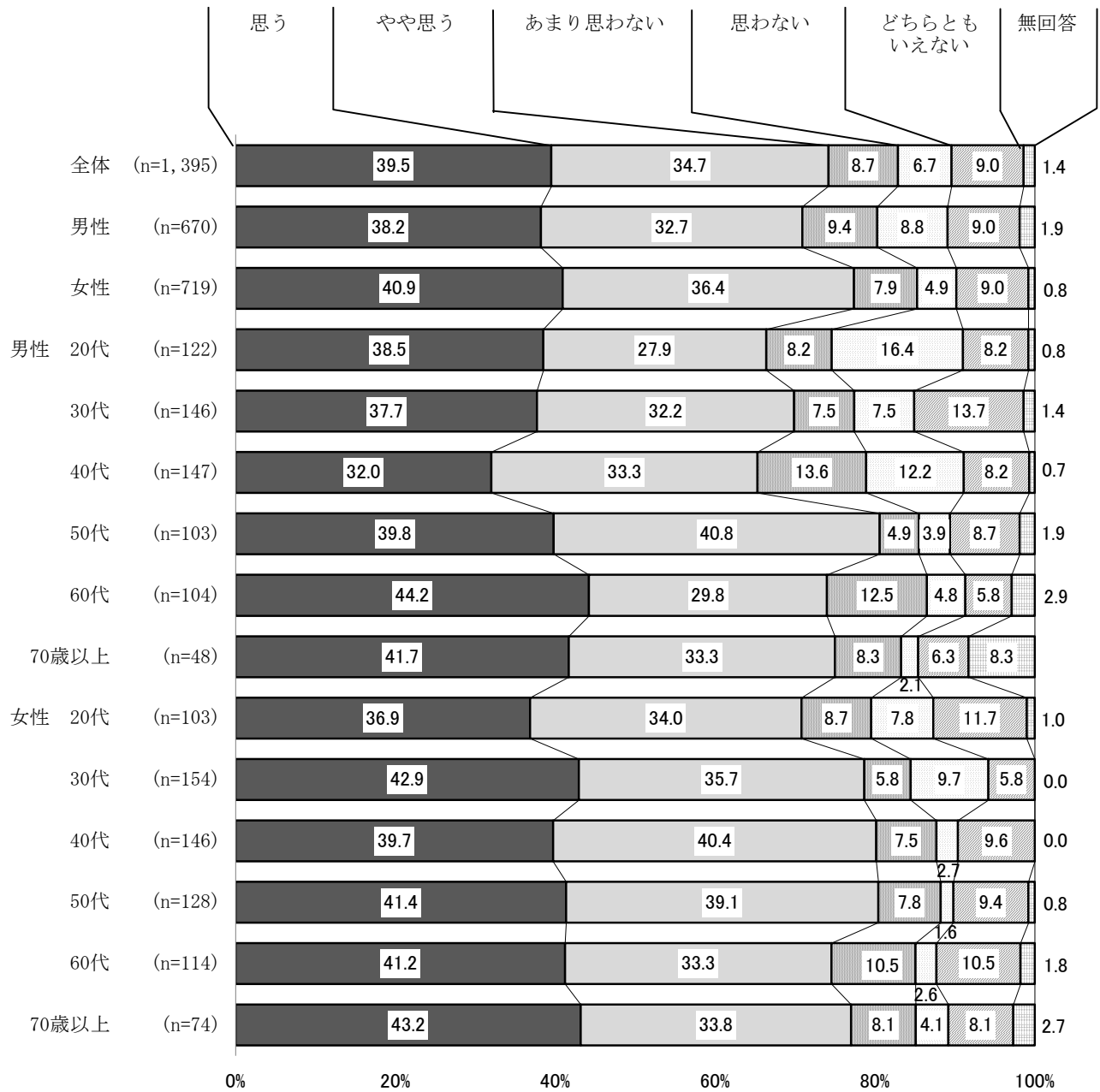
図9-7 ご近所同士の支えあいや見守りの必要性



ご近所同士の支えあいや見守りの必要性について聞いたところ、「思う」(39.5%)が最も高く、次いで「やや思う」(34.7%)、「あまり思わない」(8.7%)、「思わない」(6.7%)となっている。「思う」、「やや思う」を合計した『必要だと思う』人は7割を超えている。一方、「あまり思わない」、「思わない」を合計した『必要だと思わない』人は1割半ばとなっている。(図9-7)

性別でみると、『必要だと思う』人の割合は、差は大きくはないが女性が男性を上回っている。
 性・年代別でみると、『必要だと思う』人の割合は、男性50代と女性40代、50代で8割を超えて高くなっている。(図9-8)

図9-8 ご近所同士の支えあいや見守りの必要性 性別、性・年代別

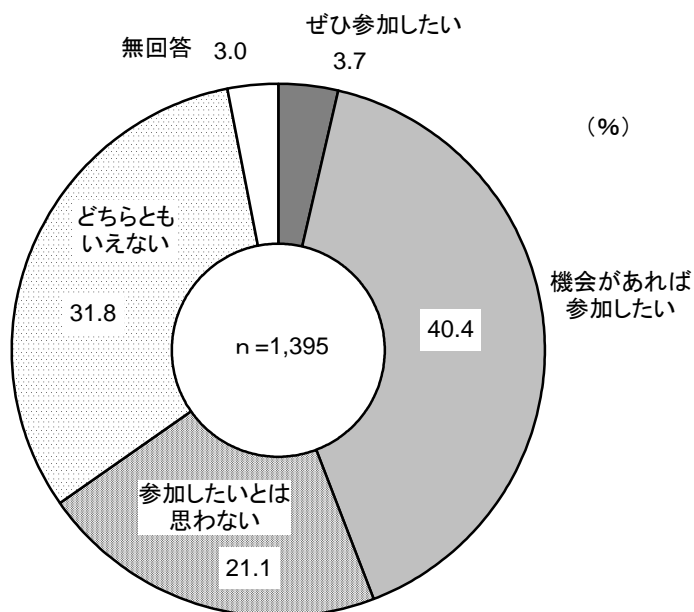


(4) 近隣での支えあいや見守り活動への活動参加意向

◇『参加したい人』は4割半ば

問21 あなたご自身は、近隣の高齢の方や身体などに不自由がある方に対しての見守りや、支えあいの活動に参加したいと思いますか。(一つに○)

図9-9 近隣での支えあいや見守り活動への活動参加意向

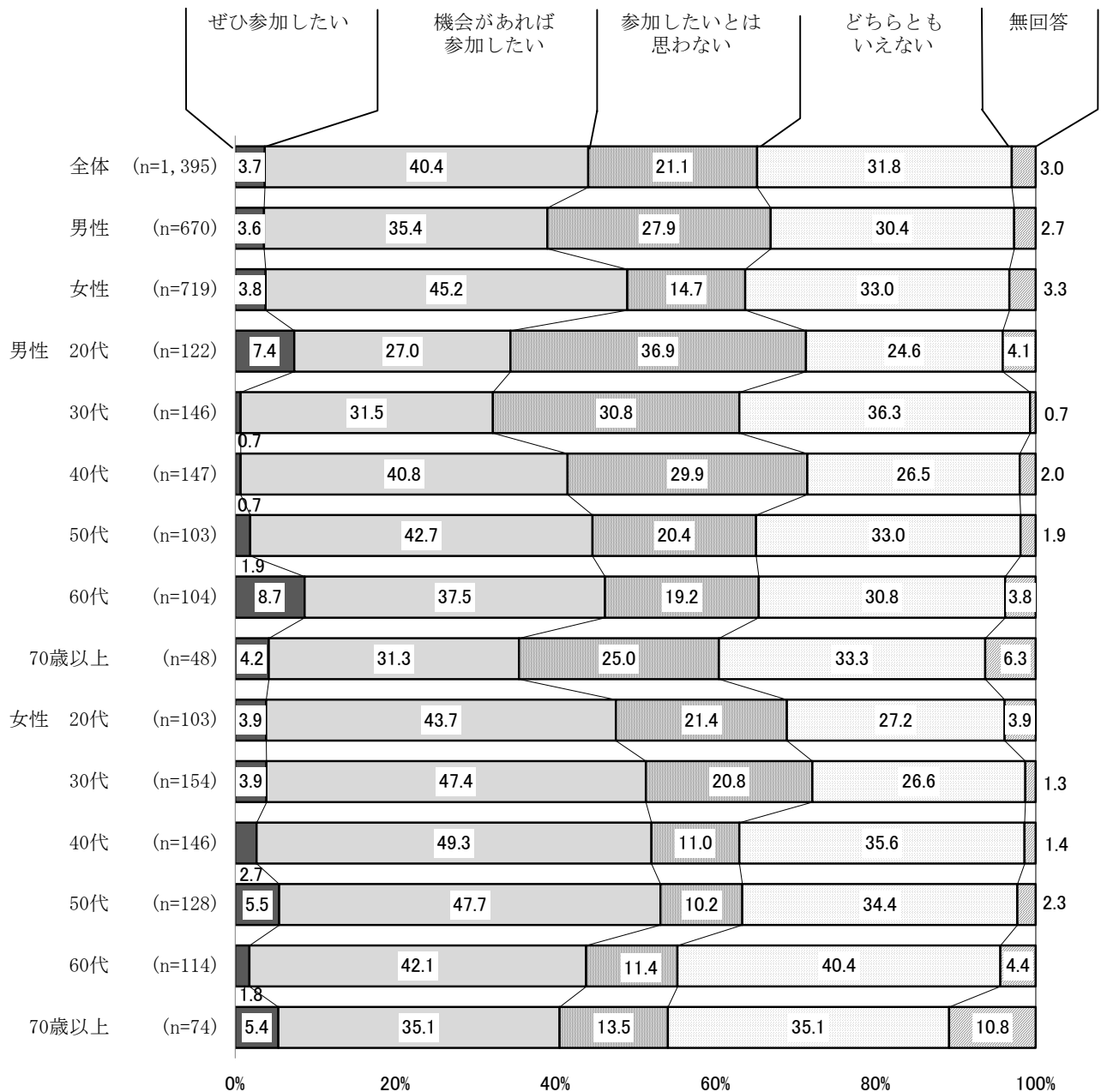


近隣での支えあいや見守り活動への参加意向を聞いたところ、「機会があれば参加したい」40.4%が最も高く、「ぜひ参加したい」「機会があれば参加したい」を合計した『参加したい』人は4割半ばとなっており、「どちらともいえない」が31.8%、「参加したいとは思わない」が21.1%となっている。(図9-9)

性別でみると、『参加したい』人の割合は、男性39.0%、女性49.0%で女性の方が10ポイント高くなっている。

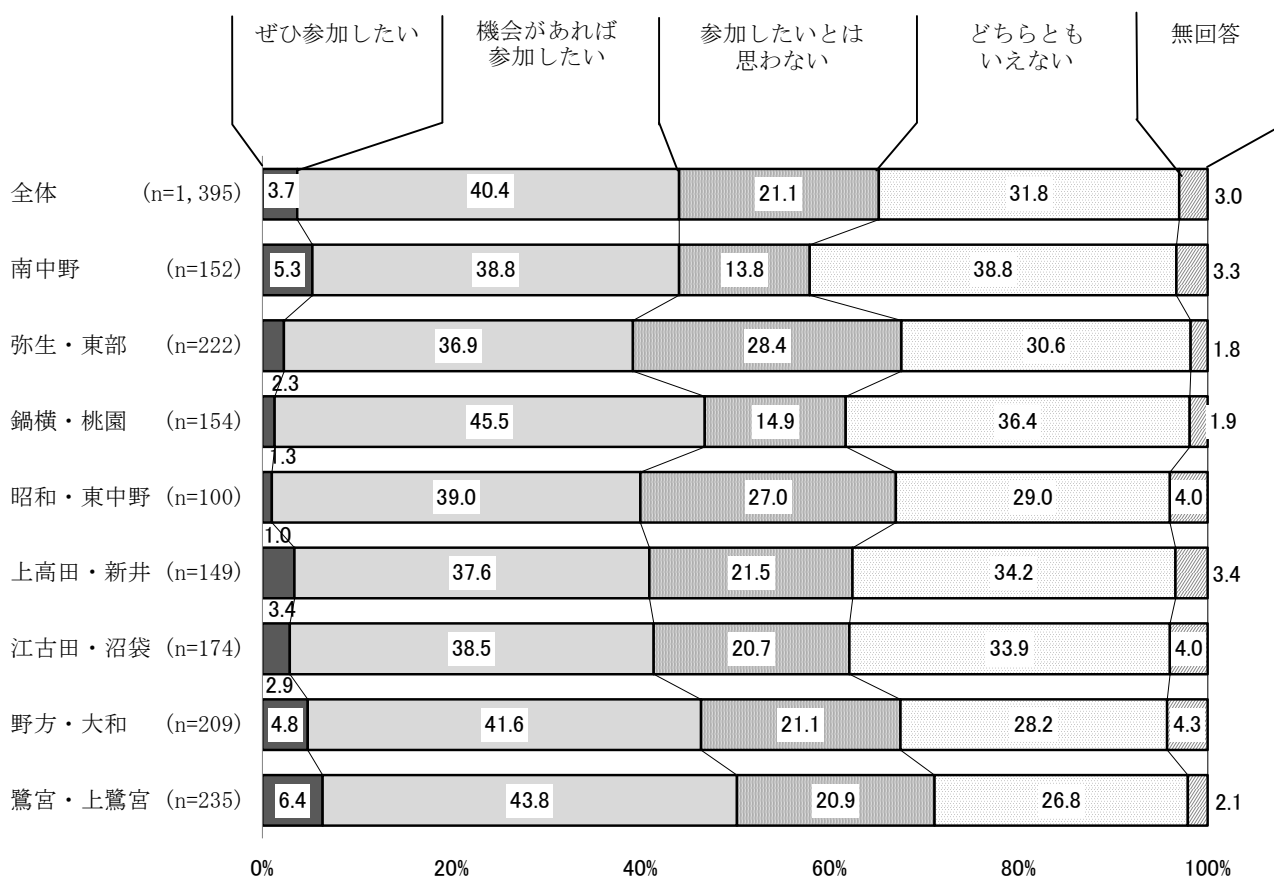
性・年代別でみると、『参加したい』人の割合は、女性はすべての年代で4割以上となっており、女性50代（53.2%）で最も高くなっている。（図9-10）

図9-10 近隣での支えあいや見守り活動への活動参加意向 性別、性・年代別



地域別でみると、『参加したい』人の割合は、鷲宮・上鷲宮で50.2%と最も高く、弥生・東部で39.2%と最も低くなっている。(図9-11)

図9-11 ご近所同士の支えあいや見守りの必要性 地域別



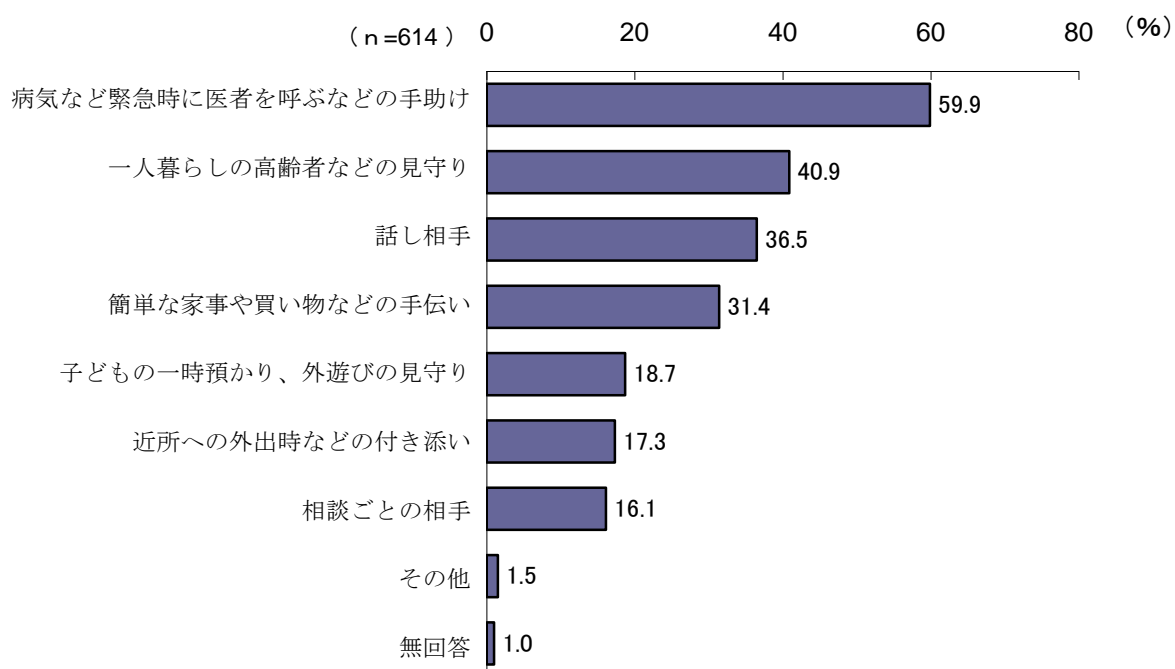
(4-1) 参加したい活動内容

◇「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」が約6割

【問21で「1 ぜひ参加したい」「2 機会があれば参加したい」と答えた方に伺います】

問21-1 あなたが具体的にしたいと思うことは何ですか。(いくつでも○)

図9-12 参加したい活動内容



『参加したい』人に具体的な活動内容を聞いたところ、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」(59.9%)が最も高く、次いで「一人暮らしの高齢者などの見守り」(40.9%)、「話し相手」(36.5%)、「簡単な家事や買い物などの手伝い」(31.4%)となっている。(図9-12)

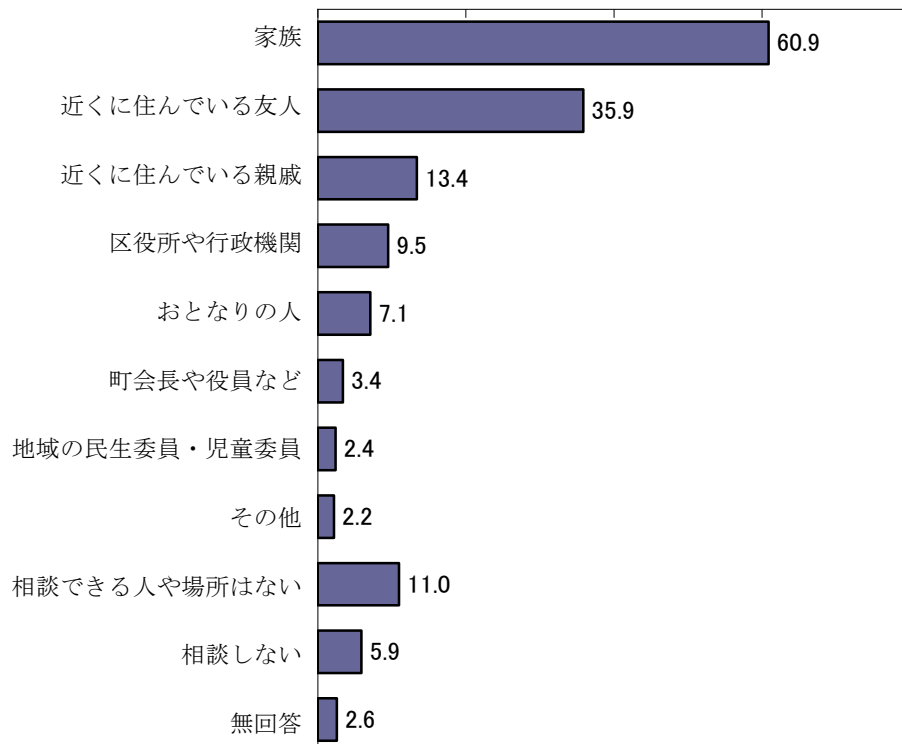
(5) 困った際の地域での相談先

◇「家族」が6割以上、「相談できる人や場所はない」は1割程度

問22 あなたが困った時にその地域で相談できる人や場所がありますか。(いくつでも○)

図9-13 困った際の地域での相談先

(n=1,395) 0 20 40 60 80 (%)



困りごとの地域での相談先を聞いたところ、「家族」(60.9%)が最も高く、次いで「近くに住んでいる友人」(35.9%)、「近くに住んでいる親戚」(13.4%)、「区役所や行政機関」(9.5%)となっている。また、「相談できる人や場所はない」が11.0%みられた。(図9-13)

地域別でみると、「家族」は江古田・沼袋が65.5%、「近くに住んでいる友人」は弥生・東部で40.1%、「近くに住んでいる親戚」は鷺宮・上鷺宮で19.6%、でそれぞれ最も高くなっている。一方、「相談できる人や場所はない」は昭和・東中野が16.0%で他の地域と比べて高くなっている。(表9-2)

表9-2 困った際の地域での相談先 地域別

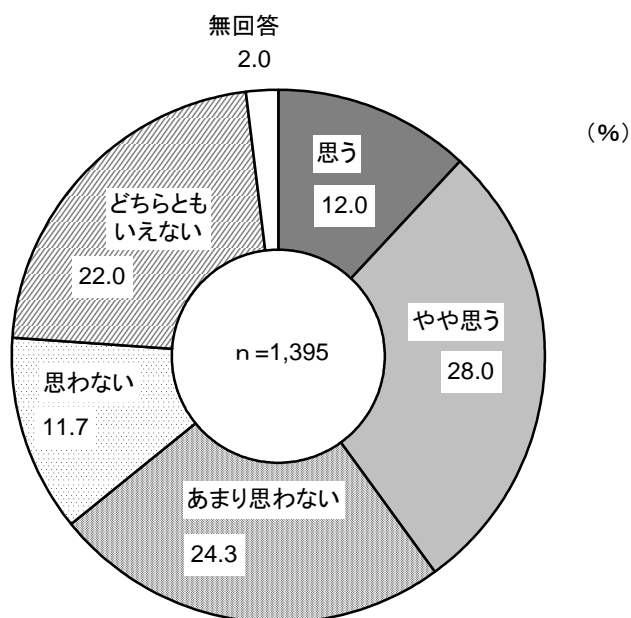
	家族	近くに住んでいる友人	近くに住んでいる親戚	区役所や行政機関	おとなりの人	町会長や役員など	地域の民生委員・児童委員	その他	相談できる人や場所はない	相談しない	無回答
全体 (n=1,395)	60.9	35.9	13.4	9.5	7.1	3.4	2.4	2.2	11.0	5.9	2.6
南中野 (n=152)	60.5	38.2	9.9	7.9	10.5	3.9	3.3	2.6	13.8	2.6	3.9
弥生・東部 (n=222)	61.7	40.1	10.8	11.7	6.3	1.8	3.6	1.4	10.4	5.0	1.4
鍋横・桃園 (n=154)	58.4	32.5	11.7	9.1	5.8	5.2	1.3	1.9	13.6	3.9	1.3
昭和・東中野 (n=100)	51.0	28.0	13.0	10.0	9.0	3.0	1.0	2.0	16.0	6.0	3.0
上高田・新井 (n=149)	55.7	37.6	10.7	10.1	5.4	4.0	2.0	4.7	10.1	8.1	4.0
江古田・沼袋 (n=174)	65.5	36.8	14.4	12.1	6.3	4.0	2.9	1.1	6.3	6.9	4.0
野方・大和 (n=209)	62.7	36.8	14.4	8.1	6.7	2.4	0.5	2.9	11.5	5.7	1.4
鷺宮・上鷺宮 (n=235)	64.3	33.6	19.6	7.2	7.7	3.8	3.8	1.7	9.4	8.5	2.6

(6) 近隣住民による見守り活動

◇『受けたいと思う』人は4割

問23 あなたご自身は、自立した生活に不安を感じるようになった時、近隣の住民の方による見守りを受けたいと思いますか。(一つに○)

図9-14 近隣住民による見守り活動

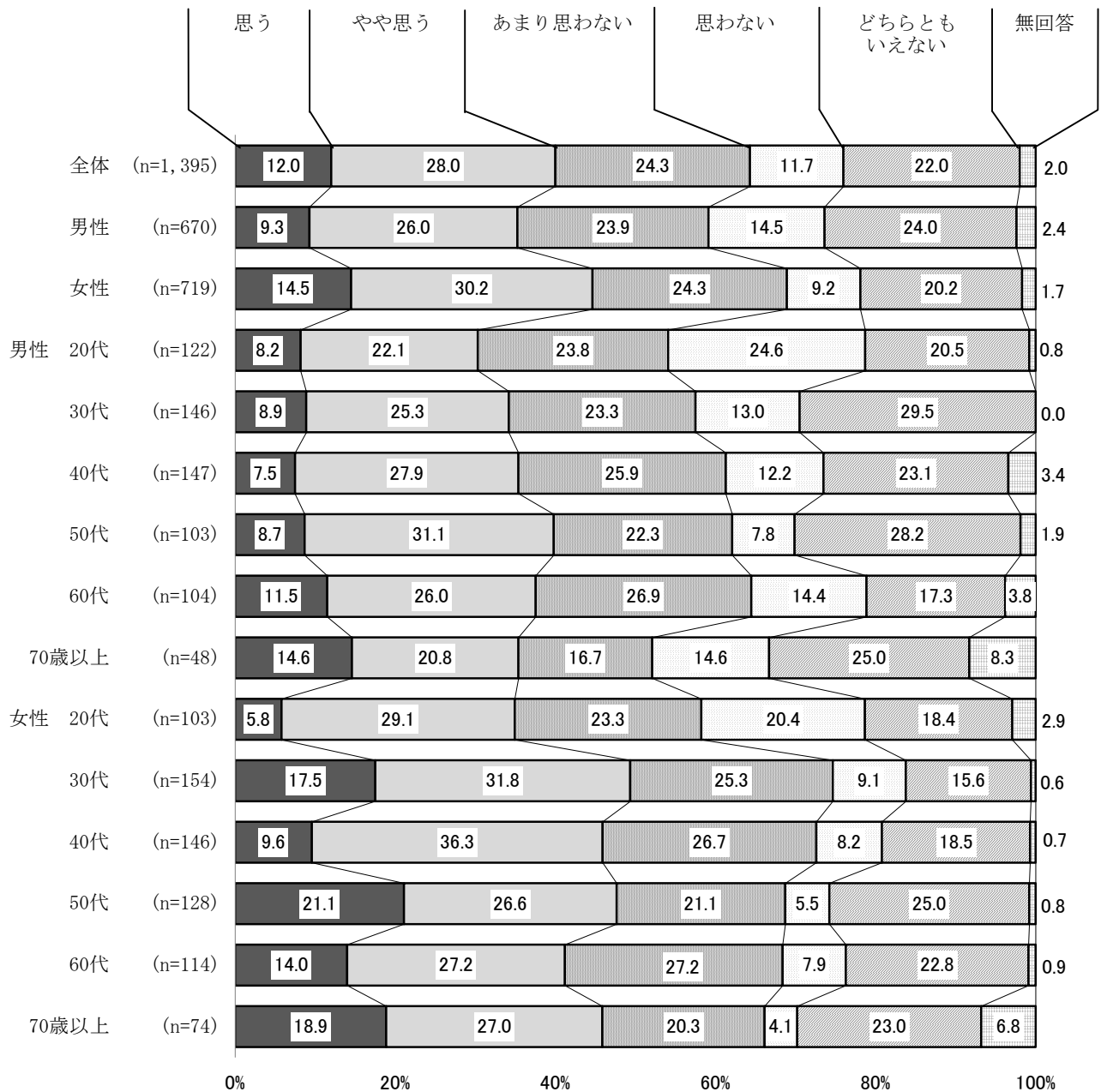


自立した生活に不安を感じるようになった時、近隣の住民の方による見守りを受けたいかどうか聞いたところ、「やや思う」(28.0%)が最も高く、「思う」、「やや思う」を合計した『受けたいと思う』人は4割となっている。一方、「あまり思わない」、「思わない」を合計した『受けたいと思わない』人は3割半ばとなっている。(図9-14)

性別でみると、『受けたと思う』人の割合は、男性35.3%、女性44.7%で女性の方が9ポイント以上高くなっている。

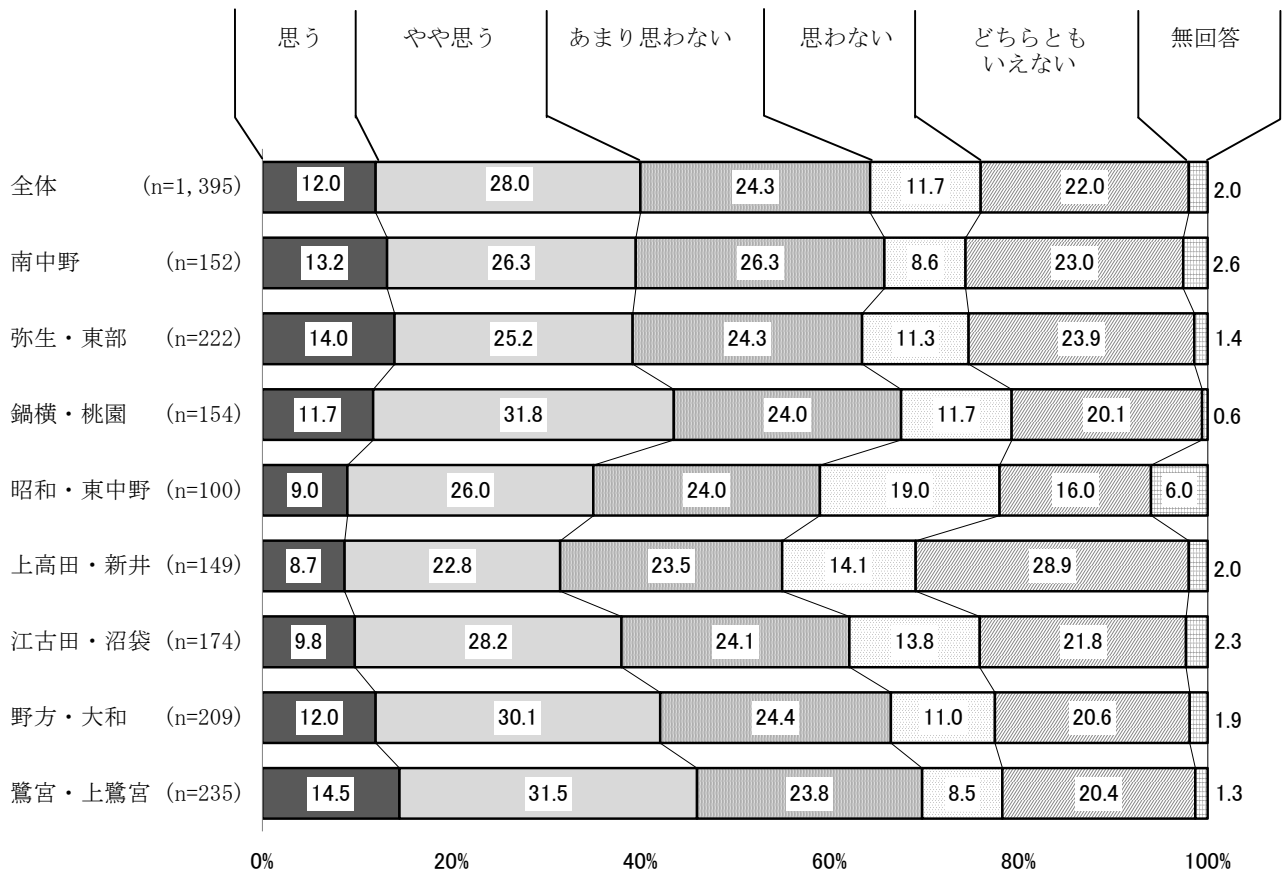
性・年代別でみると、『受けたと思う』人の割合が、男性は50代（39.8%）が最も高く、20代から50代まで年代が上がるにつれ緩やかに高くなっている。一方、女性は30代（49.3%）が最も高く、20代から30代にかけて大幅に高くなっている。（図9-15）

図9-15 近隣住民による見守り活動 性別、性・年代別



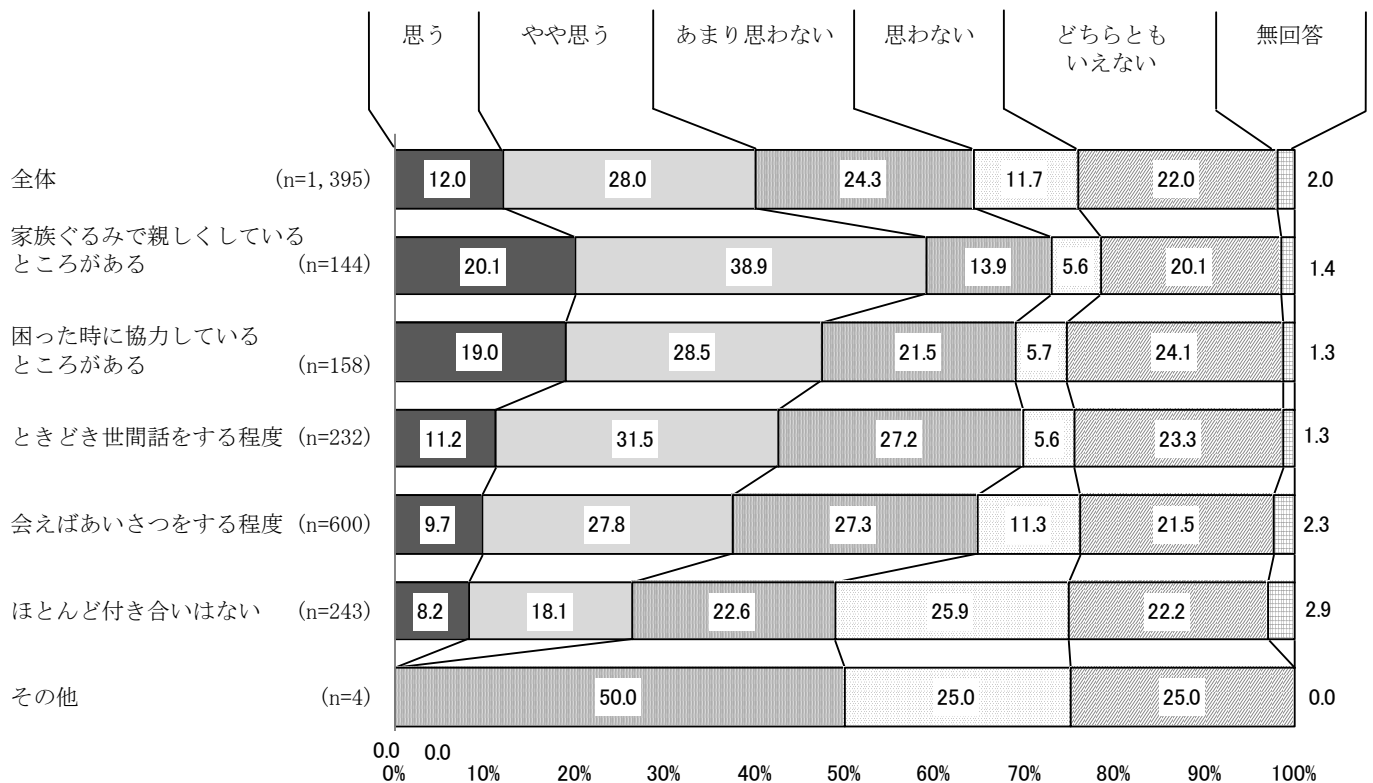
地域別でみると、『受けたと思う』人の割合は、鷺宮・上鷺宮で46.0%と最も高く、上高田・新井の31.5%が最も低くなっている。(図9-16)

図9-16 近隣住民による見守り活動 地域別



問6の近所づきあいの程度別でみると、『受けたと思う』人の割合は、「家族ぐるみで親しくしているところがある」で59.0%と最も高く、「ほとんど付き合いはない」で26.3%と最も低くなっている。また、「会えばあいさつをする程度」と「ほとんど付き合いはない」では、『受けたと思う』人の割合は『受けたと思わない』人の割合を下回っている。(図9-17)

図9-17 近隣住民による見守り活動 問6近所づきあいの程度別



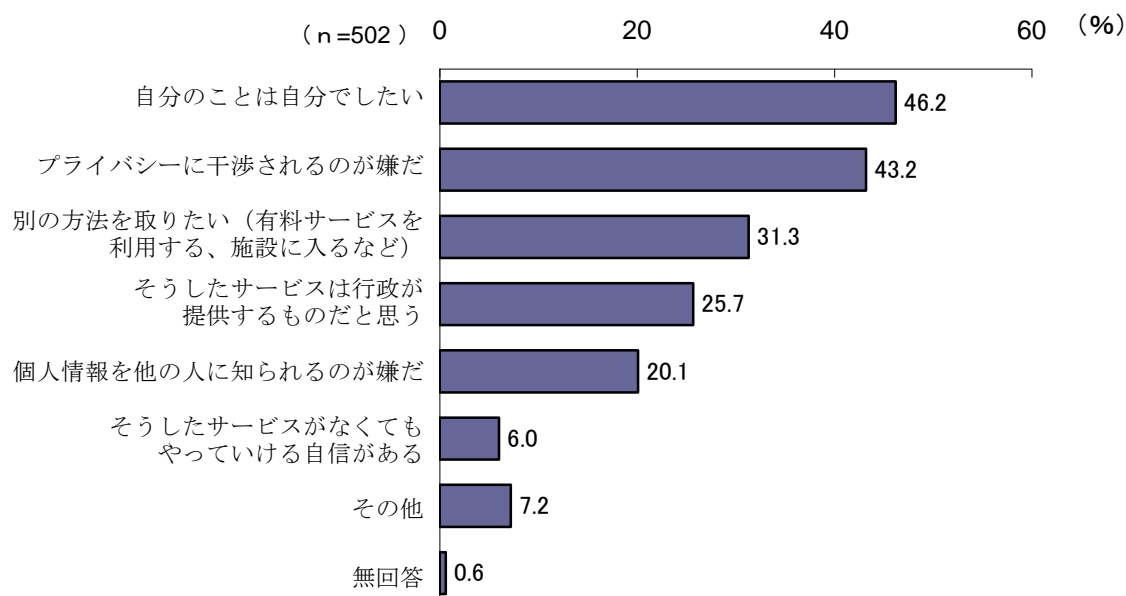
(6-1) 見守りを受けたいと思わない理由

◇「自分のことは自分でしたい」、「プライバシーに干渉されるのが嫌だ」が4割以上

【問23で「3 あまり思わない」「4 思わない」と答えた方に伺います】

問23-1 その理由は何ですか。(いくつでも○)

図9-18 見守りを受けたいと思わない理由



近隣の住民の方による見守りを『受けたいと思わない』人にその理由を聞いたところ、「自分のことは自分でしたい」(46.2%)が最も高く、次いで「プライバシーに干渉されるのが嫌だ」(43.2%)、「別の方法を取りたい(有料サービスを利用する、施設に入るなど)」(31.3%)となっている。(図9-18)

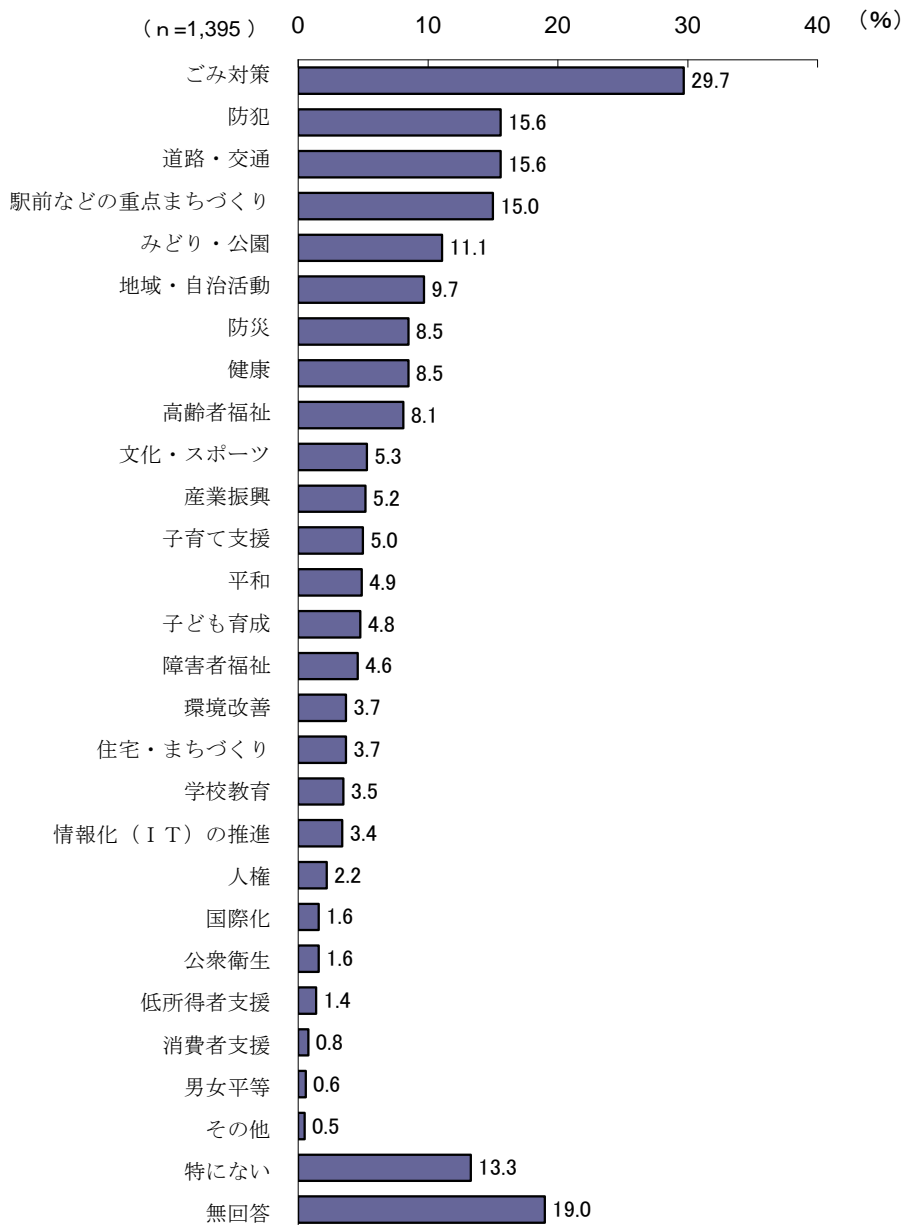
5 施策への要望

(1) 区の施策への評価

◇最も評価されている施策は「ごみ対策」

問24 つぎにあげる施策の中で、中野区が力を入れていると評価できるものを三つ以内で選び、番号を
□内に記入してください。

図10-1 区の施策への評価

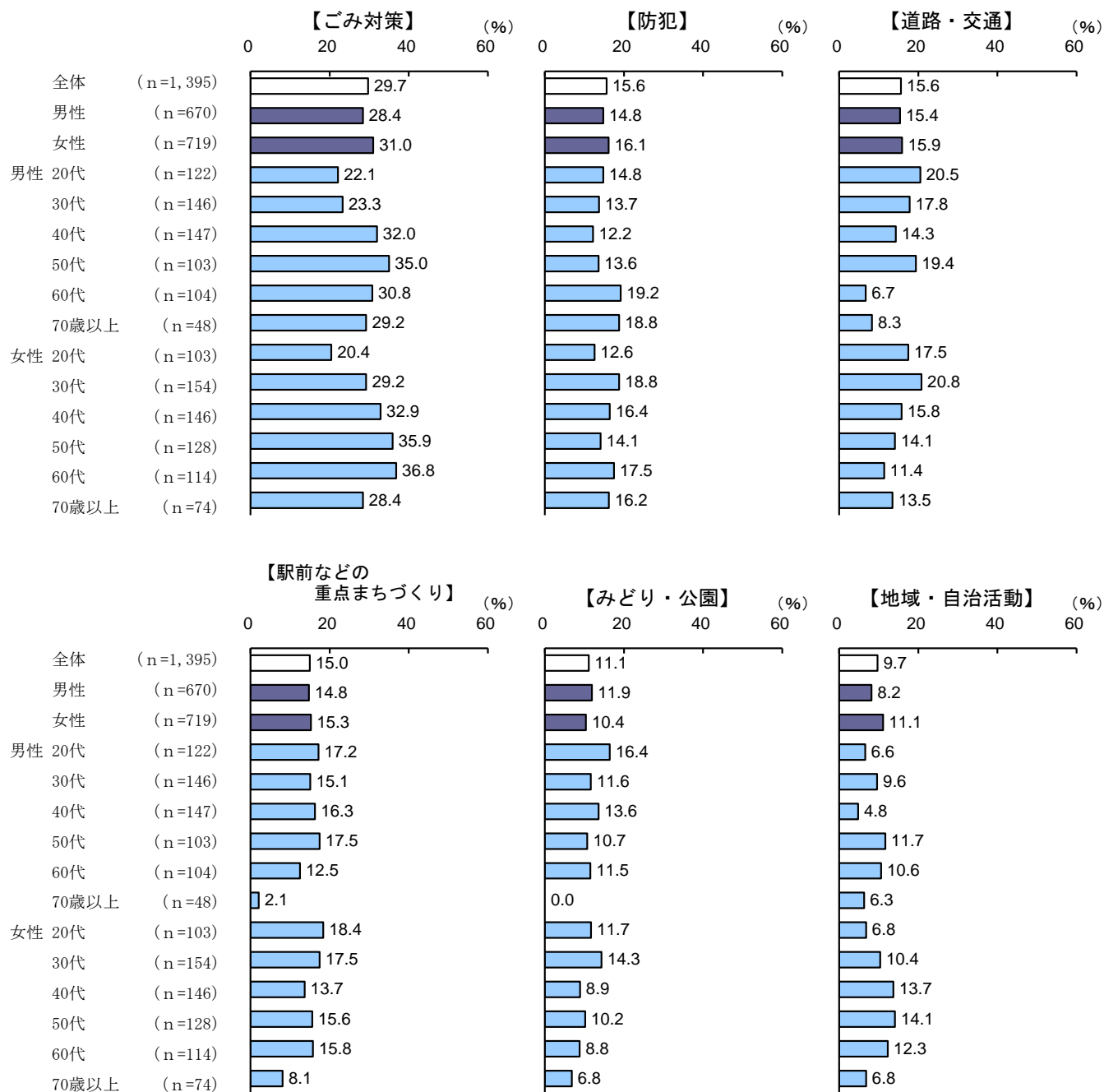


区が力をいれていると評価できる施策を聞いたところ、「ごみ対策」(29.7%)が最も高く、次いで「防犯」と「道路・交通」(ともに15.6%)、「駅前などの重点まちづくり」(15.0%)、「みどり・公園」(11.1%)、「地域・自治活動」(9.7%)となっている。(図10-1)

上位6項目について性別でみると、男女間での大きな差はみられない。

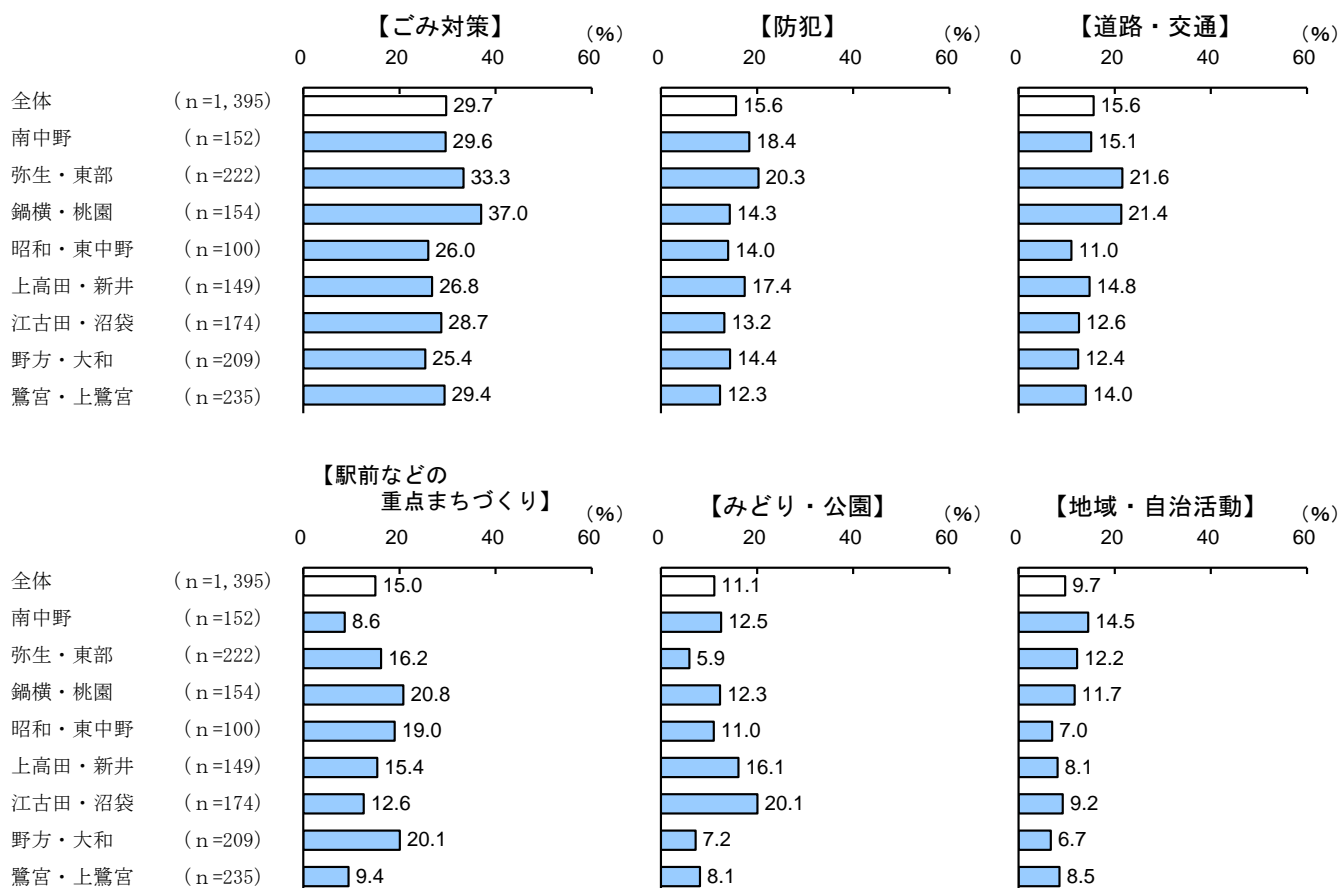
性・年代別でみると、「ごみ対策」では、男性50代（35.0%）、女性50代（35.9%）、女性60代（36.8%）で3割半ばと高くなっている。（図10-2）

図10-2 区の施策への評価 性別、性・年代別（上位6項目）



上位6項目について地域別で見ると、「ごみ対策」の評価は、最も高い鍋横・桃園（37.0%）と最も低い野方・大和（25.4%）で11.6ポイントの差がみられる。また、「道路・交通」でも、弥生・東部（21.6%）と昭和・東中野（11.0%）で10.6ポイント、「駅前などの重点まちづくり」でも、鍋横・桃園（20.8%）と南中野（8.6%）で12.2ポイント、「みどり・公園」でも、江古田・沼袋（20.1%）と弥生・東部（5.9%）で14.2ポイントと地域による差がみられる。（図10-3）

図10-3 区の施策への評価 地域別（上位6項目）

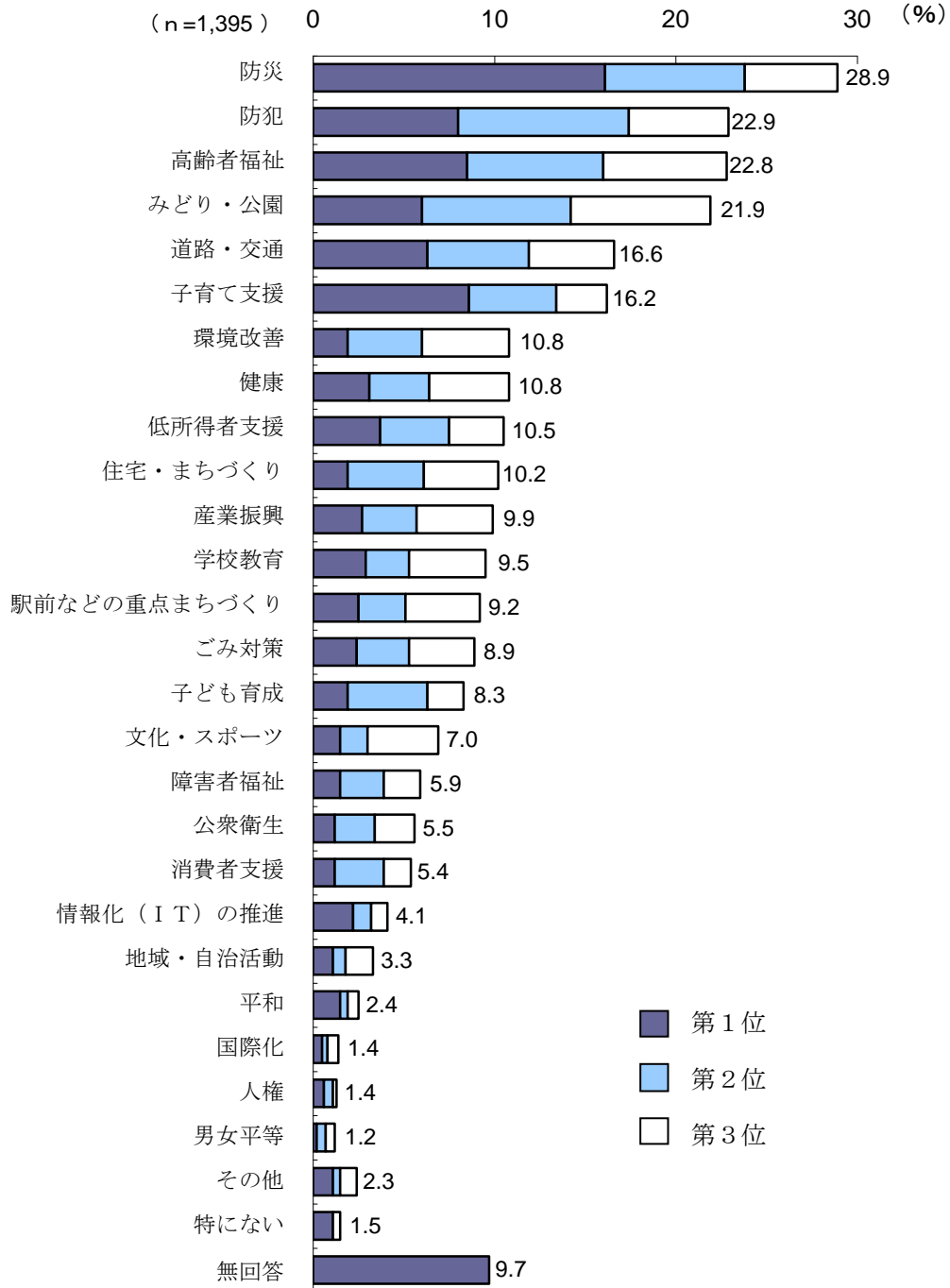


(2) 区の施策への要望

◇今後力を入れてほしい施策は、「防災」、「防犯」、「高齢者福祉」の順

問24 つぎにあげる施策の中で、今後特に力を入れてほしいものを三つ以内で選び、第1位から第3位までの順位をつけて、それぞれの番号を□内につづつ記入してください。

図10-4 区の施策への要望



今後特に力を入れてほしい施策を、1位から3位の順位をつけてあげてもらったところ、その合計では「防災」(28.9%)が最も高く、次いで「防犯」(22.9%)、「高齢者福祉」(22.8%)、「みどり・公園」(21.9%)となっている。(図10-4)

過去10年間の区の施策要望上位6位の推移をみると、前回5位であった「防災」が1位になり、「防犯」、「高齢者福祉」、「みどり・公園」、「道路・交通」がそれぞれ1つずつ順位を落としている。(表10-1)

表10-1 2011(平成23年度)までの区の施策への要望の時系列推移
第1～第3位の合計値による上位6項目

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
2001年 (n=1,122)	高齢者福祉 (45.3)	環境・公害対策 (32.0)	防災対策 (25.3)	省資源施策 (リサイクル等) (20.2)	学校教育 (15.3)	住宅施策 (15.3)
2002年 (n=1,070)	高齢者福祉 (49.2)	環境・公害対策 (31.6)	防災対策 (19.4)	学校教育 (17.5)	住宅施策 (15.4)	省資源施策 (リサイクル等) (12.7)
2003年 (n=1,084)	高齢者福祉 (38.4)	環境・公害対策 (29.6)	防災対策 (27.7)	住宅施策 (14.8)	公園・緑化推進 (14.7)	文化・スポーツ 施策 (13.7)
2004年 (n=1,087)	防犯 (43.6)	高齢者福祉 (25.5)	健康 (24.9)	防災 (20.2)	みどり・環境 (17.6)	平和 (16.8)
2005年 (n=1,064)	防災 (34.5)	防犯 (34.1)	健康 (31.7)	高齢者福祉 (28.8)	子育て支援 (16.8)	ごみ対策 (15.6)
2006年 (n=1,012)	防犯 (39.5)	防災 (33.4)	健康 (28.0)	高齢者福祉 (27.1)	平和 (19.0)	子育て支援 (16.9)
2007年 (n=1,104)	防犯 (28.4)	高齢者福祉 (27.4)	防災 (25.5)	みどり・環境 (18.8)	健康 (15.4)	子育て支援 (13.2)
2008年 (n=887)	高齢者福祉 (26.4)	防災 (26.3)	防犯 (26.0)	みどり・公園 (18.3)	道路・交通 (16.9)	環境改善 (14.9)
2009年 (n=1,019)	防犯 (28.0)	高齢者福祉 (25.7)	みどり・公園 (21.4)	道路・交通 (18.0)	防災 (17.3)	子育て支援 (14.8)
2011年 (n=1,395)	防災 (28.9)	防犯 (22.9)	高齢者福祉 (22.8)	みどり・公園 (21.9)	道路・交通 (16.6)	子育て支援 (16.2)

図10-5 区の施策への要望 順位の変化（上位12項目）

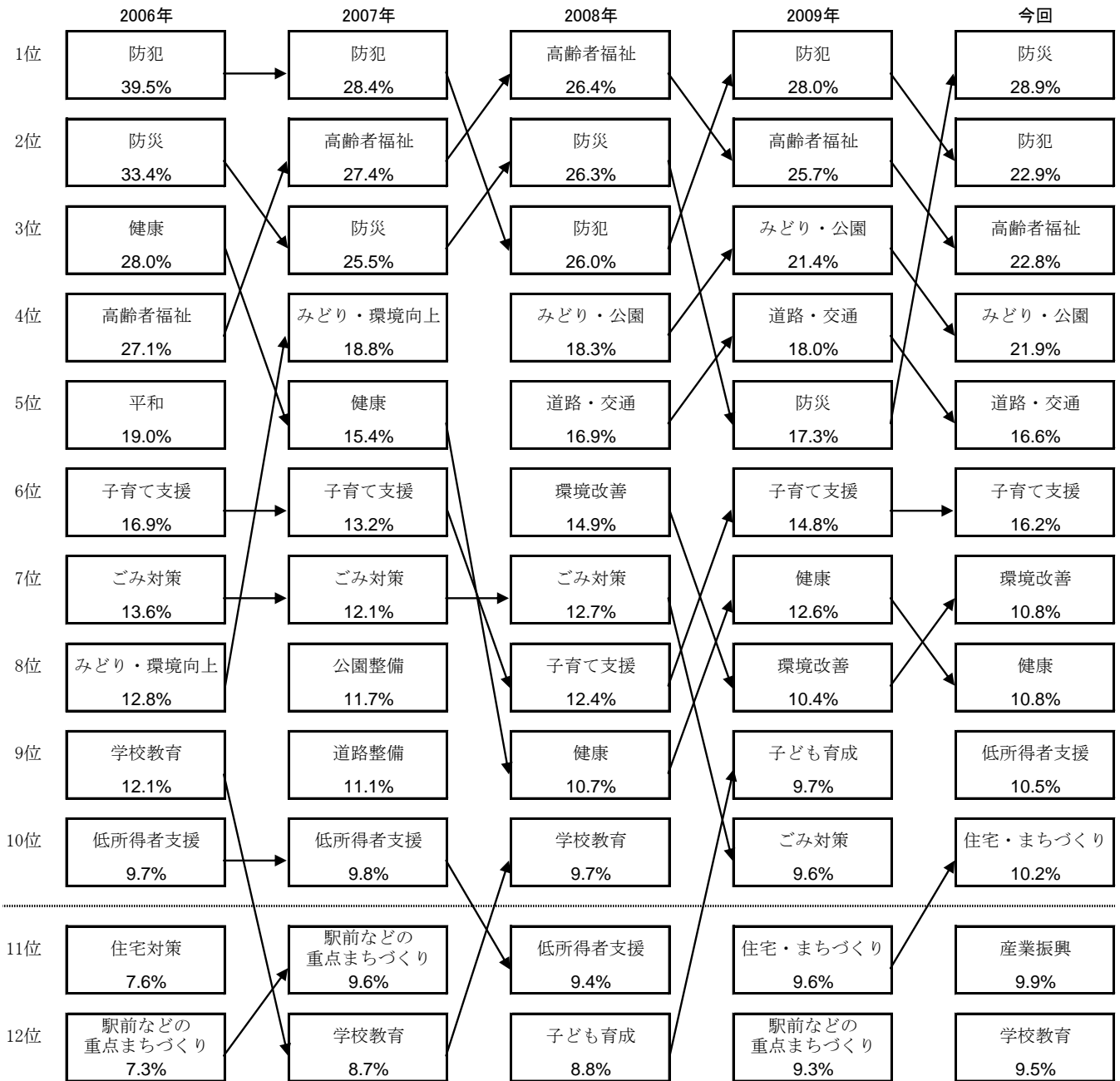


図10-6-① 区の施策への要望 割合の変化

※注意 [] は2007年度までの旧名称

() は2003年度までの旧名称

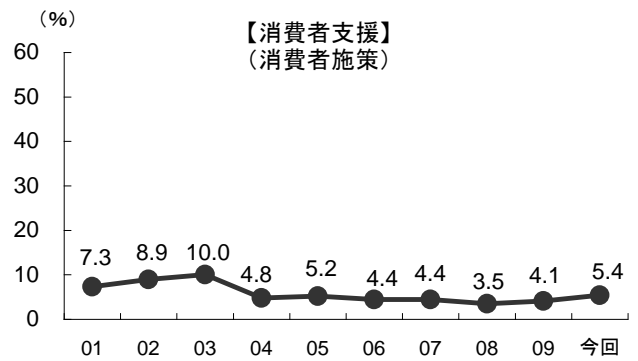
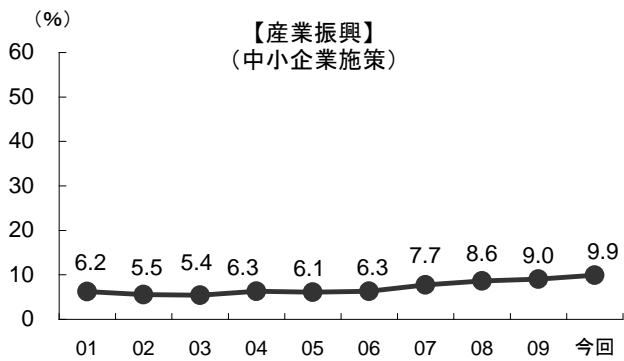
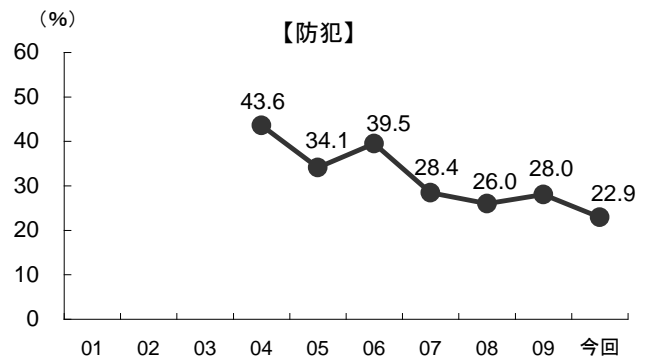
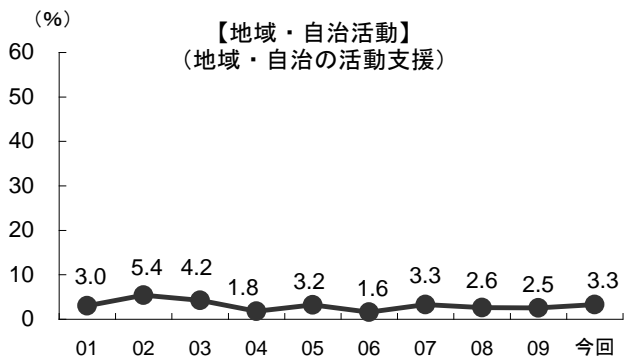
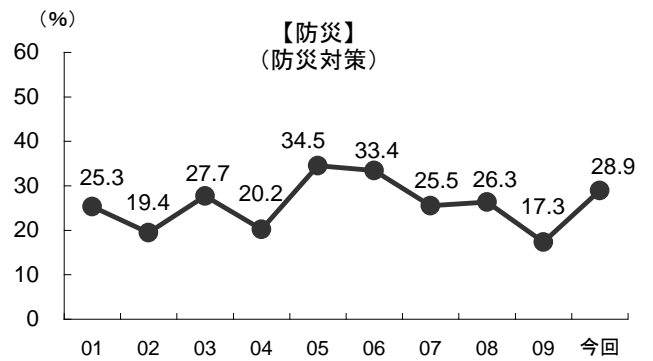
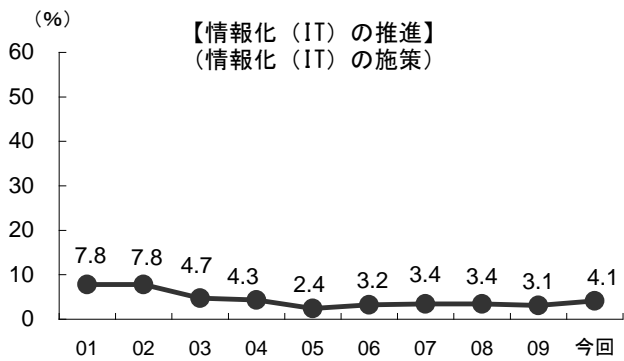
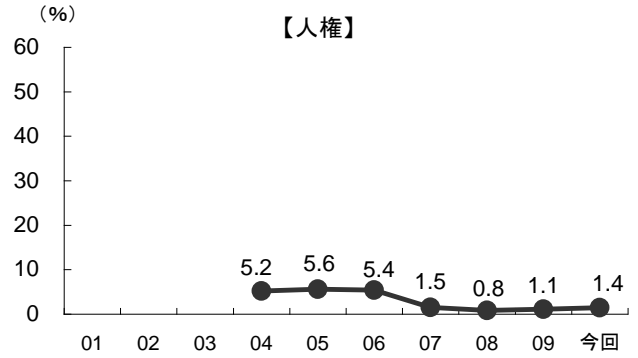
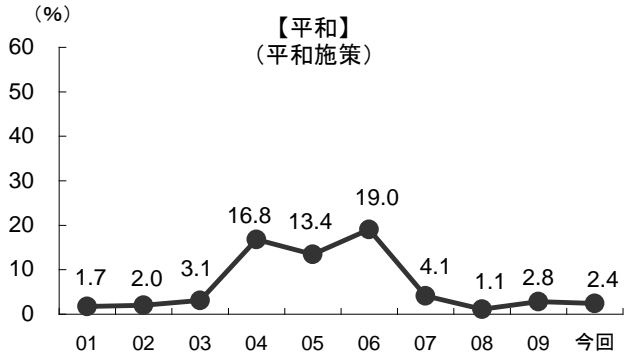


図10-6-② 区の施策への要望 割合の変化

※注意 [] は2007年度までの旧名称

() は2003年度までの旧名称

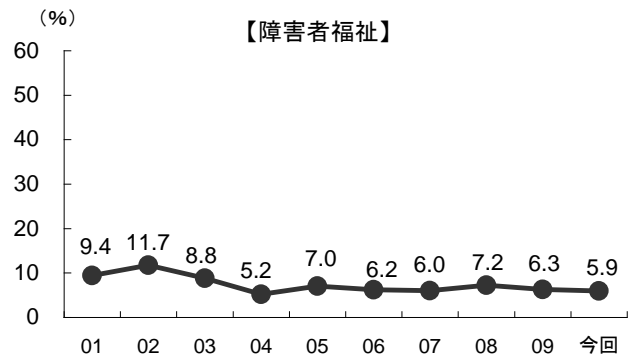
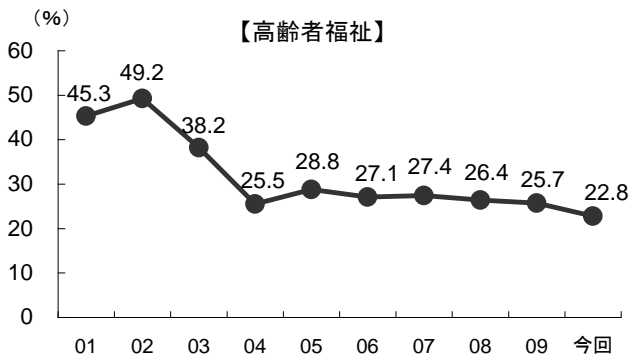
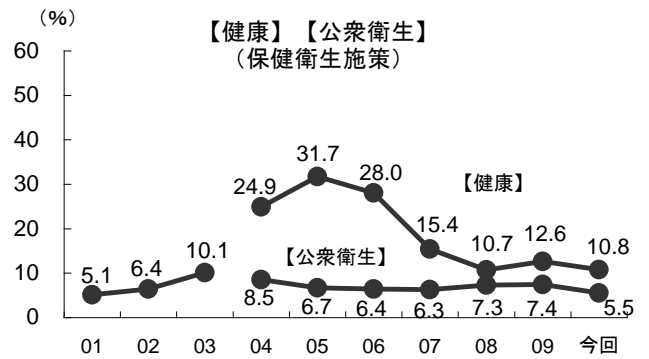
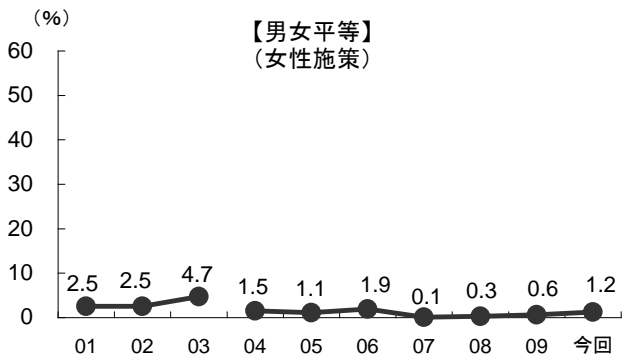
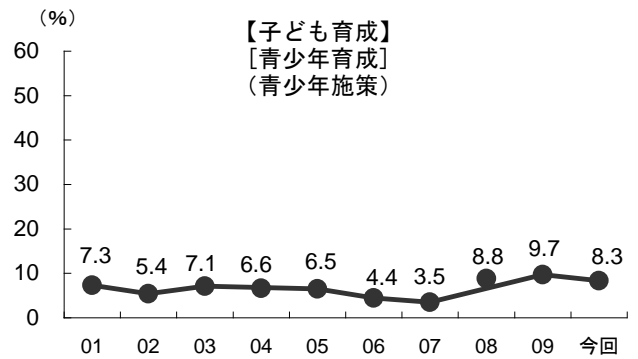
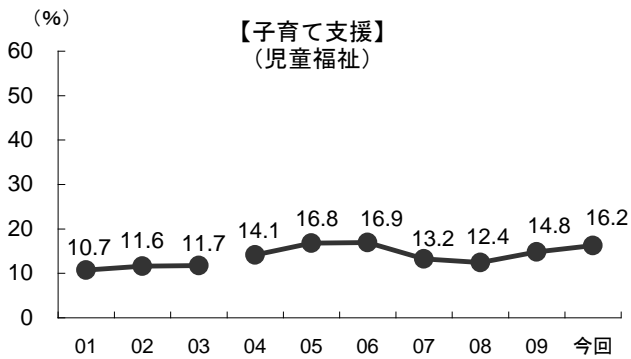
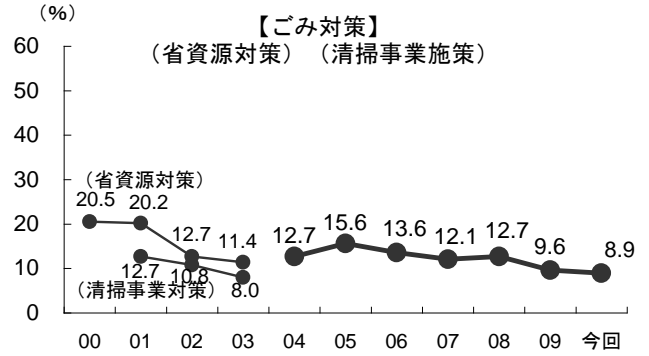
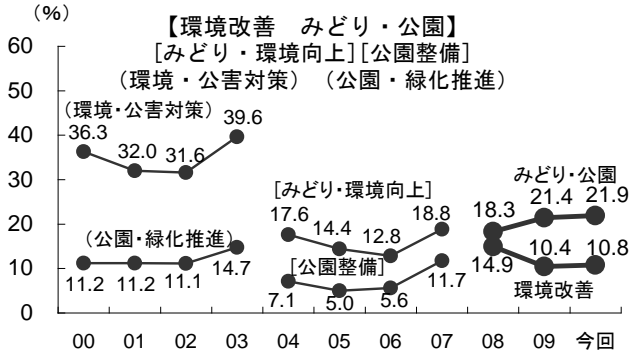
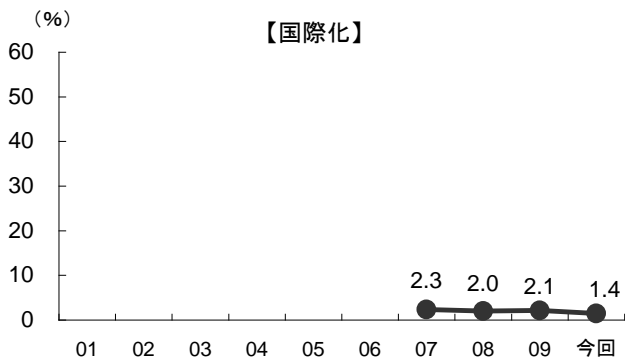
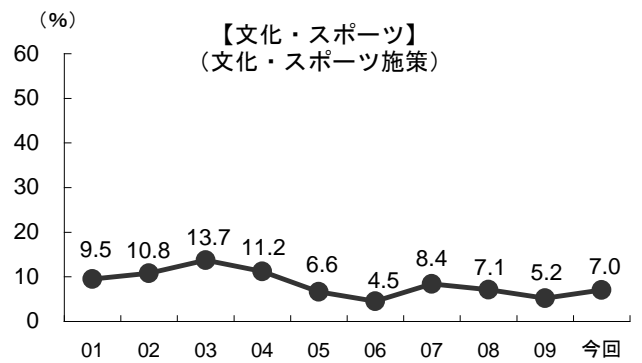
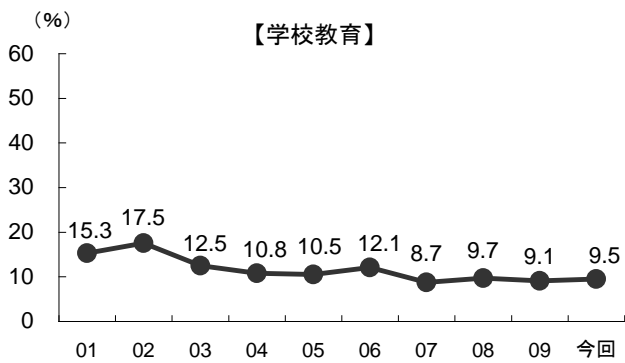
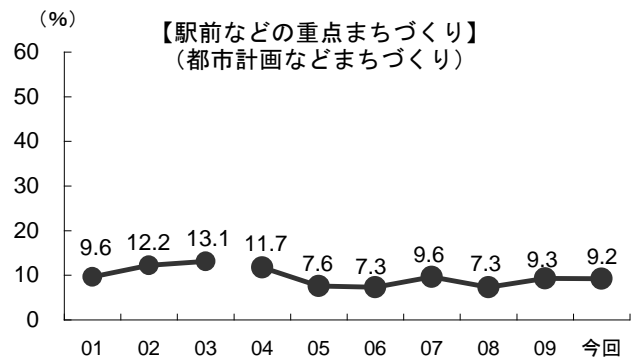
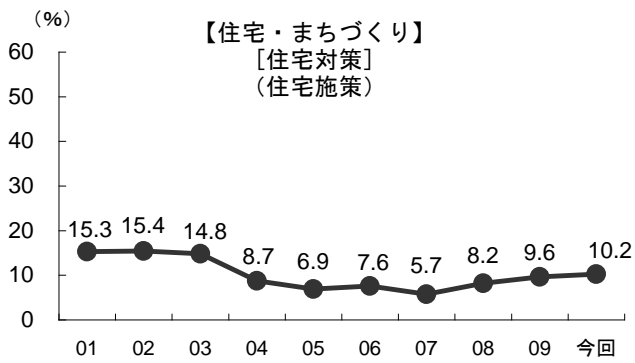
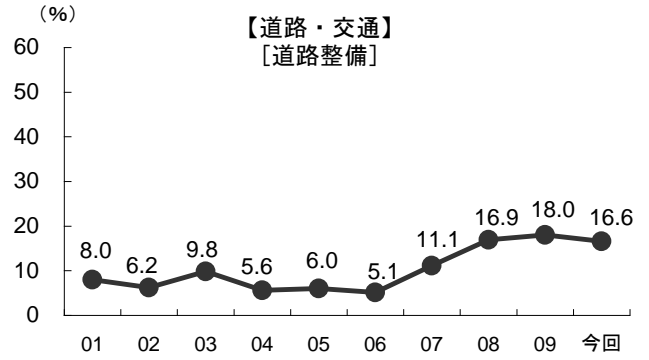
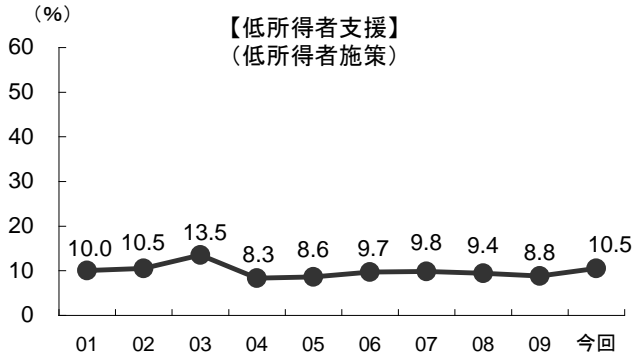


図10-6-③ 区の施策への要望 割合の変化

※注意 [] は2007年度までの旧名称

() は2003年度までの旧名称



上位6項目について性別でみると、男女とも順位に差はあるが同じ施策があげられている。

性・年代別でみると、1位に「防災」が多くあげられている（男性では20代、40代、50代、60代、女性では40代、50代）。その他の年代の1位は、女性20代は「防犯」、男女とも30代は「子育て支援」、男性70歳以上と女性60代、70歳以上はそれぞれ「高齢者福祉」があげられている。（表10-2）

表10-2 区の施策への要望 性別、性・年代別（上位6項目）

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
全体 (n=1,395)		防災 28.9	防犯 22.9	高齢者福祉 22.8	みどり・公園 21.9	道路・交通 16.6	子育て支援 16.2
性別	男性 (n=670)	防災 28.1	みどり・公園 21.5	高齢者福祉 20.0	防犯 19.0	道路・交通 17.6	子育て支援 14.8
	女性 (n=719)	防災 29.8	防犯 26.6	高齢者福祉 25.3	みどり・公園 22.4	子育て支援 17.7	道路・交通 15.4
男性	20代 (n=122)	防災 27.0	みどり・公園 26.2	文化・スポーツ 20.5	道路・交通 15.6	防犯／子育て支援 14.8	
	30代 (n=146)	子育て支援 29.5	防災 24.0	みどり・公園 19.9	道路・交通 19.2	防犯 16.4	駅前などの重点 まちづくり 11.6
	40代 (n=147)	防災 25.9	防犯／みどり・公園 23.8		高齢者福祉 17.7	住宅・まちづくり 17.0	道路・交通 15.6
	50代 (n=103)	防災 34.0	高齢者福祉 31.1	防犯 21.4	みどり・公園 20.4	道路・交通／駅前などの重点 まちづくり 14.6	
	60代 (n=104)	防災 34.6	高齢者福祉 33.7	道路・交通 23.1	防犯／みどり・公園 19.2		低所得者支援 15.4
	70歳以上 (n=48)	高齢者福祉 27.1	防災 22.9	道路・交通 18.8	防犯／ごみ対策 16.7		みどり・公園／ 学校教育 14.6
女性	20代 (n=103)	防犯 35.9	防災 31.1	子育て支援／みどり・公園 17.5		低所得者支援 15.5	健康／道 路・交通 14.6
	30代 (n=154)	子育て支援 37.0	みどり・公園 34.4	子ども育成 28.6	防犯 26.6	防災 24.7	学校教育 13.0
	40代 (n=146)	防災 28.8	防犯 26.7	みどり・公園 25.3	道路・交通 22.6	高齢者福祉 19.9	住宅・ま ちづくり 15.1
	50代 (n=128)	防災 40.6	高齢者福祉 39.1	防犯 28.1	みどり・公園 19.5	道路・交通 17.2	環境改善／ 子育て支援 14.8
	60代 (n=114)	高齢者福祉 38.6	防災 31.6	防犯 21.9	みどり・公園 18.4	環境改善／道路・交通 15.8	
	70歳以上 (n=74)	高齢者福祉 41.9	環境改善 20.3	防災／健康 18.9		防犯 17.6	産業振興 12.2

上位6項目について職業別でみると、順位に差はみられるがすべての職業で「防災」、「防犯」があげられ、「防災」については2位までにあげられている。また、学生では「みどり・公園」が、無職では「高齢者福祉」が1位にあげられている。その他「学校教育」、「子育て支援」、「低所得者支援」、「文化・スポーツ」、「産業振興」など職業別での要望に差がみられる。(表10-3)

表10-3 区の施策への要望 職業別(上位6項目)

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
全体 (n=1,395)	防災 28.9	防犯 22.9	高齢者福祉 22.8	みどり・公園 21.9	道路・交通 16.6	子育て支援 16.2
自営業 (n=166)	防災 31.3	高齢者福祉 22.9	防犯 20.5	みどり・公園 19.9	道路・交通 13.9	子育て支援/ 学校教育 13.3
常勤の勤め人 (n=586)	防災 28.3	みどり・公園 24.7	防犯 23.0	子育て支援 19.5	道路・交通 18.1	高齢者福祉 17.7
パート・臨時・ アルバイト (n=200)	防災 29.5	防犯 25.0	高齢者福祉 21.5	みどり・公園 20.0	低所得者支援 19.0	道路・交通 17.0
学生 (n=43)	みどり・公園 32.6	防災 30.2	低所得者支援 20.9	防犯 18.6	道路・交通/文化・スポーツ 16.3	
家事専業 (n=200)	防災 33.0	高齢者福祉 31.0	防犯 25.0	みどり・公園 23.0	子育て支援 20.0	道路・交通 19.5
無職 (n=164)	高齢者福祉 33.5	防災 20.1	防犯 17.7	みどり・公園 14.0	低所得者支援 13.4	産業振興 11.0
その他 (n=20)	防災/防犯 45.0		高齢者福祉 30.0	地域・自治活動/消費者支援/障害者福祉 15.0		

上位6項目について地域別でみると、順位に差はみられるがすべての地域で「防災」が3位までに、「高齢者福祉」と「防犯」が4位までにあげられている。また、弥生・東部では「住宅・まちづくり」が、鍋横・桃園では「産業振興」が、昭和・東中野では「環境改善」が、江古田・沼袋では「駅前などの重点まちづくり」があげられ、地域による要望に差がみられる。(表10-4)

表10-4 区の施策への要望 地域別(上位6項目)

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
全体 (n=1,395)	防災 28.9	防犯 22.9	高齢者福祉 22.8	みどり・公園 21.9	道路・交通 16.6	子育て支援 16.2
南中野 (n=152)	防災 28.3	みどり・公園 27.0	防犯 25.7	高齢者福祉 18.4	産業振興 17.1	子育て支援 16.4
弥生・東部 (n=222)	防災 29.7	みどり・公園 26.6	高齢者福祉 25.2	防犯 18.9	子育て支援 16.7	住宅・まちづくり 12.6
鍋横・桃園 (n=154)	みどり・公園 27.3	高齢者福祉 24.7	防災 24.0	防犯 23.4	子育て支援 16.2	産業振興/ 道路・交通 15.6
昭和・東中野 (n=100)	防災 29.0	高齢者福祉 27.0	防犯 26.0	みどり・公園 23.0	環境改善 17.0	子育て支援 14.0
上高田・新井 (n=149)	防犯 28.9	防災 24.2	道路・交通 18.1	高齢者福祉 17.4	みどり・公園 16.1	子育て支援 14.8
江古田・沼袋 (n=174)	防災 28.2	道路・交通 25.9	高齢者福祉 23.0	防犯 22.4	子育て支援 16.7	みどり・公園/ 駅前などの重点まちづくり 13.2
野方・大和 (n=209)	防災 36.8	高齢者福祉 21.5	みどり・公園 21.1	防犯 18.7	道路・交通 13.9	子育て支援/ 健康 13.4
鷺宮・上鷺宮 (n=235)	防災 28.1	高齢者福祉 24.7	防犯 23.4	道路・交通 21.7	みどり・公園 21.3	子育て支援 19.6

区の施策への「評価」と「要望」の関係をみるために、「力をいれていると評価できるもの」を横軸に、「今後特に力をいれてほしいもの」を縦軸にとり、25項目とその他の位置をあらわしたのが以下の図である。

この図では、左下に位置するほど「評価」も「要望」も低い施策であることを、反対に図の右上に位置するほど「評価」も「要望」も高い施策であることを意味している。さらに、左上に位置するほど「評価」は低く、「要望」が高い施策であることを、反対に右下に位置するほど「評価」が高く、「要望」が低いことを意味している。

それぞれのカテゴリー別でみると、左上には「防災」、「防犯」、「高齢者福祉」、「みどり・公園」、「道路・交通」、「子育て支援」が位置づけられている。また、右下には、「ごみ対策」のみが位置づけられている。(図10-7)

図10-7 区の施策への評価と要望 散布図

